



Università
Ca' Foscari
Venezia

Corso di Laurea Magistrale
in Lingue, Economie e Istituzioni dell'Asia
e dell'Africa Mediterranea

Classe LM-38

Tesi di Laurea

***L'Okinawa mondai: dalla discriminazione
storica degli okinawani ai loro moderni
problemi sociali ed economici***

Relatore

Ch. Prof. Andrea Revelant

Correlatore

Ch. Prof. Patrick Heinrich

Laureanda

Manon Berthelier

Matricola 852215

Anno Accademico

2019 / 2020

要旨

日本の沖縄県を研究する学者はいわゆる「沖縄問題」の存在を認めている。「問題」という言葉は、県の一般的な状態を含んでいるので、非常に広い意味がある。実際に、沖縄問題は社会的、文化的なテーマに基づく。つまり、日本との、そしてアメリカとの困難な関係の特徴とする沖縄史と結ばれた定義しにくい沖縄人のアイデンティティに基づく。歴史の中で発展してきたこの社会的、文化的な問題は現在でも政治、経済と地政学に強い影響を与える。

沖縄問題の焦点は、「我々は沖縄人なのか、日本人なのか、それとも両方なのか」という重要な疑問にある。沖縄県は日本の一部なので、日本人だという住民の思考は当然であるが、それほど単純な問題ではない。というのは、この疑問は上記の沖縄人の複雑なアイデンティティを表すからである。

第一に、2005年から2007年にかけて、政治学者の林泉忠氏に行われた調査によると、「ご自身のことを沖縄人だと思いますか、それとも日本人だと思いますか？または、沖縄人でも日本人でもあると思いますか？」と聞いたところ、平均37%は「沖縄人」と答え、平均35%は「沖縄人で日本人」と答えた。一方で、「日本人」の回答したものはわずか25%にとどまった。

第二に、若者が自信のことをどのように思うか理解するために、2018年に社会学者の中山リサ氏は沖縄人の若者9人にインタビューを行った。参加者のうち、2人が「沖縄人」と答えた一方で、他の7人は「沖縄人で日本人」と答えた。

したがって、沖縄人であることと日本人であることの間で二分法があるように見える。これは確かに深刻な社会問題であるといえる。

この問題を適切に理解するためには、日本の立場、つまり「日本は同じ言語を話したり同じ伝統を尊重したりする同質の民族のある国である」という19世紀～20世

紀の人種差別主義と植民地主義に影響された視点から分析しなければならない。明治時代（1868年～1912年）に推し進められた「富国強兵」という政策の下、日本の国力をさらに強化するために、国家統一が非常に大切だった。このような状況の中で、日本人が単一民族だという理論に基づいて「日本人論」という研究が始まった。沖縄人が日本人と同じ特徴を持ち、文化も同じであるという主張であり、現在でも日本政府は沖縄人を少数民族として認めないという同様の見解を持っている。したがって、沖縄問題の中心は明治時代から日本が沖縄に対して行っていた人種差別に由来している。

1429年、現在の沖縄本島が統一され、日本から独立した琉球王国となった。中国の朝貢国であり、南東アジアにおける戦略的な位置のおかげで韓国とも貿易を行った。しかし、15世紀から幕府は琉球王国と韓国の直接な交易を禁止し、管理をしてきた。琉球王国が1609年に薩摩藩に侵略された後も、琉球王国はアジアと日本の交易の仲介を行った。というのは、日本は鎖国政策の下で外国との貿易を禁止していたが、日本から独立した琉球王国は中国と貿易ができたからである。

19世紀末に西欧列強がますますアジアに領土を拡張していったので、新たに樹立された明治政府は1879年に旧琉球王国を日本に併合し、沖縄県と呼んだ。日本に単一民族国家であるという理論が生まれた一方で、琉球人は過去約500年間中国と貿易、文化交流も行っていたため、多くの日本人は沖縄県民が日本人ではなく、首都から遠く離れたところにいる非常に野蛮な人々だと考えた。そこで、沖縄人に天皇崇拜と祖国の価値観を教え、完全な日本人にする「日本化」というプロセスが始まった。まず、和服や日本風の髪型を強要し、学校でも公共の場所でも方言の利用を禁止することで日本語教育が強制された。

多くの沖縄県民は日本と同じ経済発展を享受し、自らが被る人種差別をなくすために、初めて日本人になりたいと願うようになった。さらに、19世紀末から1930年代にかけての日本のアジアでの様々な軍事的勝利と拡張のおかげで、沖縄県民の国民的な誇りの気持ちが強まった。

「日本化」と軍国主義の強化は、善良な日本人のように戦争に参加することで天皇への忠誠を証明したいという願望を多くの沖縄県民の中に引き起こした。しかし、日本の世論はいまだに沖縄県民を不誠実と判断し、軽蔑的な「非国民」に分類した

この否定的な意見にもかかわらず、第二次世界大戦中にはその戦略的な位置のため、沖縄はアメリカの祖国侵攻に対する障壁として利用され、日本兵は沖縄県民を酷く扱った。例えば、沖縄県民の土地と避難所を収用し、アメリカ兵に捕まらないように集団自殺に追い込み、方言で話した者は敵のスパイだと非難し死刑にした。沖縄戦（1945年4月～6月）は、アメリカの勝利と15万人の沖縄県民の死亡で終わったが、沖縄県がアメリカの侵略から日本を救ったといえる。

1879年から沖縄県民は差別を受けてきたが、主に日本兵の残虐な行為のために、第二次世界大戦が沖縄県民の歴史上最も悲劇的な出来事となり、沖縄県民の歴史的な記憶の基礎となった。さらに、日本人が市民としての沖縄人に関心がなく、沖縄県の戦略的な位置にしか興味がないことを沖縄人は初めて理解した。

アメリカの日本占領は1945年に始まり、その戦略的な位置のため、アメリカは沖縄を直接的に支配することとなった。自らの存在を正当化するために、アメリカは沖縄県と日本の関係を断ち切ると決めた。つまり、方言で話すことを許可し、「沖縄」から「琉球」という呼び方に変化させ、琉球人としての文化的な特殊性を強調した。しかしながら、沖縄人は米国が沖縄に対し関心がなくことに気付いてきたため、次第にアメリカ軍に対して強い嫌悪感を抱くようになった。事実、米国が優先

したことは沖縄県を広い軍事基地として利用することであった。その結果、環境が破壊され、適切な産業開発が行われず、経済も県民も米軍基地に依存するようになった。

日本人と同じ経済発展と公民権を享受するために、沖縄人は「復帰協」という日本への復帰を願う運動を起こした。しかしながら、日本は1952年に独立を取り戻したものの、沖縄はアメリカに支配され続け、軍事基地の解体は行われなかった。明治時代から差別を受けたにもかかわらず、「復帰協」に対する日本国民の国民的な支持を得るために、沖縄県民は日本人であることを主張し、日本国旗を採用した。

27年間のアメリカによる統治の後、1972年5月15日に日本は沖縄の施政権を取り戻した。しかしながら、住民は満足しなかった。というのは、アメリカが琉球列島に軍事基地を持つ権利を保持していたからである。つまり、沖縄県は日米安全保障条約の中心であり続けた。実際に、1972年には在日米軍専用地域の約59%が沖縄にあった。また、米軍が占領時に収用した私有地がほとんど返還されなかったことに、県民は怒りを感じた。

さらに、沖縄県民が感じた失望により、沖縄では皇室制度のイメージが初めて変わった。つまり、悲劇的な沖縄戦、多数の集団自殺、日本の独立を早く取り戻すためにアメリカに沖縄の施政権を譲ったことは、昭和天皇の責任だと非難したのである。

しかも、1972年以降も沖縄県民は本土の日本人からの差別を受け続けた。例えば、2016年には大阪からの警察官2人が米軍基地で抗議していた沖縄県民を「土人」という非常に軽蔑的な言葉で呼んだ。沖縄県民が差別され続けているのは、日本人の多くが沖縄県民の苦しい過去を知らず、単一民族という理論に疑問を投げかけるハイブリッドなアイデンティティを受け入れようとしないからである。しかしながら、

中高年世代とは異なり、最近の若い沖縄人の大部分は沖縄県が日本に復帰した後で生まれ、沖縄と日本の両方の文化に触れて育ったため、自分のことを沖縄人かつ日本人であると感じている。

アメリカの施政権下の 27 年間、沖縄は戦後の日本の経済発展から取り残された。そのため、1972 年ようやく日本に復帰した際に、沖縄県の経済規模は全国で最も小さかった。実際、米軍基地の建設によって耕地が減少し、第一次産業は弱体化した。また、十分な経済復興政策が実施されなかったために、第二次・第三次産業の強化ができず、県民の大多数が米軍基地関連の仕事に頼らざるを得なかった。

したがって、本土と沖縄県の格差を縮小し、沖縄が自給自足の発展を実現することを目的として 1972 年から 2011 年にかけて 3 つの「沖縄振興開発計画」と一つの「沖縄振興計画」という経済政策が日本政府によって施行された。特に、インフラ・ネットワーク、通信、沖縄の強みである観光が強化され、沖縄県の主要な経済指標である県内総生産や一人当たり所得などが増加した。

一方で、残念ながら、このような近代的な経済発展は環境と社会構造に深刻な悪影響を及ぼした。例えば、海と地産品で成り立っていた自給自足の生活、コミュニティにダメージを与える危険性があるとして、金武湾の住民はタンカーの建設に強く反対した。

それに、沖縄県の経済を日本に依存させた。というのは、弱小の沖縄企業は競争に耐えられず、沖縄県民は新たに進出した本土の企業で働かざるを得なかった。

その後、2012 年に沖縄県は「沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」という 2021 年までの発展計画を策定した。この初の自律的な計画は、住民の願いをもとに、地域製品を生かすことで自然と人間の調和を大切にしながら地域のさらなる発展と自給率の向上を目指す。

最後に、長く日本人が沖縄県民に対して行った差別は、深刻な社会的・経済的な影響を与えてきた。しかしながら、最近沖縄人は日本社会の中で自らのハイブリッドなアイデンティティを主張することに成功しつつあり、自然の美しさと豊かさを生かして良い経済発展を達成することができるようになっていくのではないだろうか。

Abstract

Con il termine *Okinawa mondai*, ovvero “Questione di Okinawa”, gli studiosi indicano la particolare condizione di Okinawa, relazionata al macrosistema rappresentato dal Giappone come stato culturalmente e linguisticamente omogeneo. Originatasi storicamente dalla discriminazione degli okinawani da parte dei giapponesi, la questione si è evoluta nel tempo, intrecciandosi con temi di varia natura.

Lo scopo di questo elaborato è di dimostrare la poliedricità dell’*Okinawa mondai*, analizzando i suoi moderni risvolti in ambito sociale ed economico. Pertanto, in primis si indagherà sulla correlazione tra la loro difficile memoria storica e l’attuale sentimento identitario degli okinawani, usufruendo di sondaggi di opinione condotti tra la popolazione locale. In seguito, attraverso la rielaborazione di dati statistici, verrà esaminata l’efficacia delle politiche governative attuate dal 1972 per cercare di correggere la disparità causata dall’esclusione di Okinawa dallo sviluppo economico postbellico del Giappone.

Indice

INTRODUZIONE	12
CAPITOLO 1. L’OKINAWA MONDAI E LA DISCRIMINAZIONE SOCIALE: GLI OKINAWANI, UN POPOLO DALLA TRAVAGLIATA IDENTITÀ	14
1.1. “SIAMO OKINAWANI, GIAPPONESI O ENTRAMBI?”: IL FULCRO DELL’OKINAWA MONDAI.....	14
1.2. L’IDENTITÀ OKINAWANA, UN ELEMENTO DI DISTURBO ALL’IDEOLOGIA DELL’OMOGENEITÀ ETNICA GIAPPONESE.....	20
1.3. STORIA DEI DIFFICILI RAPPORTI DISCRIMINATORI TRA IL GIAPPONE E OKINAWA DAL XV SECOLO AL 1972.....	24
1.3.1. Primi rapporti tra il Giappone e il Regno delle Ryūkyū: dominio commerciale e annessione al feudo di Satsuma (XV-XVII secolo).....	24
1.3.2. La “nipponizzazione” degli okinawani, un popolo di <i>hikokumin</i> (1879-1941).....	26
1.3.3. Il sacrificio degli okinawani durante la Seconda guerra mondiale (1941-1945).....	33
1.3.4. L’occupazione americana e le discriminazioni (1945-1972).....	37
1.4. IL RITORNO IN GIAPPONE DEI <i>DOJIN</i> : NUOVE FORME DI DISCRIMINAZIONE SOCIALE DOPO IL 1972.....	43
1.4.1. L’insoddisfazione okinawana per il ritorno in Giappone.....	44
1.4.2. Le critiche okinawane al sistema imperiale.....	47
1.4.3. Discriminazione sociale da parte dei giapponesi dagli anni Settanta ad oggi...49	
1.4.4. <i>Okinawa Times</i> e <i>Ryūkyū Shinpō</i> : la stampa locale e le accuse americane di manipolazione.....	51
1.4.5. Le conseguenze del loro passato sulla moderna identità degli okinawani.....	53
CONCLUSIONI.....	58
CAPITOLO 2. IMPLICAZIONI ECONOMICHE DELL’OKINAWA MONDAI DAL 1972 AD OGGI	63
2.1. I QUATTRO PIANI DEL GOVERNO CENTRALE PER RIDURRE LA DISPARITÀ ECONOMICA TRA OKINAWA E IL GIAPPONE (1972-2011).....	63

2.1.1. Il boom economico di Okinawa.....	63
2.1.2. L'altra faccia della medaglia: la distruzione ambientale e sociale di Okinawa.....	76
2.2. SVILUPPO ECOSOSTENIBILE E AUTOSUFFICIENTE: LA VISIONE DEL 21° SECOLO DI OKINAWA (2012-2021).....	82
2.2.1. Problemi economici irrisolti alla vigilia del 2012.....	83
2.2.2. La Visione del 21° secolo di Okinawa: i desideri della popolazione per il futuro della prefettura.....	85
2.2.3. Il progresso economico di Okinawa dal 2012 ad oggi.....	88
CONCLUSIONI.....	101
CONCLUSIONI.....	104
BIBLIOGRAFIA.....	108
GLOSSARIO.....	120
RINGRAZIAMENTI.....	123

Indice Foto

Foto 1 - <i>Hōgen fuda</i>	29
Foto 2 - Pietra angolare della pace, Itoman.....	36
Foto 3 - Okinawani isolati in campi di concentramento.....	39
Foto 4 - Cartello congratulatorio per il ritorno di Okinawa in Giappone.....	44

Indice Figure

Figura 1 - Posizione geografica della prefettura di Okinawa.....	14
Figura 2 - Risposte al quesito “Ti senti okinawano, giapponese o entrambi?”, 2005-2007.....	16
Figura 3 - Risposte al quesito: “Ti senti <i>uchinānchu</i> ?”, 2007.....	17
Figura 4 - Risposte al quesito “Ti sento okinawano, giapponese o entrambi?” (18-25 anni), 2005-2007.....	55
Figura 5 – Risposte al quesito “Usi il ryūkyūano quando parli con le persone?”, 2013-2016-2017.....	56
Figura 6 – Livello di comprensione del ryūkyūano, 2013-2016-2017.....	57

Figura 7 - Budget di promozione di Okinawa, 1972-2011.....	64
Figura 8 - Government final consumption expenditure di Okinawa (GFCE), 1972-2011.....	65
Figura 9 - Occupati okinawani nel settore delle costruzioni e loro percentuale sulla forza lavoro locale, confrontata con quella giapponese, 1972-2011.....	66
Figura 10 - Reddito dell'industria delle costruzioni okinawana e sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, confrontata con la percentuale dell'industria delle costruzioni nazionale sul PIL, 1971-2011.....	66
Figura 11 - Percentuale del reddito da turismo sul reddito prefettizio lordo, 1973-2011.....	67
Figura 12 - Numero di turisti a Okinawa e loro consumo pro capite, 1972-2011.....	68
Figura 13 - Prodotto lordo dei settori secondario e terziario e loro percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 1971-2011.....	69
Figura 14 - Numero di occupati okinawani nei settori secondario e terziario e loro percentuale sul totale degli occupati, 1972-2011.....	69
Figura 15 - Popolazione sopra i 15 anni e forza lavoro di Okinawa, 1972-2011.....	70
Figura 16 - Rapporto medio tra le offerte di lavoro e i richiedenti lavoro del Giappone e di Okinawa, 1972-2011.....	70
Figura 17 - Percentuale del reddito delle basi militari statunitensi sul reddito prefettizio lordo, 1972-2011.....	71
Figura 18 - Indice di capacità finanziaria del Giappone e di Okinawa, 1973-2011.....	71
Figura 19 - Saldo corrente del Giappone e di Okinawa, 1973-2011.....	72
Figura 20 - PIL e prodotto prefettizio lordo, 1971-2011.....	73
Figura 21 - Reddito del Giappone e di Okinawa, 1971-2011.....	73
Figura 22 - Reddito pro capite del Giappone e di Okinawa, 1972-2011.....	74
Figura 23 - Salario mensile medio del Giappone e di Okinawa, 1973-2011.....	74
Figura 24 - Reddito e spese per i consumi delle famiglie lavoratrici okinawane, 1975-2011..	75
Figura 25 - Indice dei prezzi al consumo del Giappone e di Okinawa, 1975-2011.....	76
Figura 26 - Tasso di disoccupazione del Giappone e di Okinawa, 1972-2011.....	78
Figura 27 - Reddito del settore primario e sua percentuale sul prodotto prefettizio, 1956-2011.....	79
Figura 28 - Numero di occupati nel settore primario e loro percentuale sul totale degli occupati, 1972-2011.....	79
Figura 29 - Tasso di crescita economica del Giappone e di Okinawa, 1972-2011.....	84
Figura 30 - Bilancia commerciale del Giappone e di Okinawa, 1972-2011.....	84
Figura 31 - Budget di promozione di Okinawa, 2011-2020.....	85

Figura 32 - Government final consumption expenditure (GFCE) di Okinawa, 2011-2016.....	86
Figura 33 - Tasso di crescita economica del Giappone e di Okinawa, 2011-2017.....	89
Figura 34 - Indice di capacità finanziaria del Giappone e di Okinawa, 2011-2018.....	90
Figura 35 - Saldo corrente del Giappone e di Okinawa, 2011-2018.....	90
Figura 36 - Prodotto lordo del Giappone e di Okinawa, 2011-2017.....	91
Figura 37 - Reddito del Giappone e di Okinawa, 2011-2017.....	92
Figura 38 - Reddito pro capite del Giappone e di Okinawa, 2011-2017.....	92
Figura 39 – Prodotto lordo dei tre settori dell’economia e loro percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 2011-2017.....	93
Figura 40 - Bilancia commerciale del Giappone e di Okinawa, 2011-2018.....	94
Figura 41 - Reddito delle industrie e sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 2011- 2017.....	94
Figura 42 - Reddito del settore delle telecomunicazioni e sua percentuale nel prodotto prefettizio lordo, 2011-2017.....	95
Figura 43 - Reddito del settore turistico e sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 2011- 2017.....	96
Figura 44 - Numero di turisti a Okinawa e loro consumo pro capite, 2011-2017.....	96
Figura 45 – Numero di occupati dei tre settori e loro percentuale sul totale della forza lavoro, 2011-2020.....	97
Figura 46 – Forza lavoro e numero di occupati di Okinawa, 2011-2020.....	97
Figura 47 – Tasso di disoccupazione Giappone e Okinawa, 2011-2020.....	98
Figura 48 – Rapporto medio tra le offerte di lavoro e i richiedenti lavoro di Okinawa, 2011- 2020.....	98
Figura 49 Salario mensile medio del Giappone e di Okinawa, 2011-2016.....	99
Figura 50 - Reddito e spese per i consumi delle famiglie lavoratrici okinawane, 2011- 2018.....	99
Figura 51 - Indice dei prezzi al consumo del Giappone e di Okinawa, 2011-2019.....	100
Figura 52 – Risposte al quesito “Com’è la vostra condizione economica?”, 2012-2018.....	100

Introduzione

Nel macrosistema rappresentato dal Giappone, la prefettura di Okinawa costituisce un caso particolare sotto vari aspetti, tanto che si parla di *Okinawa mondai*, ovvero “Questione di Okinawa”. Lo scopo di questo elaborato è di analizzare le origini storiche dell’*Okinawa mondai* e le loro conseguenze in ambito sociale ed economico. Si tenterà pertanto di accertare l’esistenza di un legame tra la discriminazione a lungo subita dagli okinawani per mano dei giapponesi e due problematiche contemporanee di Okinawa, vale a dire la difficile definizione identitaria e la debolezza dell’economia rispetto al Giappone.

Con questo lavoro si auspica di diffondere nei lettori di lingua italiana la conoscenza generale della situazione odierna di Okinawa, inserendosi di fatto in una letteratura non molto vasta, il cui massimo esempio è rappresentato dall’opera *Il mito dell’omogeneità giapponese: Storia di Okinawa* (Caroli), pubblicata però circa 20 anni fa e quindi non aggiornata agli eventi più recenti. Inoltre, si vuole fornire una visione alternativa dell’*Okinawa mondai*, molto spesso esaminato dagli studiosi internazionali principalmente dal punto di vista del problema con più copertura mediatica, ovvero la massiccia presenza militare americana nella prefettura. Pur essendo un tema di grande rilevanza sia nei rapporti tra Okinawa e il Giappone che in quelli nippo-statunitensi, questo elaborato vuole discostarsi da simile approccio e presentare una panoramica della correlazione tra la storia della prefettura e i suoi problemi sociali ed economici.

L’analisi dell’origine dell’*Okinawa mondai* e delle sue conseguenze sull’identità okinawana è stata effettuata esaminando pubblicazioni sia giapponesi che occidentali, tra cui i sondaggi di opinione condotti da Lim e Nakayama; il saggio di Uema sul nesso tra ideologia etnica e assimilazionismo; la ricerca di Heinrich sul rischio di estinzione del dialetto ryūkyūano; l’analisi di Rabson della discriminazione sociale subita dagli okinawani nel Novecento; lo studio di Masahide sulle caratteristiche dell’occupazione americana di Okinawa; l’indagine del quotidiano *Asahi Shinbun* sulle considerazioni degli okinawani per il ritorno in Giappone nel 1972; l’inchiesta di Hammine sulla difficoltà di essere una minoranza etnica in Giappone.

Lo studio generale delle recenti condizioni economiche locali e nazionali, invece, è stato prevalentemente condotto tramite la rielaborazione di dati statistici forniti dall’Ufficio del Gabinetto e dalla prefettura di Okinawa, esemplificati attraverso l’utilizzo di grafici.

L’elaborato, suddiviso in due capitoli, è strutturato come segue.

Il primo capitolo presenta il fulcro dell’*Okinawa mondai*, ovvero la travagliata identità degli okinawani, che faticano a valorizzare il proprio corredo culturale autoctono, poiché l’ideologia dell’omogeneità etnica giapponese rifiuta di riconoscere l’esistenza di minoranze indigene.

Attraverso lo studio dei difficili rapporti tra Okinawa e il Giappone a partire dal XV secolo, vengono analizzate le origini storiche e gli sviluppi di questa discriminazione sociale, concentrandosi in particolar modo sulla “nipponizzazione” seguita all’annessione al Giappone (1879), sull’enorme sacrificio compiuto dagli okinawani durante la Seconda guerra mondiale e sull’occupazione postbellica americana di Okinawa (1945-1972). Infine, alla luce di questo doloroso passato, vengono esaminate le più recenti caratteristiche dell’identità okinawana, prendendo in esame quella dei giovani, al fine di evidenziare se essi, a differenza dei loro antenati, si sentono maggiormente integrati nella società come giapponesi.

Il secondo capitolo è invece incentrato sulle conseguenze economiche dell’*Okinawa mondai*, ovvero sulle deboli condizioni dell’economia prefettizia alla fine dei 27 anni di dominio postbellico americano. Vengono quindi presi in esame i quattro piani di sviluppo implementati dal governo centrale tra il 1972 e il 2011 allo scopo di ridurre la disparità economica tra Okinawa e il Giappone, mettendo in luce il progresso dei principali indicatori macroeconomici, ma anche la terribile distruzione ambientale e l’indebolimento del tessuto industriale che questa nuova forma di modernizzazione provocò. Infine, si analizza il progresso in chiave ecosostenibile dell’economia dal 2012 ad oggi, realizzato dal governo locale attraverso il Piano di base per la visione del 21° secolo di Okinawa, basato sui concetti fondamentali dell’autosufficienza e del rispetto per la natura.

In ultimo vengono illustrati i risultati della ricerca e forniti consigli per studi futuri.

CAPITOLO PRIMO

L'OKINAWA MONDAI E LA DISCRIMINAZIONE SOCIALE: GLI OKINAWANI, UN POPOLO DALLA TRAVAGLIATA IDENTITÀ

1.1. “Siamo okinawani, giapponesi o entrambi?”: il fulcro dell'*Okinawa mondai*

Okinawa rappresenta una delle 47 prefetture del Giappone. Situata all'estremità sud-occidentale dell'arcipelago nipponico, tra il Kyūshū e Taiwan, è composta dal gruppo delle isole Ryūkyū (Amami, Miyako, Okinawa, Yaeyama)¹. Si estende per circa 2.281 km², pari solamente allo 0,6% della superficie totale del Giappone². La maggior parte della popolazione, pari a circa 1,5 milioni di persone³, risiede sull'isola di Okinawa, centro politico, finanziario e amministrativo della prefettura.

Figura 1 - Posizione geografica della Prefettura di Okinawa



Fonte: <https://images.app.goo.gl/yayN2iSrnjpRVjTY6>

¹ Rosa CAROLI., *Il mito dell'omogeneità giapponese: Storia di Okinawa*, Milano, Franco Angeli, 1999, p. 13

² OKINAWAKEN, “Okinawa no sugata (Kensei gaiyō)”, (Profilo di Okinawa (Sommario delle condizioni prefettizie)), in *Okinawaken*, 05/2020,

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/keikaku/documents/okinawa.pdf>, consultato il 15/07/2020, p. 5

³ Dato aggiornato al primo giugno 2020.

OKINAWAKEN KIKAKUBU TŌKEIKA JINKŌ SHAKAI TOUKEI HAN, “Suikei jinkō”, (Popolazione stimata), in *Okinawaken*, 01/06/2020, https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/estimates/estimates_suikei.html, consultato il 15/07/2020

Nell'analisi della prefettura di Okinawa⁴, molti studiosi, tra cui la professoressa Rosa Caroli, riconoscono l'esistenza del cosiddetto *Okinawa mondai* (沖縄問題), ovvero la "Questione di Okinawa". La parola "questione" assume qui un significato assai ampio, in quanto diventa il denominatore comune della condizione della prefettura. Come vedremo più dettagliatamente in seguito, infatti, l'*Okinawa mondai* evoca prima di tutto temi sociali e culturali, con la travagliata identità degli okinawani, legata indissolubilmente alla loro storia, caratterizzata dai difficili rapporti prima con il Giappone e poi con gli Stati Uniti. A completare le facce del prisma metaforicamente rappresentato dall'essenza di Okinawa vi sono questioni politiche, economiche e geopolitiche⁵.

Di conseguenza, pur collegandosi a temi di varia natura, che mutano con il passare del tempo, il fulcro dell'*Okinawa mondai* può essere individuato in una particolare domanda: "Siamo okinawani, giapponesi o entrambi?". Essendo la prefettura parte del Giappone, viene naturale pensare che i suoi abitanti siano a tutti gli effetti giapponesi, ma, come sarà dimostrato in seguito, non è un discorso così semplice. Infatti, questo quesito rappresenta il lungo percorso degli okinawani di definizione di sé, perno della questione di Okinawa. Pertanto, per comprenderne meglio l'importanza risulta molto utile analizzare le caratteristiche dell'identità okinawana nel XXI secolo, prendendo in esame due sondaggi di opinione relativamente recenti.

Il primo tra questi è stato condotto dal politologo John Chuan-tiong Lim tra il 2005 e il 2007, con lo scopo di mettere in luce il rapporto degli okinawani con la società giapponese⁶. L'inchiesta, riservata ai cittadini di Okinawa di almeno 18 anni, ha visto 1029 partecipanti nel 2005, 1200 nel 2006 e 1201 nel 2007⁷.

La prima domanda di fondamentale importanza per questo studio è "Ti senti okinawano, giapponese o entrambi?". È possibile evidenziare che non vi era particolare differenza di opinione tra il sentimento okinawano e quello ibrido, che si sono alternati al vertice nei tre anni del sondaggio, raggiungendo rispettivamente una media del 37% e del 35%. Al contrario, relativamente pochi hanno risposto di sentirsi giapponesi, precisamente con una media del 25%, ovvero ben 12% in meno di coloro che affermavano di essere okinawani (Figura 2).

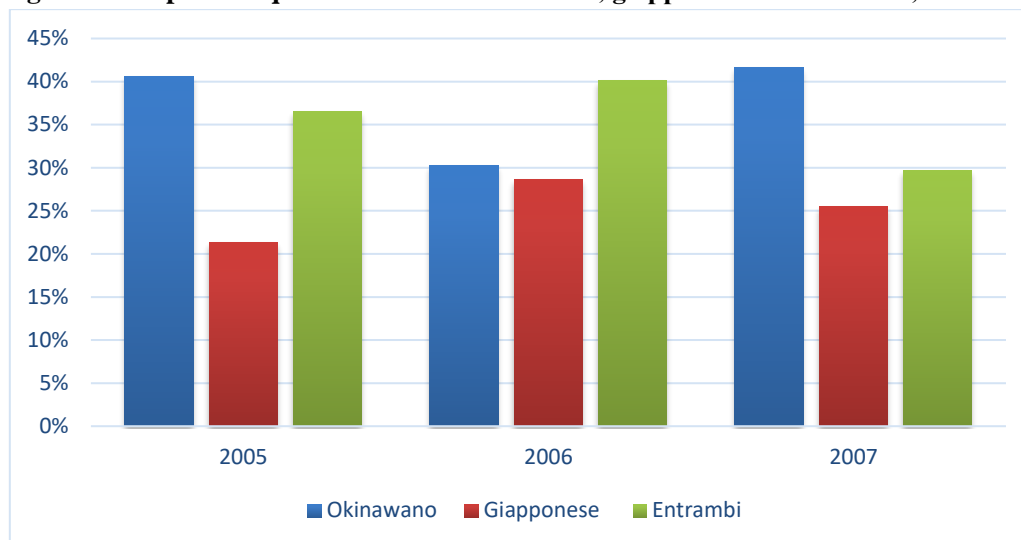
⁴ Di seguito denominata solamente "Okinawa" o "prefettura"

⁵ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 1

⁶ LIM John Chuan-Tiong, "Okinawa jūmin no aidentiti chōsa (2005-nen ~ 2007-nen)", (Indagine sull'identità dei residenti di Okinawa (2005-2007)), *Seisaku kagaku · kokusai kankei ronshū*, 11, 03/2009, <http://hdl.handle.net/20.500.12000/10367>, p. 8

⁷ LIM, "Okinawa jūmin...", cit., p. 10

Figura 2 - Risposte al quesito “Ti senti okinawano, giapponese o entrambi?”, 2005-2007



Fonte: <http://hdl.handle.net/20.500.12000/10367>, p. 17

Un ulteriore quesito utile alla comprensione dell'identità okinawana è: “Ti senti *uchinānchu*?”. Il termine *uchinānchu* (沖縄人), proprio del linguaggio locale, significa letteralmente “persona di Okinawa”, in contrapposizione a *yamatunchu* (大和人), “persona giapponese”⁸. Tuttavia, in senso lato indica tutto il corredo storico-culturale di Okinawa, dall'arte alla lingua, dalla musica alla cucina. Così, chiedendo ad un okinawano se si sente *uchinānchu*, non lo stiamo semplicemente interrogando sulla sua identità (locale/nazionale), bensì vogliamo sapere se conosce le sue origini e se ne è orgoglioso. Infatti, in merito alla definizione del concetto di identità okinawana, Murphy-Shigematsu Stephen, docente presso l'Università di Stanford, scrive che

Etnia significa a quale gruppo appartengo per via dell'attaccamento alle mie radici culturali, ai miei valori etnici e alla storia del mio popolo⁹.

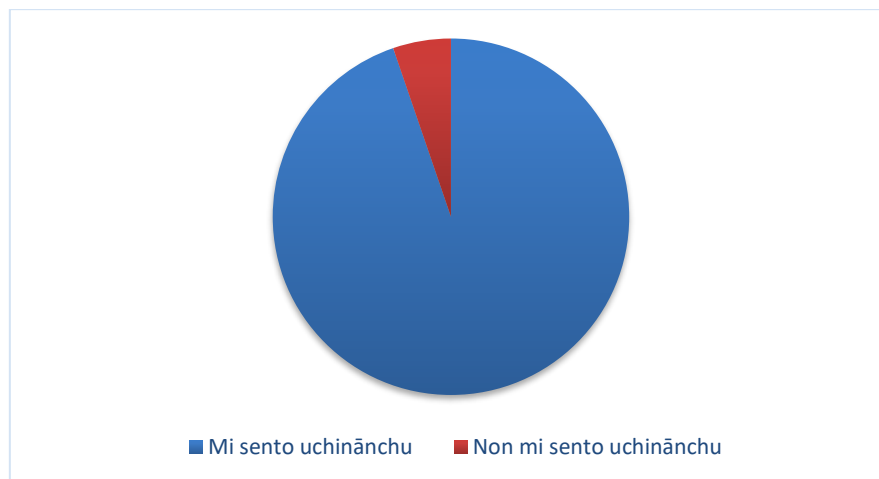
Nel 2007 la maggioranza degli intervistati si considerava *uchinānchu*, con ben 94%, mentre solo il 5% affermava il contrario (Figura 3). Questi dati, quindi, rafforzano ulteriormente il

⁸ Michael MOLASKY, “Medoruma Shun – The Writer as Public Intellectual in Okinawa Today”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, formato Kindle, p.163

⁹ MURPHY-SHIGEMATSU Stephen, “Okinawa seinen no aidentiti no bunkiten”, (Il bivio dell'identità giovanile di Okinawa), *Tōkyō joshi daigaku hikaku bunka kenkyūjo*, 44, 1, 11/1997, <https://www.academia.edu/9966166/%E6%B2%96%E7%B8%84%E9%9D%92%E5%B9%B4%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%87%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%81%AE%E5%88%86%E5%B2%90%E7%82%B9>, p. 3

concetto secondo il quale agli inizi del XXI secolo gli okinawani sentissero ancora una forte appartenenza alla propria identità locale e a tutto ciò che essa comporta a livello culturale.

Figura 3 - Risposte al quesito: “Ti senti *uchinānchu*?”, 2007



Fonte: <http://hdl.handle.net/20.500.12000/10367>, p. 19

Il secondo sondaggio analizzato è stato condotto nel 2018 da Nakayama Risa, alumna presso la Soka University of America. Attraverso l'intervista diretta di nove giovani okinawani nati tra il 1992 e il 1996, la studiosa mira a comprendere, prima di tutto

how Okinawan youth identify themselves, what factors go into their identification process¹⁰.

Riguardo alla visione di sé, solo due dei partecipanti (pari al 22%) si sono identificati come okinawani, mentre gli altri sette (78%) si consideravano sia giapponesi che okinawani. Tra questi ultimi, tre (33%) hanno sostenuto che fosse però più forte la componente okinawana¹¹.

Tuttavia, a livello generale è doveroso sottolineare che molti okinawani non hanno mai viaggiato o vissuto fuori dalla prefettura, principalmente a causa della distanza geografica e dei conseguenti alti costi di trasporto. Questo rende spesso loro difficile entrare veramente in contatto con la cultura giapponese e identificarsi in essa. Nakayama stessa racconta che

Until I lived in Osaka, I did not understand snow references or train references in literature or song lyrics because I did not know what snow felt like or what a fast-moving train sounded like while I was in Okinawa¹².

¹⁰ Risa NAKAYAMA, "Okinawan Youth –Identity, Education and Development", (Tesi Triennale, Soka University of America, 2018), https://www.academia.edu/37339125/Okinawan_Youth_Identity_Education_and_Development, consultato il 16/06/2020, pp. 46-48

¹¹ NAKAYAMA, "Okinawan Youth...", cit., p. 51

¹² NAKAYAMA, "Okinawan Youth...", cit., p. 58

Chi, invece, ha fatto esperienze fuori da Okinawa ha naturalmente una visione più ampia e nitida della propria personalità. Uno degli intervistati, infatti, ha raccontato di aver capito di sentirsi okinawano vivendo all'estero, in quanto gli stranieri non credevano che fosse veramente giapponese per via di alcuni suoi tratti caratteriali definiti inusuali, come

his tendency to “be frank and open with anyone,” “to be easy-going,” and “to not be too shy with strangers”¹³.

Anche un altro dei partecipanti al sondaggio ha preso coscienza della propria identità locale grazie al contatto con gli stranieri, poiché questi ultimi, basandosi sulle sue peculiari caratteristiche fisionomiche, mettevano in dubbio il fatto che provenisse dal Giappone, pensando invece che arrivasse dall'America meridionale o dal Sud-est asiatico¹⁴.

Gli intervistati non solo sono consapevoli di essere okinawani, ma, come sostiene Nakayama,

Okinawan culture and traditions are deeply ingrained into Okinawan youth's consciousness¹⁵.

In effetti, tre di loro hanno dichiarato di saper suonare lo *sanshin* (三線), uno strumento a corde tipico di Okinawa, grazie agli insegnamenti dei propri familiari o di scuole specializzate. Inoltre, in generale vengono ancora rispettate varie tradizioni, come ad esempio il culto degli antenati.

L'elemento centrale dell'identità locale è senza dubbio il mare cristallino di Okinawa, senza eguali in Giappone e che, come verrà approfondito più avanti, ha da sempre uno stretto legame con la popolazione. Uno dei partecipanti ha infatti sostenuto che

I think I don't want to live in a place that does not have the ocean. [...] When I was in Bolivia for two months, because there is no ocean, the kinds of fish they eat were different too. Maybe even on the mainland, I probably cannot live without the ocean nearby¹⁶.

Questo profondo amore per il proprio oceano viene espresso chiaramente dal gruppo musicale okinawano Begin nella famosa canzone del 2002 *Shimanchu nu takara* (島人ぬ宝), che in dialetto locale significa “Il tesoro degli isolani”. Essa racconta di giovani che si trasferiscono nella madrepatria ma portano sempre nel cuore la cultura di Okinawa¹⁷. Sulle note dello *sanshin*, infatti, recita

Quanto conosco / Il mare di quest'isola in cui sono nato? / Non saprei cosa fare / Per il corallo inquinato e per il pesce che diminuisce / Ma conosco più di chiunque altro / Ricoperto di sabbia

¹³ NAKAYAMA, “Okinawan Youth...”, cit., p. 58

¹⁴ NAKAYAMA, “Okinawan Youth...”, cit., pp. 51-52

¹⁵ NAKAYAMA, “Okinawan Youth...”, cit., p. 54

¹⁶ NAKAYAMA, “Okinawan Youth...”, cit., p. 55

¹⁷ Mike KATO, “Begin: Shimanchu nu Takara (Treasures of the Island People)”, in *Watch Japan*, 16/02/2012, <https://watchjapan.wordpress.com/2012/02/16/begin-shimanchu-nu-takara-treasures-of-the-island-people/>, consultato il 17/06/2020

e scosso dalle onde / Questo mare che cambia a poco a poco / Non può essere proiettato in TV e nemmeno passato in radio / Sono sicuro che le cose importanti siano qui / Questo è il tesoro degli isolani¹⁸.

In altre parole, solo gli okinawani conoscono veramente il loro mare, poiché non si tratta di una conoscenza scientifica, o scolastica, bensì legata alla sfera emotiva. Questa preclusione sottintende implicitamente che chiunque non provenga da Okinawa non sia capace di provare lo stesso tipo di emozioni, evidenziando così un discorso più ampio di differenze culturali. Infatti, vivere all'estero o studiare nella madrepatria, spesso in grandi città come Tōkyō, ha permesso a questi giovani anche di imparare ad amare la propria terra, percependo le sue caratteristiche e mettendole a confronto con quelle del Giappone e dei suoi abitanti. Così, a detta di diversi intervistati, gli okinawani sono meno formali, più calorosi, disponibili e amichevoli dei giapponesi¹⁹.

Secondo Agarie Nariyuki, docente presso l'Università Meio, gli okinawani hanno valori peculiari come la fondamentale importanza attribuita alla vita e la solidarietà, che mettono in luce

lo strato superiore dell'identità di Okinawa. [...] è la parte che emerge quando ci concentriamo sulle differenze rispetto alle altre culture²⁰.

Nel profondo, invece, essi sono caratterizzati da

valori, ideali e atteggiamenti ampiamente condivisi nella società umana [...]. Il pacifismo, il rispetto dei diritti umani, la coesistenza e la conservazione degli ecosistemi, il multiculturalismo, [...] l'eliminazione della discriminazione, della coercizione e della disuguaglianza²¹.

Il Professore sostiene che gli okinawani diano molto peso alle proprie caratteristiche peculiari anche nei rapporti interpersonali, poiché per loro

“è molto importante chiarire se una persona che incontrano per la prima volta venga da Okinawa o da un'altra prefettura. Una volta che [...] viene identificata come proveniente da Okinawa, le differenze regionali e di altro tipo diventano quasi impercettibili. Non appena si scopre che viene da un'altra prefettura, la consapevolezza della differenza diventa maggiore della reale differenza e non ha importanza se quella persona è originaria della prefettura di Aomori o di Yamaguchi”²².

¹⁸ Traduzione propria del testo della canzone, reperibile presso: KATO, “Begin: Shimancho...”, cit.

¹⁹ NAKAYAMA, “Okinawan Youth...”, cit., pp. 52-53

²⁰ AGARIE Nariyuki, “Aidentiti no yakuwari to kanōsei”, (Il ruolo e il potenziale dell'identità), in *Taiwan International Studies Association*, <http://www.tisanet.org/okinawa/1.htm>, consultato il 20/06/2020

²¹ AGARIE, “Aidentiti no...”, cit.

²² UEMA Sōichirō, “Kindai wagakuni no dōka shugi to Okinawa no minzoku shisō – ‘Okinawa-gaku’ ni kansuru shakaishiteki kōsatsu”, (Assimilazionismo e ideologia etnica di Okinawa nel Giappone moderno – Ricerca storico-sociale sugli “Studi di Okinawa”), *Ōyō shakaigaku kenkyū*, 49, 2007,

Questa visione omogenea deriva dal fatto che

“Le cose vicine sono percepite più vicine rispetto a quanto lo siano in realtà, mentre le cose diverse vengono percepite come più diverse dalla realtà. Ciò è legato alla grande distanza potenziale che si trova tra la terraferma e Okinawa”²³.

In conclusione, è possibile affermare che negli anni più recenti la maggior parte degli abitanti di Okinawa non si reputi giapponese, ma si attribuisca piuttosto un’identità ibrida oppure *uchinānchu*, definita da caratteristiche uniche. Sembra quindi esistere una dicotomia tra l’essere giapponese e l’essere okinawano, come se il primo non avesse validità senza l’esistenza del secondo. Come sottolineato in precedenza, infatti, il centro dell’*Okinawa mondai* risulta proprio nella difficoltà della popolazione prefettizia a definire sé stessa, ovvero a trovare il proprio posto all’interno del sistema culturale nazionale.

Vale a dire, può un’entità locale mantenere le sue peculiarità senza essere estromessa dal quadro generale? Infatti, l’impossibilità degli okinawani a rappresentarsi solamente come giapponesi, senza pertanto dover mettere in rilievo la loro provenienza, indica che vi sia un problema sociale di fondo molto complesso.

1.2. L’identità okinawana, un elemento di disturbo all’ideologia dell’omogeneità etnica giapponese

Per comprendere adeguatamente questo problema, è necessario analizzarlo dal punto di vista della visione che il Giappone ha di sé, ovvero uno Stato composto da un popolo etnicamente omogeneo, che parla lo stesso idioma e rispetta gli stessi costumi²⁴. Secondo Laura Hein e Mark Selden questa tesi fu influenzata dalle teorie razziali e dal colonialismo²⁵, due aspetti caratteristici dell’Occidente a cavallo tra il XIX e il XX secolo, che possiamo collegare alla storia giapponese.

In effetti, dopo aver adottato la politica del *sakoku* (鎖国), ovvero “Paese chiuso” dal 1635 circa, il Giappone si riaprì (*kaikoku*, 開国) all’Occidente nel 1854, in seguito alle pressioni del commodoro americano Perry. I successivi trattati con altre potenze, come Gran Bretagna,

https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=1856&item_no=1&attribute_id=18&file_no=1, p. 2

²³ UEMA, “Kindai wagakuni...”, cit., pp. 2-3

²⁴ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 313

²⁵ Laura HEIN e Mark SELDEN, “Culture, Power, and Identity in Contemporary Okinawa”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, formato Kindle, p.3

Russia e Olanda, contribuirono allo sgretolamento dell'ormai indebolito potere feudale, dando così avvio alla nascita dello Stato moderno con la restaurazione Meiji, avvenuta nel 1868.

L'ideale dei nuovi burocrati, *fukoku kyōhei* (富国強兵), ovvero “Paese ricco ed esercito forte”, aveva lo scopo di rafforzare la posizione del Giappone tra le potenze mondiali, proteggendolo dalle continue incursioni estere. Proprio per questo motivo fu posta grande enfasi sulla necessità di unità nazionale, basandosi su concetti riconducibili, come precedentemente sostenuto, alle teorie razziali occidentali. Infatti, Itō Hirobumi (1841-1909), considerato il padre della costituzione Meiji (1889), riferendosi ai giapponesi sosteneva che

c'era una peculiarità delle nostre condizioni sociali che è senza rispondenza in qualsiasi altro paese civilizzato. Omogenei per razza, lingua, religione e sentimenti [...] diventammo inconsapevolmente un'immensa comunità di villaggio²⁶.

Il centro di questo nuovo sistema di unità divenne l'Imperatore, considerato il discendente della dea Amaterasu, secondo la visione della sua linea familiare continua. Egli era legato al suo popolo di sudditi, così come venivano definiti nella costituzione, dallo *shintō* (神道), abilmente usato in chiave ideologica.

La sottomissione all'autorità imperiale, infine, si intrecciò con il discorso colonialista, anch'esso ereditato attraverso il contatto con le potenze occidentali. In effetti, siccome il Giappone sosteneva che i popoli asiatici avessero la “stessa cultura e stessa razza” (*dōbun dōshu*, 同文同種), riteneva necessario che anche i Paesi colonizzati adottassero il culto dell'Imperatore, imponendo di fatto un modello culturale che, pur non esplicitamente ammesso, l'opinione pubblica giapponese riteneva giusto e superiore, al pari del pensiero colonialista occidentale²⁷.

Questo è quindi il contesto storico che ha portato alla nascita dell'idea secondo la quale i giapponesi siano omogenei, inserita all'interno del cosiddetto *Nihonjinron* (日本人論, Teorie sui giapponesi), un filone di studi basato per l'appunto sulla teoria dell'unicità etnica del Giappone²⁸. Si tratta di un concetto condiviso da studiosi, ma anche da eminenti politici, come dimostrano le dichiarazioni rilasciate dall'allora primo ministro Nakasone Yasuhiro (1982-87). Infatti, nel 1986, durante una seduta della Camera Bassa, egli disse che

²⁶ Rosa CAROLI e Francesco GATTI, *Storia del Giappone*, Roma, Editori Laterza, 2004, p. 156

²⁷ CAROLI e GATTI, *Storia del...*, cit., pp. 157-158

²⁸ Chris BURGESS, “Multicultural Japan? Discourse and the 'Myth' of Homogeneity”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 5, 3, 01/03/2007, <https://apjif.org/-Chris-Burgess/2389/article.html>

“Il popolo giapponese è omogeneo [...] Il Giappone [...] è uno dei popoli più omogenei, questa è una verità oggettiva”²⁹.

Allo stesso modo, Asō Tarō, Ministro degli Affari Interni e delle Comunicazioni dal 2003 al 2005, pensava che

“Il Giappone [...] è una nazione, una civiltà, una lingua, una cultura, un’etnia. Anche se si cerca, non ci sono altri Paesi così”³⁰.

Infine, anche l’ex Ministro della Difesa Yamasaki Taku (1989) condivideva la stessa opinione, sostenendo che

“L’unicità etnica, nazionale e linguistica del Giappone ne hanno fatto una nazione così forte”³¹.

Tuttavia, come sostiene Caroli, non si tratta che di un’invenzione ideologica, la cui validità scientifica viene messa in discussione dalle caratteristiche storico-culturali di Okinawa e dalla forte coscienza identitaria autoctona dei suoi abitanti, che, come precedentemente messo in luce, per la maggior parte non si definiscono solamente giapponesi³². In altre parole, come può il Giappone essere uno Stato omogeneo se al suo interno esistono popolazioni indigene come gli okinawani? Così, proprio come afferma Murphy-Shigematsu

questa etnicità diventa complicata in base al valore che gli individui e la società attribuiscono a sé stessi e agli altri. In particolare, in un Paese in cui le persone appartenenti al gruppo maggioritario non apprezzano le particolarità delle minoranze, le differenze etniche possono causare pregiudizi e discriminazioni³³.

Le sue affermazioni trovano conferma nelle osservazioni fornite dal Comitato per l’Eliminazione della Discriminazione Razziale (CERD), un organo facente parte delle Nazioni Unite, il cui compito è di garantire il rispetto della Convenzione internazionale sull’eliminazione di ogni forma di discriminazione razziale³⁴. Infatti, nonostante il Giappone ne sia un Paese firmatario, nel suo rapporto del 2010 il CERD si mostrava preoccupato del fatto che gli okinawani non venissero riconosciuti come popolazione autoctona dal governo centrale, venendo così discriminati³⁵. Il Comitato espresse lo stesso pensiero anche nel 2014, oltre a

²⁹ OKAMOTO Masataka, “Nihonjin naibu no minzoku ishiki to gainen no konran”, (Coscienza etnica e confusione concettuale tra i giapponesi), *Fukuokaken ritsu daigaku ningen shakaigakubu kiyō*, 19, 2, 2011, http://www.fukuoka-pu.ac.jp/kiyou/kiyo19_2/1902_okamoto.pdf, p. 3

³⁰ OKAMOTO, “Nihonjin naibu...”, cit., p. 8

³¹ OKAMOTO, “Nihonjin naibu...”, cit., p. 7

³² CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 318

³³ MURPHY-SHIGEMATSU, “Okinawa seinen...”, cit., pp. 3-4

³⁴ “Committee on the Elimination of Racial Discrimination”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, <https://www.ohchr.org/en/hrbodies/cerd/pages/cerdindex.aspx>, consultato il 19/10/2020

³⁵ CERD, “CERD/C/JPN/CO/3-6”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 06/04/2010, https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CERD%2FC%2FJPN%2FCO%2F3-6&Lang=en, consultato il 19/10/2019, p. 6

puntare il dito contro il rischio di estinzione del linguaggio locale e contro il sistema scolastico nazionale, consigliando di dare maggiore rilievo alla storia e alla cultura di Okinawa nei libri di testo³⁶. Sfortunatamente, nel rapporto pubblicato nel 2018 non si evidenziò nessun cambiamento in merito alla situazione degli okinawani, dal momento che l'opinione del governo centrale non era mutata³⁷. Esso, infatti, richiamando implicitamente il concetto dell'omogeneità etnica, afferma che il popolo di Okinawa sia uguale a tutti gli altri giapponesi, rifiutando pertanto di riconoscerlo come indigeno.

Shigematsu, così come il CERD, auspica dei mutamenti radicali della visione giapponese, affermando che

Per molto tempo il Giappone è stato visto come una nazione ideale etnicamente omogenea, ma ciò ha portato a negare la reale esistenza di persone di varie culture. Per cambiare questo tipo di società, penso che sia molto importante affermare che ci siano anche altre identità oltre ai giapponesi etnicamente omogenei. Riconoscere che anche tra i giapponesi ci siano varie identità e che quella di Okinawa sia tra quelle indispensabili non è forse il primo passo per creare una nuova immagine del Giappone? Spero che la società giapponese riesca a sviluppare l'immagine di una società dinamica, fatta di persone diverse, e tollerante verso le differenze³⁸.

Di conseguenza, è possibile affermare che l'identità okinawana risulti essere così forte, ma allo stesso tempo così debole, perché inserita in un macrosistema che non la legittima. La base dell'*Okinawa mondai*, incentrata sulla difficile dicotomia okinawano/giapponese, trae quindi le sue origini proprio dalla discriminazione sociale attuata dal Giappone nei confronti di Okinawa e del suo popolo. Essa, tuttavia, non è un fenomeno recente, bensì ha fatto da sfondo agli sviluppi storici della prefettura.

³⁶ CERD, "CERD/C/JPN/CO/7-9", in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 26/09/2014, https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CERD/C/JPN/CO/7-9&Lang=En, consultato in data 19/10/2019, p. 8

³⁷ CERD, "CERD/C/JPN/CO/10-11", in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 26/09/2018, https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CERD/C/JPN/CO/10-11&Lang=En, consultato in data 19/10/2019, p. 4

³⁸ MURPHY-SHIGEMTSU, "Okinawa seinen...", cit., p. 5

1.3. Storia dei difficili rapporti discriminatori tra il Giappone e Okinawa dal XV secolo al 1972

Pertanto, per comprendere adeguatamente le moderne dinamiche dell'*Okinawa mondai*, è necessario analizzarne le origini storiche, ripercorrendo l'evoluzione dei rapporti tra il Giappone e Okinawa, che secondo Hook e Siddle è possibile definire

historical narrative of victimization³⁹.

Il termine "vittimizzazione" non va certamente inteso in senso spregiativo, dal momento che indica i discorsi di superiorità razziale e discriminazione sociale ai danni degli okinawani, come verrà discusso di seguito.

1.3.1. Primi rapporti tra il Giappone e il Regno delle Ryūkyū: dominio commerciale e annessione al feudo di Satsuma (XV-XVII secolo)

Nel 1429 l'attuale isola di Okinawa, fino ad allora divisa in tre regni diversi, fu unificata sotto il controllo di un unico sovrano, portando alla nascita del cosiddetto Regno delle Ryūkyū (琉球王国, *Ryūkyū ōkoku*). Ancora prima della sua formazione, precisamente nel 1372, era diventato uno Stato tributario della dinastia cinese Ming, assorbendone vari aspetti culturali. Inoltre, pur essendone politicamente indipendente, godeva di rapporti anche con il Giappone⁴⁰. Così, come afferma Thomas Nelson,

By the end of the fourteenth century, Ryukyu had become established as the hub of the relay trade carrying Southeast Asian goods to China, Japan and Korea⁴¹.

Tuttavia, emerse ben presto una particolare forma di dominio commerciale da parte dei giapponesi ai danni dei ryūkyūani. Infatti,

By the fifteenth century, Japanese merchants had begun to note the huge profits they could make carrying Southeast Asian luxuries from Ryukyu to Japan and thence to Korea. The result was that they [...] became increasingly unwilling to permit the Ryukyuan and the Koreans to maintain independent trading contacts⁴².

Come conseguenza di ciò,

³⁹ Miyume TANJI, *Myth, protest and struggle in Okinawa*, Oxfordshire, Routledge, 2006, p. 21

⁴⁰ Thomas NELSON, "Japan in the Life of Early Ryukyu", *The Journal of Japanese Studies*, 32, 2, 2006, <http://www.jstor.com/stable/25064649>, pp. 2-4

⁴¹ NELSON, "Japan in...", cit., p. 11

⁴² NELSON, "Japan in...", cit., p. 12

Ryukyuan emissaries to Korea ceased to travel in ships of their own and instead took passage on Japanese merchant vessels. [...] It was extremely difficult for the Ryukyuan to circumvent Japan in their dealings with Korea, and they had to accommodate themselves to the reality [...] that trade must perforce flow through seas controlled by the great maritime warriors of Japan⁴³.

La posizione strategica del Regno nella rotta commerciale del Sud-est asiatico continuò ad essere sfruttata anche dopo la sua annessione al feudo di Satsuma, avvenuta nel 1609 per mano del *daimyō* (大名) Shimazu. Infatti, con l'instaurarsi della politica isolazionista del *sakoku*, il commercio estero fu limitato all'Olanda e posto sotto il controllo dello *shōgun* (将軍), il capo del governo militare a carattere nazionale. Pertanto, ancora una volta il Regno assunse il ruolo di intermediario commerciale⁴⁴, dal momento che i ryūkyūani mantenevano uno status di indipendenza formale dal Giappone, nonostante dovessero pagare onerosi tributi al *daimyō*⁴⁵. Quest'ultimo, quindi, acquistava dai ryūkyūani merci pregiate provenienti dalla Cina e le rivendeva poi a prezzo maggiorato in Giappone, eludendo il monopolio commerciale dello *shōgun*⁴⁶. Così, proprio come fecero nel XV secolo, i giapponesi assunsero nuovamente il dominio dei commerci effettuati dal Regno. Infatti, lo storico Robert K. Sakai afferma che

Ryukyuan were prohibited from importing foreign goods or transacting business in such goods without special authorization from the Satsuma government. The same authorization was required for any ships, officers, and crews before they could leave or enter Ryukyu coastal waters⁴⁷.

Inoltre, siccome dalla metà del XVI secolo la dinastia Ming vietava ai suoi sudditi di fare affari con i giapponesi, affinché i rapporti tra il Regno e la Cina non subissero mutamenti, era necessario nascondere ai cinesi il fatto che Satsuma avesse conquistato i ryūkyūani. Per questo motivo

there was relatively little interference by the Shimazu government in the internal political affairs of the islands. [...] the Japanese language, hairdo, and style of dress were prohibited in the Ryukyus. Ryukyuan could not assume Japanese name⁴⁸.

⁴³ NELSON, "Japan in...", cit., p. 12

⁴⁴ Robert K. SAKAI, "The Satsuma-Ryukyu Trade and the Tokugawa Seclusion Policy", *The Journal of Asian Studies*, 23, 2, 05/1964, <https://www.jstor.org/stable/2050758>, p. 2

⁴⁵ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 22

⁴⁶ SAKAI, "The Satsuma...", cit., p. 2

⁴⁷ *Ibidem*

⁴⁸ SAKAI, "The Satsuma...", cit., pp. 2-3

Era addirittura stato redatto un manuale, denominato “Cose per i viaggiatori da ricordare” (*Ryokōnin kokoro e*, 旅行人心へ), volto a istruire i ryūkyūani su come rispondere alle domande dei cinesi, evitando in ogni modo di alludere al rapporto con Satsuma⁴⁹.

1.3.2. La “nipponizzazione” degli okinawani, un popolo di *hikokumin* (1879-1941)

L’attenzione rivolta al Regno delle Ryūkyū, tuttavia, non si limitò al clan Shimazu. Infatti, a livello nazionale l’indebolimento del potere feudale aveva portato alla restaurazione di quello imperiale nel 1868, con l’inizio del periodo Meiji (1868-1912). Le crescenti mire espansionistiche in Asia delle potenze occidentali e l’aumento delle loro incursioni in Giappone resero ben presto la classe dirigente consapevole del valore altamente strategico del Regno, data la sua vicinanza alla Cina, alla Corea e al Sud-est asiatico⁵⁰. Infatti, come nota la ricercatrice Tanji Miyume,

By leaving its ‘domestic’ border undecided, it was under a grave threat of territorial loss – as rival colonial powers expanded. In order to face a new international relations paradigm with a clearly defined territorial border backed by substantial military power, Japan started to expand its territory overseas, whilst protecting itself from being colonized by Western imperial powers⁵¹.

Pertanto, nel 1879 il Regno fu abolito e annesso formalmente al Giappone come prefettura di Okinawa, in un evento noto come “disposizione Ryūkyū” (琉球処分, *Ryūkyū shobun*).

Nonostante il necessario potenziamento del Giappone, nell’ottica del *fukoku kyōhei*, richiedesse una forte unità nazionale, enfatizzando la teoria dell’omogeneità etnica dei giapponesi, è indubbio che gli okinawani fossero ritenuti etnicamente diversi⁵². Infatti, avevano vissuto per circa 500 anni a contatto con la cultura cinese e, anche sotto il dominio di Satsuma, per ragioni strategiche era stato loro vietato di adeguarsi ai costumi giapponesi, creandosi così una cultura e un’identità particolari, tanto che, secondo Agarie

A quei tempi non c’era praticamente nessuno a Okinawa che si potesse identificare come giapponese⁵³.

Inoltre, era stata mutuata dal periodo Tokugawa (1603-1867) una visione concentrica della modernità di matrice cinese imperiale, secondo la quale il Giappone era il centro, mentre

⁴⁹ SAKAI, “The Satsuma...”, cit., p. 3

⁵⁰ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 23

⁵¹ *Ibidem*

⁵² TANJI, *Myth, protest...*, cit., pp. 22-23

⁵³ AGARIE, “Aidentiti no...”, cit.

l'arcipelago delle isole Ryūkyū e tutti i territori a nord dell'isola di Honshū, tra cui l'Hokkaidō, rappresentavano la periferia. Secondo questa percezione, più ci si allontanava dal nucleo, ovvero Tōkyō, più i popoli erano arretrati. È evidente, quindi, che Okinawa, distante circa 2000 km dalla capitale, fosse considerata come un territorio altamente incivile. Questo pregiudizio si riflesse anche sul ritardo di effettive riforme politiche e sociali, dal momento che il governo centrale riteneva impossibile implementarle prima che gli okinawani raggiungessero un adeguato grado di civilizzazione⁵⁴. Ad esempio, la riforma dell'imposta fondiaria e la legge elettorale per la Camera dei Rappresentanti furono introdotte a Okinawa rispettivamente con 30 e 22 anni di ritardo rispetto alla madrepatria. Uema sostiene che

Questo ritardo [...] promosse l'arretratezza sociale di Okinawa e instillò un forte senso di discriminazione nella mente degli okinawani⁵⁵.

Pertanto, se dal XV secolo i ryūkyūani subirono dal clan Shimazu un dominio di tipo commerciale, è possibile affermare senza ombra di dubbio che la nascita di Okinawa coincise anche con il primo vero grave episodio di discriminazione sociale da parte del Giappone.

Tuttavia, questa non si limitò all'inadeguatezza delle politiche riformiste. Infatti, per controllare totalmente questa piccola zona "di frontiera", dalla posizione altamente strategica, era necessario includere gli okinawani nel piano di unità nazionale, creando in loro un sentimento di appartenenza alla patria. In altre parole, per non creare discrepanze nell'ideologia dell'omogeneità etnica e culturale nazionale, bisognava trasformarli in giapponesi, inculcando in loro il culto dell'Imperatore e i valori della madrepatria, con un processo che può essere definito "niponizzazione"⁵⁶. Infatti, come sostiene Uema,

Nel moderno Impero giapponese, la formazione della coscienza nazionale e la sua centralizzazione, ovvero la politica di assimilazione nazionale, sono state attuate politicamente e con forza dal governo della Restaurazione Meiji. [...] non c'è dubbio che la politica di assimilazione verso il Regno delle Ryūkyū · Okinawa, che geograficamente e storicamente sono esistiti a lungo come entità politica separata dal Giappone, sia stata più difficile e specifica⁵⁷.

⁵⁴ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 25

⁵⁵ UEMA, "Kindai wagakuni...", cit., p. 5

⁵⁶ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 33

⁵⁷ UEMA, "Kindai wagakuni...", cit., p. 4

Di fatto, fu attuata una vera e propria politica di controllo diretto, ponendo come governatori della prefettura politici mandati da Tōkyō⁵⁸, mentre si spingevano i cittadini ad usare nomi, abiti e acconciature giapponesi, che venivano loro presentati come normali⁵⁹.

Il principale cambiamento da realizzare era però la diffusione della lingua nazionale, individuata nel dialetto parlato a Tōkyō⁶⁰. Infatti, come sostiene il professor Patrick Heinrich,

Starting in 1880, the view began to prevail that Japanese language dissemination was unavoidable in order to gain control over the islands and to govern them in the interests of mainland Japan⁶¹.

Il mezzo fondamentale attraverso il quale portare a termine questo importante compito era naturalmente l'istruzione scolastica, come dimostrano le seguenti parole del primo governatore di Okinawa, Nabeshima Naoyoshi (1879-1881):

“The most important assignment for governing Okinawa prefecture is to make the languages and customs the same as those in mainland Japan. In order to do so, education is the key”⁶².

Di conseguenza, furono istituiti i cosiddetti centri di formazione per la conversazione, in cui insegnare alla popolazione locale il giapponese, tramite l'utilizzo di un libro di testo bilingue, ma anche nozioni legate alla figura imperiale e all'educazioni civica.

Tuttavia, con il passare degli anni i metodi usati per implementare l'utilizzo della lingua nazionale divennero sempre più rigidi. Infatti, prima di tutto fu vietato parlare in dialetto ryūkyūano nei luoghi e uffici pubblici, con il rischio di essere puniti. La misura più dura, però, fu sicuramente l'introduzione nelle scuole del cosiddetto *hōgen fuda* (方言札), una sorta di amuleto in legno con incisa la parola “dialetto” (*hōgen*), che veniva fatto indossare attorno al collo degli alunni qualora essi usassero il ryūkyūano invece del giapponese⁶³.

⁵⁸ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 23

⁵⁹ Madoka HAMMINE, “Indigenous in Japan? The Reluctance of the Japanese State to Acknowledge Indigenous Peoples and Their Need for Education”, in Otso Kortekangas, Pigga Keskitalo, Jukka Nyysönen, Andrej Kotljarchuk, Merja Paksuniemi e David Sjögren (a cura di), *Sámi Educational History in a Comparative International Perspective*, Londra, Palgrave Macmillan, 2019, [10.1007/978-3-030-24112-4_13](https://doi.org/10.1007/978-3-030-24112-4_13), p. 10

⁶⁰ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 26

⁶¹ Patrick HEINRICH, “Language Loss and Revitalization in the Ryukyu Islands”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 3, 11, 24/11/2005, <https://apjif.org/-Patrick-Heinrich/1596/article.pdf>, p. 3

⁶² HAMMINE, “Indigenous in...”, cit., p. 9

⁶³ HEINRICH, “Language Loss...”, cit., pp. 3-4

Foto 1 - *Hōgen fuda*



Fonte: <https://images.app.goo.gl/6hParHZKYGuxdRwL6>

Queste politiche ebbero certamente un grande impatto, dal momento che nel 1907, solo 28 anni dopo l'annessione alla madrepatria,

93 per cent of Okinawan children were enrolled in Japanese language-speaking primary schools⁶⁴.

Inoltre, come nota lo storico Gregory Smits,

Questa politica di assimilazione ha drasticamente cambiato l'identità di Okinawa all'interno di una generazione⁶⁵.

Da una parte, infatti, vi erano cittadini che non intendevano sottostare al dominio politico e culturale giapponese, come coloro che rifiutarono la coscrizione obbligatoria, introdotta nel 1898, spesso scappando all'estero.⁶⁶ Dall'altra, però, questa fu la prima volta in cui molti okinawani iniziarono a definirsi giapponesi⁶⁷, per tre motivi principali.

Prima di tutto, è importante sottolineare che Okinawa fosse la prefettura economicamente più debole già nel 1879, al momento della sua annessione al Giappone⁶⁸. Pertanto, la maggioranza dell'opinione pubblica locale, in particolar modo l'élite, nutriva la profonda convinzione che, diventando dei perfetti cittadini giapponesi, gli okinawani avrebbero potuto godere dello stesso benessere economico, risolvendo così i loro gravi problemi di povertà⁶⁹.

In secondo luogo, sebbene possa sembrare un controsenso, molti decisero di accantonare parzialmente le proprie radici socioculturali per tentare di combattere la discriminazione

⁶⁴ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 26

⁶⁵ Gregory SMITS, "Okinawa aidentiti no rekishiteki hendō to sono jijō", (Cambiamento storico dell'identità di Okinawa e sue circostanze), in *Penn State University*, 09/03/2004, http://www.personal.psu.edu/faculty/g/j/gjs4/Okinawan_Identity.htm, consultato il 02/12/2019

⁶⁶ TANJI, *Myth, protest...*, cit., pp. 25-27

⁶⁷ SMITS, "Okinawa aidentiti...", cit.

⁶⁸ HEIN e SELDEN, "Culture, power...", cit., p. 5

⁶⁹ SMITS, "Okinawa aidentiti...", cit.

perpetrata nei loro confronti. Un chiaro esempio è rappresentato dall'elevato numero di okinawani che nei primi anni del XX secolo si trasferirono nella madrepatria, in particolar modo nella zona di Ōsaka, in cerca di un impiego e di migliori condizioni economiche⁷⁰. Essi si stabilirono in comunità, in modo da ricreare un ambiente familiare all'interno del quale delimitare la propria identità okinawana, poiché il perimetro esterno alla propria abitazione rappresentava un mondo fatto di discriminazione, basata prima di tutto sulle loro differenze fisionomiche, talvolta ingigantite e idealizzate, come ad esempio la statura più bassa e la pelle più scura⁷¹. Nel suo romanzo *Mr Saitō of heaven building*, il poeta Yamanokuchi Baku (1903-1963), originario di Naha, racconta che durante i suoi 16 anni di permanenza a Tōkyō

“I’ve run into people wherever I go who [...] stare at me strangely—as if I’m not even human. And in those stares I can hear their questions. Is Ryūkyū in Okinawa Prefecture? Do the people there eat rice?”⁷².

Un altro importante fattore discriminante era certamente la differenza linguistica. Infatti, nonostante avessero imparato il giapponese nelle scuole di conversazione, molti okinawani mantenevano il loro accento e non avevano molta familiarità con i termini tipici dei dialetti in uso in Giappone⁷³.

Questa discriminazione sociale fu applicata in vari campi della vita quotidiana, come ad esempio in quello scolastico, spingendo Oyakawa Takayoshi ad abbandonare la scuola per un breve periodo a causa delle vessazioni dei compagni. Egli, infatti, ricorda che

“Some of the other students would look at me derisively, calling me ‘Ryūkyūan’. [...] I was shocked, having no idea why they made fun of me because I was from Okinawa⁷⁴.

Inoltre, spesso gli okinawani si vedevano rifiutare posti di lavoro o alloggi puramente per via della loro provenienza e di finti stereotipi. Ad esempio, gli imprenditori sostenevano che gli okinawani fossero naturalmente propensi a cambiare impiego nel caso ne venisse loro offerto uno migliore. Secondo Rabson, tuttavia, si trattava di una tendenza del tutto normale, dato che venivano fortemente discriminati con salari più bassi, condizioni peggiori, compiti più pericolosi e, naturalmente, molestie verbali come

“Okinawans are dirty because you eat garlic and pork”⁷⁵.

⁷⁰ Steve RABSON, “Life and Times in the Greater Osaka Diaspora”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, formato Kindle, p. 99

⁷¹ RABSON, “Life and...”, cit., pp. 105-110

⁷² RABSON, “Life and...”, cit., p. 113

⁷³ RABSON, “Life and...”, cit., p. 111

⁷⁴ RABSON, “Life and...”, cit., p. 114

⁷⁵ RABSON, “Life and...”, cit., pp. 114-115

È proprio per queste continue intimidazioni che molti okinawani decisero, come sostenuto in precedenza, di diventare giapponesi, sforzandosi di attenersi alla lingua, al codice di abbigliamento, alla cucina, alle pratiche religiose e a tutti gli altri aspetti quotidiani a loro così estranei.

Ciò non significa, naturalmente, che rinnegassero del tutto il loro bagaglio culturale, ma piuttosto che lo tenessero nascosto nella loro vita privata, evitando di esporlo a discriminazioni. In questo contesto è molto rilevante il fatto che cambiassero i loro nomi e cognomi per renderli fonicamente più giapponesi. Così, Ryōmei diventò Yoshiaki, mentre Higa e Kinjō vennero rispettivamente modificati in Hiyoshi e Kaneshiro⁷⁶.

Il forte desiderio di essere considerati giapponesi si può chiaramente evincere da un episodio avvenuto nel 1903 al Quinto Salone Mondiale del Commercio e dell'Industria di Ōsaka. In questa occasione, infatti, all'interno di spazi delimitati furono esposte persone considerate esotiche, come Ainu, cinesi, coreani e okinawani, insieme a riproduzioni delle loro abitazioni e dei loro oggetti di uso quotidiano. Naturalmente l'opinione pubblica locale si scandalizzò, ma non per la brutalità di questa pratica, bensì perché sminuiva l'identità giapponese degli okinawani. Infatti, secondo il *Ryūkyū Shinpō* (琉球新報), la prima testata giornalistica fondata a Okinawa,

“it is a great insult for people of our prefecture to be singled out for inclusion with Taiwanese tribesmen and Ainu. [...] Our prefecture is making rapid strides today in education and in conforming with [...] other prefectures in all matters”⁷⁷.

In altre parole, quello che il quotidiano criticava era l'umiliazione subita per essere stati

“portrayed as an ‘inferior race’”⁷⁸.

La terza e ultima ragione per cui molti okinawani desideravano diventare giapponesi è relazionata alla crescita del sentimento nazionalista tra la fine del XIX secolo e gli anni Trenta del Novecento, strettamente collegata al rafforzarsi del militarismo e al culto imperiale. Infatti, il Giappone vinse sia la guerra sino-giapponese (1894-1895), sia quella contro la Russia (1904-1905), conquistandosi un posto tra le potenze coloniali, ma soprattutto contribuendo a fortificare il sentimento dei cittadini di appartenenza ad una nazione forte, composta da un'etnia unica, superiore e coesa⁷⁹.

⁷⁶ RABSON, “Life and...”, cit., pp. 116-118

⁷⁷ RABSON, “Life and...”, cit., pp. 116

⁷⁸ *Ibidem*

⁷⁹ CAROLI e GATTI, *Storia del...*, cit., pp. 161-167

Durante gli anni del primo conflitto mondiale il Giappone conobbe una forte crescita economica ed espanse i propri possedimenti in Asia orientale, ma le sue aspettative per il dopoguerra furono disilluse dalla Conferenza di pace di Versailles (1919-1920), in quanto non tutte le sue rivendicazioni furono accettate. Questo ebbe l'effetto di accrescere ulteriormente il nazionalismo, inteso qui come opposizione alle potenze occidentali, ritenute colpevoli di voler assoggettare il Paese del Sol Levante⁸⁰.

Di conseguenza, tra gli anni Venti e Trenta si diede sempre più enfasi all'addestramento paramilitare dei giovani, perché questi ultimi erano più facilmente influenzabili dall'educazione scolastica e dai mezzi di comunicazione di massa, come i film, che infondevano in loro ideali come il sacrificio per il bene del Paese e concetti tipicamente confuciani come lealtà e obbedienza all'Imperatore⁸¹.

Questi anni furono molto intensi anche dal punto di vista della politica estera, fondata sull'ideologia del panasiatismo, che

velava sotto la demagogia dell'unione di "tutti i popoli e i Paesi dell'Asia sotto la guida del Giappone" le mire espansionistiche sul continente e nei mari del Sud contro l'egemonia dell'"imperialismo bianco"⁸².

Così, la Manciuria fu invasa nel 1931 e trasformata, l'anno successivo, nello Stato fantoccio del Manchukuo, controllato dal Giappone. Ciò fomentò ulteriormente il già radicato nazionalismo e il desiderio di espansione coloniale, portando nel 1937 all'invasione della Cina e all'avvio della Guerra dell'Asia Orientale. Quest'ultima rappresentò un punto di svolta per il Giappone che, al pari delle potenze occidentali, con l'avvicinarsi della Seconda guerra mondiale vedeva accentuarsi la tensione prebellica e la corsa agli armamenti. Così, nel 1938 fu promulgata la Legge di mobilitazione generale, volta a riorganizzare l'economia e l'industria in senso militare, in previsione dell'imminente scontro. Infatti, solo tre anni dopo, nel 1941, i giapponesi attaccarono la base statunitense di Pearl Harbor, entrando di fatto nel conflitto mondiale⁸³.

⁸⁰ CAROLI e GATTI, *Storia del...*, cit., pp. 182-184

⁸¹ CAROLI e GATTI, *Storia del...*, cit., pp. 195-196

⁸² CAROLI e GATTI, *Storia del...*, cit., p. 204

⁸³ CAROLI e GATTI, *Storia del...*, cit., pp. 198-209

1.3.3. Il sacrificio degli okinawani durante la Seconda guerra mondiale (1941-1945)

La ferrea “nipponizzazione” a cui il popolo di Okinawa fu sottoposto dal 1879 e la graduale intensificazione in tutto il Giappone del militarismo e del nazionalismo, tra gli anni Venti e Trenta, suscitarono in molti okinawani il desiderio di dimostrare la propria lealtà all’Imperatore, in una sorta di prova, partecipando alla causa nazionale come qualsiasi buon giapponese. Fujioka Hiroshige, allora diciottenne, ricorda che

My blood had been stirred by the string of victories [...] and I firmly believed, as did most Japanese, that Japan, the eternal land of the gods, was sure to win the [...] War. [...] It made me want to be a soldier even more. [...] I vowed to die in battle, and might even have volunteered to be a human torpedo if I’d had the chance⁸⁴.

Tuttavia, nonostante i loro sforzi per inserirsi nella teoria dell’etnia omogenea, l’opinione pubblica non li considerava ancora abbastanza degni, giudicandoli poco fedeli e non legati allo Stato, categorizzandoli così come *hikokumin* (非国民), un termine altamente spregiativo usato per indicare i cosiddetti “non cittadini”, ovvero coloro che non appartengono al Paese⁸⁵.

Naturalmente, condividevano questa opinione anche i soldati giapponesi, i quali, durante la Seconda guerra mondiale, stanziarono a Okinawa alla quale, per la sua posizione altamente strategica, fu assegnato il ruolo di barriera protettiva della madrepatria contro la rapida avanzata dell’esercito statunitense nel Pacifico. Così, furono confiscati terreni privati per costruire basi e aeroporti militari, costringendo la popolazione a trovare rifugio in grotte, vivendo di stenti⁸⁶. Siccome gli okinawani nutrivano l’ingenua convinzione che, combattendo in qualità di sudditi dell’Imperatore, avrebbero ricevuto lo stesso trattamento dei soldati giapponesi, l’appropriazione indebita delle loro terre rappresentò una pugnalata alle spalle.

La situazione peggiorò esponenzialmente quando gli americani sbarcarono sull’isola il primo aprile 1945, dando inizio alla Battaglia di Okinawa (aprile-giugno 1945), considerata una delle peggiori della Seconda guerra mondiale⁸⁷. Infatti, avendo capito ben presto che la sconfitta era vicina, i soldati giapponesi inasprirono le proprie politiche discriminatorie, mandando molti cittadini al fronte con armi rudimentali, mentre altri vennero scacciati dai loro rifugi e derubati

⁸⁴ Steve RABSON, “Okinawan Perspectives on Japan's Imperial Institution”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 6, 2, 01/02/2008, <https://apjif.org/-Steve-Rabson/2667/article.pdf>, p. 6

⁸⁵ CAROLI, *Il mito...*, cit., pp. 170-171

⁸⁶ Matthew ALLEN, “Wolves at the Back Door - Remembering the Kumejima Massacres”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, formato Kindle, p. 47;

CAROLI, *Il mito...*, cit., pp. 163-164

⁸⁷ CAROLI, *Il mito...*, cit., p.172

dei loro viveri. Nell'ottica dell'onore e del sacrificio per la patria, inoltre, vennero ordinati numerosi suicidi di massa per evitare di consegnarsi al nemico e morire per sua mano.

Sicuramente, il metodo più brutale usato per controllare la popolazione locale fu il divieto di usare il ryūkyūano in pubblico. Infatti, proprio come negli anni seguenti all'annessione al Giappone, fu effettuata una sorta di “caccia alle streghe”, tacciando di spionaggio per il nemico e condannando a morte chiunque non rispettasse quest'ordinanza. Un chiaro esempio di questa violenza ideologica è rappresentato dai cosiddetti massacri di Kumejima, avvenuti tra il 26 giugno e il 20 agosto 1945 sull'omonima isola, appartenente alla prefettura di Okinawa. Con questo termine gli storici sono soliti indicare l'assassinio, da parte dei soldati giapponesi, di venti civili, tra cui anche bambini, accusati di essere spie al servizio degli americani. Secondo Ōta Masahide, governatore di Okinawa dal 1990 al 1998, non servivano prove schiaccianti per essere condannati, bastava essere okinawani, dal momento che essi non erano ancora considerati cittadini giapponesi, ma solo uno scudo umano usato per proteggere il Giappone e i suoi abitanti, al pari di pedine sacrificabili all'interno dello scacchiere governativo⁸⁸.

Infatti, come era stato previsto ed auspicato, il sacrificio degli okinawani aveva contribuito a fermare l'invasione degli Stati Uniti. Avendo vinto la battaglia, conclusasi alla fine di giugno con la morte di circa 150.000 civili locali, e conquistato Okinawa, gli americani non necessitavano più di invadere il Giappone, considerando che di lì a pochi giorni (6 e 9 agosto) avrebbero bombardato Hiroshima e Nagasaki, portando alla resa totale del Giappone il 15 agosto⁸⁹.

Il tema dei suicidi di massa è fortemente radicato nella memoria storica degli okinawani, come è possibile evincere dal sopraccitato sondaggio condotto da Lim, secondo il quale nel 2007 il 28% degli intervistati rispose che il popolo di Okinawa potrebbe sentirsi più giapponese se il governo centrale modificasse il proprio punto di vista in merito a questi tristi episodi⁹⁰. Nella madrepatria, infatti, più che le enormi sofferenze inflitte dai soldati giapponesi, vi è la tendenza a mettere in risalto la morte di numerosi okinawani, rappresentandola come nobile sacrificio per la patria. Ne è un esempio il film ひめゆりの塔 (*Himeyuri no tō*, “La torre di

⁸⁸ ALLEN, “Wolves at...”, cit., pp. 39, 45-49

⁸⁹ Scott ZHUGE, “Okinawa Occupied: Current US Naval Bases in Japan”, *Harvard International Review*, 34, 3, 2013, www.jstor.org/stable/43746109, p.1

⁹⁰ LIM, “Okinawa jūmin...”, cit., p. 21

Himeyuri”, 1952), le cui protagoniste sono studentesse arruolate come infermiere, che scelgono volontariamente di suicidarsi con le granate fornite loro dall’esercito nazionale⁹¹.

Questo atteggiamento negazionista, che dissimula la correlazione esistente tra il sentimento nazionalista degli okinawani e le violenze psicologiche subite per mano dell’esercito nipponico, è tipico anche del ministero dell’Istruzione, che il 30 marzo 2007 annunciò di voler revisionare i libri di testo usati alle scuole superiori, in merito alla questione dei suicidi di massa. In particolar modo, intendeva eliminare qualsiasi riferimento al ruolo attivo dell’esercito giapponese, trattandosi di un fatto non verificabile che, di conseguenza, avrebbe potuto portare ad un’erronea interpretazione storica⁹². Come riportato in un articolo dell’*Okinawa Times*⁹³, datato 12 dicembre 2007, la frase 「日本軍によって壕を追い出され、あるいは集団自決に追い込まれた住民もあった」 (*nihongun ni yotte gō o oidasare, aruiwa shūdanjiketsu ni oikomareta jūmin mo atta*) fu modificata in 「日本軍に壕から追い出されたり、自決した住民もいた」 (*nihongun ni gō kara oidasetari, jiketsu shita jūmin mo ita*). La prima significa “Alcuni cittadini furono cacciati dai loro rifugi o spinti al suicidio di gruppo dall’esercito giapponese”, mentre la seconda può essere tradotta come “Alcuni cittadini furono cacciati dai loro rifugi dall’esercito giapponese e altri si suicidarono”. Nella frase iniziale il complemento d’agente, “l’esercito giapponese” (日本軍, *nihongun*), è collegato ai predicati di entrambi i periodi, ovvero “furono cacciati” (追い出され, *oidasare*) e “spinti” (追い込まれた, *oikomareta*), attraverso 「あるいは」 (*aruiwa*, “o”). Al contrario, nella revisione l’assenza di 「追い込まれた」 lo svincola dal suicidio dei cittadini, ponendo questi ultimi nella posizione di unico soggetto pensante. Inoltre, l’eliminazione di 「集団」 (*shūdan*, “di gruppo”) sembra sminuire la gravità dei fatti, riducendo il numero di persone che si suicidarono⁹⁴.

⁹¹ OPEN SOURCE CENTER, “A Master Narratives Approach to Understanding Base Politics in Okinawa”, in *Okinawa Taimusu*, 05/01/2012, <http://app.okinawatimes.co.jp/documents/cia20180528.pdf>, consultato il 05/01/2020, p. 12

⁹² ANIYA Masaaki, “Okinawasen no 「shūdanjiketsu」 (kyōsei shūdanshi)”, (I “suicidi di massa” della Battaglia di Okinawa (Morti di massa forzate)), in “Compulsory Mass Suicide, the Battle of Okinawa, and Japan's Textbook Controversy”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 6, 1, 01/01/2008, <https://apjif.org/data/aniya.%20j.pdf>, p. 1

⁹³ La seconda testata giornalistica fondata a Okinawa (1948)

⁹⁴ “Shijitsu o bokasu seiji kecchaku, 「kyōsei」 mitomezu 「kanyo」 e”, (Una soluzione politica che offusca i fatti storici, verso il “coinvolgimento” senza riconoscere la “coercizione”), *Okinawa Times*, 27/12/2007, in “Compulsory Mass Suicide, the Battle of Okinawa, and Japan's Textbook Controversy”, *The Asia-Pacific Journal*

Naturalmente, questo improvviso cambio di rotta provocò una forte rabbia nella popolazione locale, espressa nel raduno di circa 110.000 persone tenutosi a Ginowan (isola di Okinawa) il 29 settembre 2007. In quell'occasione Nakazato Toshinobu, l'allora presidente dell'assemblea prefettizia, disse che gli okinawani hanno l'importante compito di tramandare ai posteri la memoria storica per far sì che una simile guerra non accada mai più⁹⁵. A questo proposito assume un ruolo molto importante la cosiddetta Pietra angolare della pace, il monumento commemorativo eretto nel 1995 a Itoman (isola di Okinawa), dove sono incisi i nomi di tutti i caduti durante la battaglia di Okinawa.

Foto 2 - Pietra angolare della pace, Itoman



Fonte: https://www.japan-guide.com/g17/740/7105_03.jpg

Alla fine, sull'onda del pesante criticismo, la frase contestata fu nuovamente cambiata in 「日本軍によって壕を追い出されたり、あるいは集団自決に追い込まれた住民もあった」 (*nihongun ni yotte gō o oidasaretari, aruiwa shūdanjiketsu ni oikomareta jūmin mo atta*), tornando così al suo significato originario⁹⁶.

Il forte risentimento provato dagli okinawani a distanza di 62 anni dal secondo conflitto mondiale indica che la base della loro memoria storica, usata per ricordare il doloroso passato e creare così un sentimento di unione identitaria, sia proprio la Seconda guerra mondiale. Infatti, come precedentemente sostenuto, l'*Okinawa mondai* trae le proprie origini dalla discriminazione sociale attuata dal Giappone nei confronti del popolo di Okinawa,

– *Japan Focus*, 6, 1, 01/01/2008, <https://apjif.org/data/Okinawa%20Times%20on%20Shudan%20Jiketsu-1.pdf>, p. 1

⁹⁵ “110,000 protest history text revision order”, *The Japan Times*, 30/09/2007, <https://www.japantimes.co.jp/news/2007/09/30/national/110000-protest-history-text-revision-order/>, consultato il 07/01/2020

⁹⁶ “Shijitsu o...”, cit., p. 1

principalmente a partire dall'annessione di quest'ultima al neonato stato Meiji nel 1879. Sebbene da allora siano stati perpetrati vari episodi di violenza, quelli subiti durante la guerra furono indubbiamente i peggiori⁹⁷.

Inoltre, nonostante la loro reale intenzione di dimostrare la propria validità come giapponesi, combattendo per la gloria del Paese e dell'Imperatore, per la prima volta gli okinawani capirono che il Giappone non era realmente interessato a loro in qualità di cittadini, quanto piuttosto alla posizione geografica del loro territorio e ai benefici che essa avrebbe potuto apportare.

Per di più, come sottolineano Hein e Selden, contrariamente a quanto ci si potrebbe aspettare, a posteriori la brutalità della battaglia non viene particolarmente assegnata agli americani, dipinti invece come mostri dai giapponesi. Infatti, distribuendo beni di prima necessità al termine del conflitto, i soldati statunitensi dimostrarono una sorta di umanità, in netta contrapposizione con gli orrori compiuti dall'esercito nazionale.

Considerando, infine, che molti okinawani erano stati spinti al suicidio pur di non morire per mano americana, vi era tra i sopravvissuti un forte senso di inganno da parte dei propri connazionali⁹⁸.

1.3.4. L'occupazione americana e le discriminazioni (1945-1972)

La Seconda guerra mondiale non costituisce la base della memoria storica okinawana solo per il drammatico ricordo che evoca, ma anche perché la sua conclusione non pose fine alle sofferenze patite dalla popolazione locale. Infatti, nell'ottica dell'occupazione postbellica del Giappone, iniziata nel 1945, gli Stati Uniti ritennero necessario mantenere il controllo amministrativo diretto su Okinawa, data la sua posizione altamente strategica in Asia orientale, che le valse il soprannome di “chiave di volta del Pacifico” (*Keystone of the Pacific*)⁹⁹. Secondo il generale americano Douglas MacArthur (1880-1964), in effetti,

⁹⁷ SHIMABUKURO Jun, “Okinawa aidentitī to Okinawa jūmin no jiko ketteiken”, in *nippon.com*, 10/07/2015, <https://www.nippon.com/ja/in-depth/a04501/>, consultato il 10/01/2020

⁹⁸ HEIN e SELDEN, “Culture, power...”, cit., pp. 17-18

⁹⁹ MATSUMOTO Hideki, “Okinawa ni okeru beigun kichi mondai – Sono rekishiteki keii to genjō”, (Il problema delle basi militari americane a Okinawa – Background storico e stato attuale), in *Kokuritsu kokkai toshokan dejitaru korekushon*, 07/2004, https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_999936_po_64202.pdf?contentNo=1&alternativeNo=, consultato il 16/01/2020, p. 1

It is basically strategic, and [...] failure to secure it for control by the United States might prove militarily disastrous¹⁰⁰.

Nonostante gli americani siano stati inizialmente accolti dagli okinawani quasi come dei salvatori, in contrapposizione alla ferocia dimostrata dall'esercito giapponese durante la guerra, per garantire i loro interessi militari a lungo termine era necessario creare un ambiente sociale favorevole, legittimando la loro presenza agli occhi del popolo. Essi pensavano che il modo migliore per riuscirci fosse mettere in rilievo le peculiarità identitarie e culturali degli okinawani, ad esempio reintroducendo l'utilizzo del dialetto¹⁰¹, in una sorta di "de-giapponesizzazione", come la definisce la studiosa Monica Flint¹⁰². Pertanto, basandosi su *The Okinawa of the Loochoo Islands: A minority Group in Japan*, un documento redatto dall'Ufficio dei servizi strategici degli Stati Uniti nel 1944, gli americani sostenevano che gli okinawani fossero sempre stati discriminati, non essendo mai stati considerati come veri giapponesi, e che ciò avesse causato in loro un forte senso di antagonismo verso la patria¹⁰³. Inoltre, è molto rilevante la modifica del nome "Okinawa" in "Loochoo", ovvero Ryūkyū, con un chiaro riferimento al glorioso passato autonomo dell'omonimo Regno.

Lo scopo dell'amministrazione americana, pertanto, era quello di creare negli okinawani un forte sentimento identitario per scindere il loro legame con il Giappone ed avere così totale controllo su di loro. Questa teoria viene esemplificata da un episodio avvenuto nel 1958, in cui una squadra locale di baseball, tornata da un torneo nella madrepatria, fu obbligata a spargere in mare la terra che aveva portato come ricordo, poiché rappresentava un atto sovversivo¹⁰⁴.

Anche se, secondo Ōta, per sopravvivere la popolazione non aveva altra scelta che accettare la presenza statunitense, in un primo momento la prospettiva di Okinawa libera dal Giappone e fiera delle proprie origini parve trovare un riscontro positivo tra i cittadini. Tuttavia, essi capirono ben presto che si trattava solamente di un inganno, sviluppando a poco a poco una crescente avversione al potere americano.

Prima di tutto, infatti, la priorità di quest'ultimo era di usare Okinawa come stoccaggio delle merci e come zona di partenza per le operazioni militari all'estero¹⁰⁵. Così, poco dopo la fine

¹⁰⁰ Masahide ŌTA, "The U.S. Occupation of Okinawa and Postwar Reforms in Japan Proper", in Robert E. Ward e Sakamoto Yoshikazu (a cura di), *Democratizing Japan: The Allied Occupation*, Honolulu, University of Hawaii Press, 1987, doi:10.2307/j.ctv9zcm6g.14, p. 5

¹⁰¹ HAMMINE, "Indigenous in...", cit., p. 11

¹⁰² Monica FLINT, "Governor Takeshi Onaga and the US Bases in Okinawa: The Role of Okinawan Identity in Local Politics", *New Voices in Japanese Studies*, 10, 02/07/2018, <https://doi.org/10.21159/nvjs.10.02>, p. 6

¹⁰³ ŌTA, "The U.S...", cit., p. 4

¹⁰⁴ HEIN e SELDEN, "Culture, power...", cit., p. 19

¹⁰⁵ ŌTA, "The U.S...", cit., pp. 12-17

del conflitto, mentre circa 200.000 cittadini furono isolati in campi di concentramento¹⁰⁶, i soldati iniziarono a requisire i loro terreni privati, spesso con l'uso di bulldozer e baionette, per costruirvi nuove basi militari o ampliare quelle lasciate dai giapponesi¹⁰⁷.

Foto 3 – Okinawani isolati in campi di concentramento



Fonte: <https://s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/img.imidas.jp/topics/wp-content/uploads/2018/02/22214653/C-40-108-18-02-1.png>

Oltre al danno morale ed ambientale, questa massiccia militarizzazione peggiorò anche il livello di vita della popolazione, poiché si moltiplicarono gli incidenti e i crimini. Infatti, Hein e Selden sottolineano che

The military installations made dangerous neighbors: Sometimes ordnance exploded in nearby towns, planes crashed into buildings, and artillery fired in the wrong direction. The troops were [...] a menace, too. [...] Local civilians have had to put up with a steady stream of traffic accidents, brawls, drunken attacks, and petty theft by American soldiers and sailors. [...] U.S. military courts blatantly and routinely favored American over Japanese parties in legal disputes over those issues¹⁰⁸.

La conseguenza più grave, però, fu che gli americani non avevano nessun interesse in un'efficace ricostruzione economica, essendo il rafforzamento bellico la loro priorità. Già nel 1879 Okinawa era la prefettura economicamente più debole del Giappone, poiché, essendo stata

¹⁰⁶ STANFORD UNIVERSITY, "Okinawa no mirai ~ Jizoku kanōna seichō to beigun kichi no arikata", (Il futuro della crescita sostenibile di Okinawa e la gestione delle forze armate statunitensi), in *Okinawaken*, 14/10/2019, <https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/kichitai/documents/su.pdf>, consultato il 19/01/2020, p. 9

¹⁰⁷ OKINAWAKEN, "Transcript for Changing East Asian Security Dynamics and Okinawa: Re-examining the U.S. Force Posture in Japan", in *Okinawa Prefectural Government – Washington D.C. Office*, 13/03/2018, http://dc-office.org/wp-content/uploads/2018/06/01-EN_East-Asian-Security-Dynamics-Transcription_.pdf, consultato il 21/01/2020, pp. 4-5

¹⁰⁸ HEIN e SELDEN, "Culture, power...", cit., p. 20

fino ad allora indipendente, non aveva goduto dello stesso sviluppo della madrepatria. Di conseguenza, la sua sussistenza si basava principalmente sulla produzione agricola, ma la maggior parte delle zone coltivabili dell'isola furono distrutte dalla costruzione delle basi militari americane, creando così una struttura economica fortemente dipendente da queste ultime. Infatti, come riporta Caroli, gli okinawani impiegati in attività legate alle basi erano circa 15.000 nel 1946, ma aumentarono a ben 72.000 nel 1953¹⁰⁹. Per di più, oltre al divieto di organizzare scioperi, questi lavoratori ricevevano un misero salario, 8 volte più basso rispetto a quello medio giapponese¹¹⁰.

Pertanto, è possibile affermare che la discriminazione sociale, denominatore comune della storia di Okinawa, continuò anche nel dopoguerra. Nonostante non si possa negare che i giapponesi abbiano sempre giudicato gli okinawani con aria di superiorità, la politica attuata dagli statunitensi si basò unicamente sull'appropriazione indebita di caratteri storico-culturali allo scopo di legittimare la sottomissione della popolazione e la trasformazione del territorio in un arsenale di guerra.

Tuttavia, come sostiene Ōta, la tecnica ideologica messa a punto dall'amministrazione americana ebbe l'effetto contrario, dal momento che diede vita al cosiddetto movimento per il ritorno, basato sul desiderio degli okinawani di tornare sotto il controllo giapponese. Questo, naturalmente, non significa che avessero già dimenticato le sofferenze patite per mano dei loro connazionali durante la guerra o che fossero disposti a mettere da parte la propria identità per assumere del tutto quella nazionale. Piuttosto, essi desideravano godere dello stesso benessere economico della madrepatria ed assumere i diritti civili garantiti ai suoi cittadini, in modo particolare essere tutelati dalla nuova costituzione pacifista, entrata in vigore nel 1947¹¹¹. In effetti, l'articolo 9 di quest'ultima, per evitare il riarmo del Giappone e la conseguente minaccia agli Stati Uniti, sancisce la rinuncia alla guerra, stabilendo a tal proposito il divieto di mantenere land, sea, and air forces, as well as other war potential¹¹².

Gli okinawani, pertanto, speravano che la fine dell'amministrazione americana avrebbe coinciso anche con lo smantellamento di tutte le strutture militari presenti nella prefettura, essendo queste vietate dalla Costituzione.

¹⁰⁹ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 179

¹¹⁰ HEIN e SELDEN, "Culture, power...", cit., pp. 19-20

¹¹¹ FLINT, "Governor Takeshi...", cit., p. 6

¹¹² "The Constitution of Japan", in *Prime Minister of Japan and His Cabinet*, 03/11/1946, https://japan.kantei.go.jp/constitution_and_government_of_japan/constitution_e.html, consultato il 26/01/2020

Ciononostante, le loro speranze furono nuovamente disattese quando nel 1952, con l'entrata in vigore del Trattato di pace di San Francisco, il Giappone riacquistò la sua indipendenza, senza però nessun mutamento della condizione di Okinawa. In effetti, sebbene il Trattato riconoscesse la sovranità del popolo giapponese sul territorio nazionale, comprese quindi anche le isole Ryūkyū, in merito a queste ultime l'articolo 3 sanciva che

the United States will have the right to exercise all and any powers of administration, legislation and jurisdiction over the territory and inhabitants of these islands, including their territorial waters¹¹³.

In altre parole, gli okinawani erano cittadini giapponesi ma continuavano ad essere governati dagli americani, in quanto questi ultimi consideravano che i recenti mutamenti della situazione geopolitica lo richiedessero. Infatti, per gli Stati Uniti erano assai allarmanti sia l'ascesa del comunismo in Cina, alla fine degli anni Quaranta, sia le crescenti tensioni internazionali che avrebbero poi portato alla Guerra Fredda (1947-1991) e alla Guerra di Corea (1950-53)¹¹⁴.

Inoltre, contemporaneamente al Trattato di pace fu firmato anche il Trattato bilaterale di sicurezza nippo-americano, il cui primo articolo concede agli Stati Uniti di mantenere in Giappone

land, air and sea forces [...] to contribute to the maintenance of international peace and security in the Far East and to the security of Japan against armed attack from [...] outside [...] powers¹¹⁵.

Pertanto, non solo non avvenne l'agognato ritorno alla madrepatria, ma le basi militari non furono nemmeno smantellate. Come sostiene Agarie,

Anche in questo importante cambiamento di status, come nel caso della precedente disposizione Ryūkyū, si passò completamente sopra alle intenzioni dei cittadini¹¹⁶.

Ancora una volta, quindi, al pari della Seconda guerra mondiale, gli okinawani furono usati dal Giappone per garantire il suo benessere e i suoi interessi. Infatti, essendo sotto diretta amministrazione statunitense, ad Okinawa non veniva applicata la nuova costituzione. Così, in seguito a forti proteste dei cittadini, animati da un profondo senso pacifista, la maggior parte delle truppe e delle basi americane, comprese quelle nucleari, presenti nella madrepatria furono

¹¹³ UNITED NATIONS, "No. 1832. Treaty 1 of peace with Japan. Signed at San Francisco, on 8 september 1951", in *United Nations Treaty Collection*, 08/09/1951, <https://treaties.un.org/doc/Publication/UNTS/Volume%20136/volume-136-I-1832-English.pdf>, consultato il 27/01/2020

¹¹⁴ Frank L. KEBELMAN, "Okinawa: A strategic analysis", (Air University, 04/1987), <https://apps.dtic.mil/dtic/tr/fulltext/u2/a179839.pdf>, consultato il 27/01/2020, p. 17

¹¹⁵ "Bilateral Security Treaty between the United States of America and Japan (September 8, 1951)", in *Asia for Educators*, 08/09/1951, http://afe.easia.columbia.edu/ps/japan/bilateral_treaty.pdf, consultato il 29/01/2020, p. 2

¹¹⁶ AGARIE, "Aidentiti no...", cit.

trasferite nell'ex prefettura, aggravando ulteriormente la sua condizione¹¹⁷. Inoltre, siccome in questo modo il mantenimento dell'intera struttura militare fu relegato a Okinawa, il Giappone poté concentrare tutte le sue risorse sulla propria crescita economica¹¹⁸. Di conseguenza, come sostiene Ōta, il ruolo assegnato a Okinawa dovrebbe essere visto come uno sforzo congiunto nippo-statunitense¹¹⁹.

Il crescente malcontento per il trattamento subito, naturalmente, diede sempre più enfasi al movimento per il ritorno, riflettendo la speranza locale di liberarsi dalla presenza straniera e dalla discriminazione che ne derivava. Infatti, essendo esclusi sia dalla costituzione giapponese che da quella americana, dato il loro status particolare, i cittadini non godevano di diritti civili ed umani¹²⁰, quali ad esempio la libertà di espressione e la parità di genere¹²¹. Inoltre, per recarsi all'esterno di Okinawa era necessario ottenere il permesso dall'amministrazione statunitense, tramite il rilascio di una speciale carta d'identità, in cui il richiedente doveva dichiarare di essere di nazionalità ryūkyūana, in quanto definirsi giapponese era considerato al pari di una frode¹²².

Generava molto scontento anche il continuo esproprio di terreni privati allo scopo di costruire nuove basi militari, accentuando la sempre più marcata militarizzazione dell'isola, dalla quale, a partire dal 1965, partirono le squadre americane impegnate nella guerra del Vietnam.

Naturalmente, l'amministrazione americana non vedeva molto di buon occhio le insistenti rivendicazioni okinawane, temendo che fossero fomentate da uno spirito comunista¹²³. Tuttavia, la questione andò assumendo sempre più rilievo anche a livello nazionale. Infatti, il governo centrale, dipendente dagli Stati Uniti per la propria sicurezza, si trovava in una posizione scomoda, dovendo fare i conti con un'opinione pubblica prevalentemente contraria alla guerra e dotata di una forte identità nazionale, manifestata nell'idea che il ritorno di Okinawa significasse ricomporre l'etnia unica giapponese¹²⁴.

Di fatto, nonostante le discriminazioni, le sofferenze e le delusioni subite in passato, per ricevere il sostegno necessario alla propria causa, gli okinawani espressero la loro visione antiamericana in chiave nazionale, ovvero sostenendo di essere giapponesi e adottando la

¹¹⁷ STANFORD UNIVERSITY, "Okinawa no mirai...", cit., p. 10

¹¹⁸ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 186

¹¹⁹ ŌTA, "The U.S....", cit., p. 22

¹²⁰ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 204

¹²¹ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 62

¹²² AGARIE, "Aidentiti no...", cit.

¹²³ CAROLI, *Il mito...*, cit, pp. 219-222

¹²⁴ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 231

bandiera nipponica. Pertanto, come nota Caroli, essi sembravano disposti a mettere da parte i propri caratteri identitari e culturali pur di poter godere degli stessi vantaggi della madrepatria¹²⁵.

1.4. Il ritorno in Giappone dei *dojin*: nuove forme di discriminazione sociale dopo il 1972

Nella canzone 「時代の流れ」, (*Jidai no nagare*, “Lo scorrere del tempo”) Hirayasu Takashi canta in dialetto ryūkyūano

唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から大和の世。ひるまさ
変わたるこの沖縄 (*tō nu yū kara yamatu nu yū, yamatu nu yū kara amerika yū, amerika
yū kara yamatu nu yū. Hirumasa kawataru kunu uchinā*),

ovvero

“Dalla Cina al Giappone, dal Giappone all’America, dall’America al Giappone. Oh, quanto spesso cambiano le cose a Okinawa”¹²⁶.

Infatti, l’accesa lotta sociale condotta dagli okinawani raggiunse finalmente il suo obiettivo il 15 maggio 1972 con l’entrata in vigore dell’Accordo di reversione di Okinawa¹²⁷, grazie al quale dopo 27 anni il Giappone riacquistò il controllo amministrativo della prefettura, introducendovi aspetti fondamentali come la costituzione, l’assicurazione sanitaria e il sistema pensionistico¹²⁸.

¹²⁵ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 221

¹²⁶ SEKI Hiroshi, “Jidai no nagare”, in *Taru – no shimauta majimena kenkyū*, 26/12/2005, <https://taru.ti-da.net/e623725.html>, consultato il 06/04/2020

¹²⁷ “Okinawa henkan kyōtei oyobi kankei shiryō”, in *Ministry of Foreign Affairs of Japan*, 17/06/1971, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1972/s47-shiryō-4-1.htm#k346>, consultato il 03/02/2020

¹²⁸ HEIN e SELDEN, “Culture, power...”, cit., p. 21

Foto 4 - Cartello congratulatorio per il ritorno di Okinawa in Giappone



Fonte: https://3.bp.blogspot.com/-4Ki3ukamACw/WjJg0Fl3avI/AAAAAAAAAK1w/OzYJBvrj49AMb26a_ILVq0mOpQ8TS5F8ACLcBGAs/s1600/CFCRY4SUIAA-SXm.png

1.4.1. L'insoddisfazione okinawana per il ritorno in Giappone

Tuttavia, nonostante il sollievo per essere stata liberata dal controllo amministrativo diretto americano, la popolazione locale non poté nascondere la propria amarezza nei confronti del contenuto dell'Accordo. Infatti, secondo un sondaggio condotto poco dopo il ritorno alla madrepatria, solo il 38% degli intervistati se ne riteneva soddisfatto, mentre ben 53% non ne era entusiasta¹²⁹. L'anno successivo, il 62% dei partecipanti ad un questionario redatto dal quotidiano nazionale *Asahi Shinbun* sosteneva che il ritorno sotto l'amministrazione giapponese non avesse soddisfatto le loro aspettative, mentre solo il 15% se ne riteneva felice, rappresentando un peggioramento generale dell'opinione rispetto al 1972. In particolare, il 23% pensava che il ritorno non avesse comportato nessun miglioramento e secondo il 57% in futuro la loro vita sarebbe peggiorata¹³⁰.

Questo sentimento diffuso venne chiaramente espresso da Chōbyō Yara, governatore di Okinawa dal 1972 al 1976, a detta del quale

“considerando il significato del ritorno sulla base dei desideri e sentimenti sinora [avuti] dalla popolazione della provincia di Okinawa, non si può certo dire che esso abbia esaudito le ardenti speranze”¹³¹.

Infatti, secondo il cosiddetto Consiglio per la restituzione, fondato nel 1960 e basato su temi quali la pace i diritti umani,

¹²⁹ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 260

¹³⁰ “Okinawa: The First Year”, *Japan Quarterly*, 20, 3, 01/07/1973, <https://search.proquest.com/docview/1304274115?accountid=17274>, p. 5

¹³¹ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 253

We, the citizens of the Okinawa Prefecture [...] are firmly opposed to any military bases. The majority of us wished for immediate, unconditional and total reversion under the pacifist Japanese Constitution [...]. The 'Return of Okinawa Pact', however, made the reversion totally different from what the citizens of the Okinawa Prefecture have really hoped for¹³².

Infatti, l'articolo 3 dell'Accordo relativo alle isole Ryukyu e alle isole Daitō, entrato in vigore il primo ottobre 1972, sancisce che

Japan will grant the United States of America [...] the use of facilities and areas in the Ryukyu Islands [...] in accordance with the Treaty of Mutual Co-operation and Security between Japan and the United States of America signed at Washington on January 19, 1960¹³³.

Il Trattato di cooperazione e sicurezza reciproca tra il Giappone e gli Stati Uniti d'America, a cui si fa riferimento, rappresenta l'emendamento del Trattato bilaterale di sicurezza nippo-americano del 1952 e definisce che

For the purpose of contributing to the security of Japan and the maintenance of international peace and security in the Far East, the United States of America is granted the use by its land, air and naval forces of facilities and areas in Japan¹³⁴.

In altre parole, il controllo amministrativo di Okinawa tornava al Giappone, ma la perpetua presenza americana non cambiava il ruolo della prefettura, che continuava ad occupare una posizione centrale nella strategia militare degli Stati Uniti e, di conseguenza, nei rapporti nippo-statunitensi. Pertanto, così come in passato, la massiccia militarizzazione continuò a creare molti disagi nella vita quotidiana degli abitanti¹³⁵, tanto che nel sondaggio dell'*Asahi Shinbun* ben 63% degli intervistati sosteneva di provare insicurezza in merito alla situazione delle basi militari americane a Okinawa¹³⁶.

Inoltre, sebbene il numero di soldati americani venne ridotto, furono stanziati a Okinawa circa 6.800 uomini appartenenti alle Forze di autodifesa giapponesi, un numero, ancora una volta, molto più alto che nel resto del Paese¹³⁷. Secondo il sopraccitato sondaggio, la presenza dei giapponesi non era gradita al 48% degli okinawani¹³⁸, soprattutto perché riportava a galla il

¹³² TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 109

¹³³ UNITED NATIONS, "Agreement concerning the Ryukyu Islands and the Daito Islands (with agreed minutes and exchanges of notes). Signed at Tokyo and Washington on 17 June 1971", in *United Nations Treaty Collection*, 17/06/1971, <https://treaties.un.org/doc/publication/unts/volume%20841/volume-841-i-12037-english.pdf>, consultato il 03/07/2020, p. 3

¹³⁴ "Treaty of Mutual Cooperation and Security between Japan and the United States of America", in *Ministry of Foreign Affairs of Japan*, 19/01/1960, https://www.mofa.go.jp/na/st/page1we_000093.html, consultato il 03/07/2020

¹³⁵ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 261

¹³⁶ "Okinawa: The...", cit., p. 5

¹³⁷ CAROLI, *Il mito...*, cit., pp. 246-247, 261

¹³⁸ "Okinawa: The...", cit., p. 5

doloroso ricordo delle sofferenze patite per mano dell'esercito nipponico durante la Seconda guerra mondiale¹³⁹. Questa forte opposizione fu espressa durante l'Incontro speciale nazionale di atletica, tenutosi in varie città dell'isola di Okinawa dal 3 al 6 maggio 1973 e organizzato dal governo centrale per celebrare la restituzione di Okinawa al Giappone. A scatenare l'ira pubblica, in particolar modo delle unioni degli insegnanti e dei lavoratori, fu la partecipazione di una squadra di baseball proveniente dalla madrepatria e composta da membri delle Forze di autodifesa. Essi, infatti, furono accolti da cori di proteste e si videro negare la possibilità di allenarsi in una scuola, poiché erano considerati

“A bunch of murderers [of] the Japanese army”¹⁴⁰.

L'insoddisfazione dei cittadini per il ritorno fu rivolta anche alla vaghezza espressa riguardo all'ubicazione delle armi nucleari e alla contrastata restituzione dei terreni privati precedentemente espropriati. L'esercito americano, infatti, si limitò a riconsegnare ai legittimi proprietari quelli situati in aree per loro non strategiche, ovvero lontano dalle città e dalle coste. Tuttavia, erano proprio queste zone centrali che avrebbero permesso a Okinawa di attuare un reale sviluppo urbano e finanziario, dando vita ad un sistema autonomo, non più dipendente dalle basi militari¹⁴¹, il cui reddito, nel 1972, rappresentava ben 15% di quello prefettizio lordo¹⁴².

A questo proposito, però, Caroli sottolinea l'esistenza di due tendenze divergenti. Da una parte, come precedentemente enunciato, la maggioranza dell'opinione pubblica locale desiderava l'abolizione di tutte le strutture militari, considerate un ingiusto fardello, dal momento che nel 1972 il 59% dell'area dedicata all'esercito americano si trovava a Okinawa, contro il 41% del Giappone¹⁴³. Tuttavia, qualora le basi fossero state del tutto abrogate, le circa 50.000 persone che avevano fino ad allora vissuto grazie ad esse temevano naturalmente per il proprio futuro. Il 90% di loro, infatti, non pensava di poter trovare un altro lavoro¹⁴⁴.

¹³⁹ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 265

¹⁴⁰ “Okinawa: The...”, cit., pp. 1-2

¹⁴¹ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 247

¹⁴² OKINAWAKEN KIKAKUBU KIKAKU CHŌSEIKA, “(Yoku aru shitsumon) Beigun kichi to Okinawa keizai ni tsuite”, ((Domande frequenti) Le basi militari americane e l'economia di Okinawa), in *Okinawaken*, 14/01/2020, <https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/yokuaru-beigunkichiandokinawakeizai.html>, consultato il 07/02/2020

¹⁴³ OKINAWAKEN, “What Okinawa Wants You to Understand about the U.S. Military Bases”, in *Okinawa Prefectural Government – D.C. Office*, 03/2018, <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2018/03/E-all.pdf>, consultato il 07/02/2020, p.7

¹⁴⁴ CAROLI, *Il mito...*, cit., pp. 249-250

1.4.2. Le critiche okinawane al sistema imperiale

Nonostante, nella sua lotta al dominio americano, il *fukkikyō* avesse dato enfasi all'identità giapponese degli okinawani, la delusione provata da questi ultimi per le caratteristiche del ritorno in Giappone portò ad un'importante rivisitazione dell'immagine del sistema imperiale e dell'imperatore Hirohito (1928-1989).

Prima di tutto, venne ad essere considerato responsabile della Battaglia di Okinawa e dei numerosi morti che causò. In particolar modo, il popolo di Okinawa puntava il dito contro il fervente nazionalismo di quegli anni, secondo il quale ogni buon giapponese dovesse sacrificarsi per la gloria dell'Imperatore e della patria. Gli okinawani stessi, nella speranza di essere finalmente riconosciuti come sudditi, desideravano partecipare alla causa nazionale, ma a posteriori essi riconoscevano la natura fortemente propagandistica di questa ideologia e le atrocità commesse dall'esercito giapponese in nome dell'Imperatore. Infatti, vari sopravvissuti ricordavano che durante i suicidi di massa, prima dello scoppio delle granate distribuite dai soldati nipponici, si sentisse urlare “天皇陛下万歳” (*Tennō heika banzai*), ovvero “Lunga vita all'Imperatore!”¹⁴⁵.

L'immagine di quest'ultimo fu ulteriormente screditata nel 1979, con la declassificazione del cosiddetto “messaggio imperiale”, come viene chiamato dagli okinawani. Si tratta di una nota, datata 1947, in cui William Sebald, consigliere politico del generale MacArthur, riferisce una sua conversazione con Terasaki Hidenari, portavoce di Hirohito presso l'esercito americano. In essa si può leggere che

Mr. Terasaki stated that the Emperor hopes that the United States will continue the military occupation of Okinawa and other islands of the Ryukyus. In the Emperor's opinion, such occupation would benefit the United States and also provide protection for Japan. [...] The Emperor [...] feels that United States military occupation of Okinawa [...] should be based upon the fiction of a long-term lease – 25 to 50 years or more with sovereignty retained in Japan¹⁴⁶.

Essendo che gli americani occupavano già Okinawa per la sua posizione strategica, secondo gli okinawani questo messaggio indica chiaramente che Hirohito intendesse usare il piccolo arcipelago quasi al pari di una merce di scambio con l'America, in modo da riacquistare in fretta e a condizioni favorevoli l'indipendenza del Giappone¹⁴⁷.

¹⁴⁵ RABSON, “Okinawan perspectives...”, cit., p. 1

¹⁴⁶ “Tennō messēji”, (‘Il messaggio imperiale’), in *Okinawaken kōbunshokan*, 25/03/2008, https://www.archives.pref.okinawa.jp/uscar_document/5392, consultato il 04/07/2020

¹⁴⁷ RABSON, “Okinawan perspectives...”, cit., p. 10

In seguito, nel 1990 furono pubblicati dalla stampa i resoconti bellici dell'Imperatore, ritrovati postumi tra i beni di Terasaki. Da questi, infatti, risulta che all'inizio del 1945 Hirohito non ascoltò l'ex primo ministro Kono Fumimaro, rifiutando di interrompere tempestivamente le ostilità belliche, sostenendo che avrebbe avuto luogo un'ultima e decisiva battaglia, molto probabilmente a Okinawa. Dato il tragico risultato del conflitto, scoprire che essa avrebbe potuto essere evitata provocò molta rabbia tra gli okinawani. Ad esempio, Senaga Kamejiro, appartenente al Partito Comunista e sindaco di Naha nel 1957, scrisse che

“The emperor could have made the decision to end the war, but he prolonged it out of concern for his own personal [...] and to preserve the emperor system”¹⁴⁸.

Naturalmente, negli anni furono organizzate varie proteste, come quella che si opponeva alla partecipazione dell'allora Principe Akihito e della sua consorte, la Principessa Michiko, alla cerimonia di inaugurazione dell'Esposizione oceanica internazionale, tenutasi nella penisola di Motobu (a nord dell'isola di Okinawa) da luglio 1975 a gennaio 1976. Nonostante per l'occasione fossero stati reclutati circa 3.800 agenti di polizia, alcuni manifestanti riuscirono a scagliare ben due bombe incendiarie contro l'*entourage* imperiale, non ferendo però nessuno.

Come accadde nel 1973, anche nel 1987 l'Incontro nazionale di atletica, organizzato nella prefettura, fu motivo di proteste, questa volta dirette alla partecipazione dell'Imperatore. Si pensava, infatti, che Hirohito sfruttasse occasioni come queste per promuovere la sua figura, ignorando completamente il difficile passato di Okinawa¹⁴⁹. Il gesto più estremo fu sicuramente quello di un ragazzo che calò la bandiera nazionale e la incendiò. Infatti, essendo i simboli dello Stato, sia la bandiera che l'inno giapponese venivano associati dagli okinawani al loro passato di difficili relazioni con il Giappone. Secondo i risultati di un sondaggio, pubblicati nel 1985, l'uso della bandiera era favorito da circa 7% degli studenti delle elementari e da circa 6% di quelli delle scuole medie, mentre tutti i liceali dichiararono di essere contrari. Inoltre, la totalità degli intervistati sostenne di non accettare l'utilizzo dell'inno nazionale¹⁵⁰.

Akihito e Michiko ricevettero aspri critiche anche una volta saliti al trono dopo la morte di Hirohito nel 1989. Ad esempio, nell'aprile del 1993, mentre si trovavano a Okinawa per presenziare alla festa dell'Arbor Day, Akihito pronunciò parole di conforto ai sopravvissuti della Battaglia, ma secondo il *Ryūkyū Shinpō* non fece nessun riferimento alla responsabilità imperiale nel conflitto e nell'altissimo numero di morti che comportò¹⁵¹. Infatti, nonostante

¹⁴⁸ RABSON, “Okinawan perspectives...”, cit., pp. 8-9

¹⁴⁹ RABSON, “Okinawan perspectives...”, cit., p. 12

¹⁵⁰ CAROLI, *Il mito...*, cit., pp. 276-277

¹⁵¹ RABSON, “Okinawan perspectives...”, cit., p. 14

l'Imperatore abbia più volte rivendicato il suo interesse per la storia e la cultura di Okinawa, quando parlava della tragicità della Seconda guerra mondiale usava verbi passivi che sottintendono proprio un'assenza di colpa, come

A truly tragic battle unfolded in Okinawa [...]. Countless lives were lost¹⁵².

Infine, gli okinawani erano contrari anche al fatto che vari artisti partecipassero ad eventi organizzati dall'Imperatore o ricevessero da lui onorificenze, poiché lo consideravano uno stratagemma del governo centrale volto a distogliere l'attenzione dai reali problemi di Okinawa, come la massiccia presenza militare¹⁵³.

1.4.3. Discriminazione sociale da parte dei giapponesi dagli anni Settanta ad oggi

Il ritorno di Okinawa sotto l'amministrazione giapponese non solo non coincise con le aspettative della popolazione locale, ma non rappresentò nemmeno la fine dei problemi sociali, caratteristici della prefettura fin dal XIX secolo. Infatti, nonostante i giapponesi avessero spinto per la restituzione di Okinawa, ponendo l'accento sulla teoria dell'etnia omogenea, il comportamento dispregiativo da loro attuato nei confronti degli okinawani continuò imperterrito anche dopo il 1972.

Così come nei primi anni del XX secolo, infatti, coloro che vivevano a Ōsaka e in altre città sviluppate della madrepatria subirono vari episodi di discriminazione sociale, come il caso di un'infermiera licenziata per via del suo presunto accento okinawano o quello di un commesso molestato verbalmente dal suo titolare perché non familiare con il dialetto locale. Infatti, il linguaggio risulta proprio essere uno dei principali ostacoli alla completa integrazione degli okinawani nella società giapponese, come racconta una donna emigrata in Giappone verso il 1985:

“I had real trouble with language when I first arrived, especially because idioms and intonation were different. I felt depressed because I was often unable to express myself or understand completely what others said. Even today, I have occasional problems.”¹⁵⁴.

Inoltre, vari ristoranti e locali negavano l'ingresso agli okinawani, mentre certi condomini persistevano nel rifiutare loro di affittare delle abitazioni¹⁵⁵.

L'esempio più recente di discriminazione sociale viene fornito da un episodio risalente al 18 ottobre 2016, che vede protagonisti due ufficiali di polizia antisommossa, provenienti da Ōsaka,

¹⁵² RABSON, “Okinawan perspectives...”, cit., pp. 16-17

¹⁵³ RABSON, “Okinawan perspectives...”, cit., p. 2

¹⁵⁴ RABSON, “Life and...”, cit., pp. 112, 116

¹⁵⁵ RABSON, “Life and...”, cit., p. 116

mandati presso la Northern Training Area, una delle basi militari americane sull'isola di Okinawa, per contenere le proteste della popolazione locale contro la costruzione di nuovi eliporti. È stato riferito che i due uomini si siano rivolti ad alcuni attivisti chiamandoli “土人” (*Dojin*), che significa letteralmente “persona nata e cresciuta in un dato territorio; indigeno”, ma che può anche assumere la connotazione negativa di “aborigeno”¹⁵⁶. Nonostante i due soggetti siano stati redarguiti dai propri superiori, in quanto i loro propositi sono stati altamente offensivi, il governatore di Ōsaka, Matsui Ichirō, non è stato altrettanto duro. Il giorno seguente, infatti, scrisse sul suo *account* Twitter che

“Although the expression may be inappropriate, I understood that the officers of Osaka Prefectural Police were earnestly performing their duties as instructed. Thank you for the work away from home”¹⁵⁷.

Naturalmente,

The “dojin” remark deeply hurt not only the protesters, but also the hearts of the people of Okinawa¹⁵⁸.

Infatti, secondo Onaga Takeshi, governatore della prefettura dal 2014 al 2018, si trattava di

“an outrageous act that is utterly unacceptable”¹⁵⁹.

Così, il 24 ottobre 150 persone si riunirono in protesta presso l'Ufficio prefettizio di Ōsaka, chiedendo che il governatore si scusasse con il popolo di Okinawa e che la Polizia della città non fosse più inviata sull'isola¹⁶⁰.

Tuttavia, nonostante le varie contestazioni, durante la seduta della Camera Alta dell'08 novembre 2017, Tsuruho Yōsuke, l'allora ministro per gli Affari di Okinawa e dei Territori Settentrionali, sostenne che il significato discriminatorio della parola “*dojin*” sia difficile da valutare, esprimendo un pensiero condiviso anche dal Partito Liberal Democratico (LDP) del primo ministro Abe Shinzō¹⁶¹. La stampa locale reagì molto duramente a questo atteggiamento, sancendo che

¹⁵⁶ “Editorial: Government responsible for structural discrimination behind ‘dojin’ remark”, *Ryūkyū Shinpō*, 20/10/2016, <http://english.ryukyushimpo.jp/2016/10/25/25930/>, consultato il 12/02/2020

¹⁵⁷ ERD Net, “Joint Civil Society Report on Racial Discrimination in Japan”, in *United Nation Human Rights – Office of the High Commissioner*, 08/2018, https://tbinternet.ohchr.org/Treaties/CERD/Shared%20Documents/JPN/INT_CERD_NGO_JPN_31918_E.pdf, consultato il 13/02/2020, p. 21

¹⁵⁸ “Editorial: Government...”, cit.

¹⁵⁹ “Osaka Gov. defends cops who insulted Okinawa anti-base protesters”, *The Mainichi*, 20/10/2016, <https://mainichi.jp/english/articles/20161020/p2a/00m/0na/004000c>, consultato il 13/02/2020

¹⁶⁰ “Protests in Osaka call for withdrawal of Osaka police from Okinawa after ‘dojin’ remark”, *Ryūkyū Shinpō*, 25/10/2016, <http://english.ryukyushimpo.jp/2016/10/27/25944/>, consultato il 15/02/2020

¹⁶¹ ERD Net, “Joint Civil...”, cit., p. 21

Okinawa is not a colony of Japan. The Japanese government's discriminatory policies are responsible for discrimination against Okinawa [...]. As long as structural discrimination against Okinawa is not remedied, there will be no end to fruitless confrontation¹⁶².

Simili proteste da parte degli okinawani vengono spesso giudicate negativamente dai giapponesi. Molti di loro, infatti, non conoscendo dettagliatamente né la storia di Okinawa né i disagi causati dalla massiccia presenza militare americana, considerano che le loro rivendicazioni siano indice di poco patriottismo, motivo per cui essi dovrebbero addirittura alienarsi dal Giappone¹⁶³. A questo proposito è molto incisivo un quesito posto da Agarie:

Gli okinawani stanno diventando giapponesi, vengono riconosciuti come giapponesi o sono giapponesi¹⁶⁴?

1.4.4. *Okinawa Times* e *Ryūkyū Shinpō*: la stampa locale e le accuse americane di manipolazione

Nonostante la cessazione del loro controllo amministrativo diretto, anche gli statunitensi sembrano aver mantenuto il loro senso di superiorità rispetto agli abitanti di Okinawa, come dimostra un episodio avvenuto il 3 dicembre 2011. Secondo quanto riportato dal quotidiano nazionale *The Japan Times*, durante una conferenza, Kevin Maher, l'allora responsabile degli affari giapponesi al Dipartimento di Stato americano, definì gli okinawani come

“masters of manipulation and extortion”, riferendosi ai difficili rapporti con il governo centrale sul tema della presenza militare statunitense¹⁶⁵. Nonostante egli abbia negato la veridicità di questa affermazione, naturalmente le sue parole causarono molto scalpore, portando al suo licenziamento e alle scuse ufficiali del vicesegretario di Stato Kurt Campbell¹⁶⁶. Ōta, esprimendo un'opinione diffusa tra gli okinawani, dipinse Maher come una persona abituata a questo tipo di equivoci, oltre che con un distorto senso della realtà, dal momento che non considerava nemmeno Okinawa come parte del

¹⁶² “Editorial: Government...”, cit.

¹⁶³ “Okinawa de no bōgen Murikai ga bundan o hirogeru”, *Mainichi Shinbun*, 21/10/2016, <https://mainichi.jp/articles/20161021/ddm/005/070/035000c>, consultato il 18/02/2020

¹⁶⁴ AGARIE, “Aidentiti no...”, cit.

¹⁶⁵ “U.S. diplomat accused of disparaging Okinawans - Islanders 'masters of manipulation and extortion' on Futenma issue”, *The Japan Times*, 07/03/2011, <https://www.japantimes.co.jp/news/2011/03/07/national/u-s-diplomat-accused-of-disparaging-okinawans/#.XoDccogzblV>, consultato il 15/02/2020

¹⁶⁶ Travis J. TRITTEN, “State Dept. official in Japan fired over alleged derogatory remarks”, *Stars and Stripes*, 09/03/2011, <https://www.stripes.com/news/state-dept-official-in-japan-fired-over-alleged-derogatory-remarks-1.137181>, consultato il 15/02/2020

Giappone, ma piuttosto come una sorta di colonia americana¹⁶⁷. Questa notizia ebbe risalto anche a livello nazionale, tanto che l'ex diplomatico Magosaki Ukeru definì la visione di Maher “biased and completely distorted”¹⁶⁸.

Al contrario, è profondamente controcorrente il punto di vista di Robert D. Eldridge, membro civile del Dipartimento della difesa statunitense. Infatti, pur riconoscendo le pratiche discriminatorie attuate in passato dal Giappone, egli sostiene che negli ultimi decenni gli okinawani abbiano mostrato un atteggiamento sempre più negativo, siccome tendono a manipolare a loro piacimento eventi come quello di Maher per ottenere l'appoggio dell'opinione pubblica, effettuando una sorta di

“blackmail by the weak”¹⁶⁹.

Eldridge afferma che questa tecnica sembra funzionare, dal momento che, secondo lui, Okinawa gode di

disproportionally large amount of influence within Japan, and particularly vis-à-vis the central government [...], a fact that is increasingly resented in other equally less-well-off parts of [...] mainland Japan¹⁷⁰.

Egli si scaglia particolarmente contro i politici e i media locali, ovvero il *Ryūkyū Shinpō* e l'*Okinawa Times*, poiché reputa che infondono pessimismo nella popolazione, criticando i governi giapponese e statunitense, invece di cercare un'effettiva soluzione alle tensioni esistenti¹⁷¹. Secondo Eldridge, infatti, la stampa locale fa spesso cattiva informazione, poiché manca di imparzialità politica, come quando, nel 2015, non fece menzione di un Marine che salvò la vita di anziano okinawano caduto dalla bicicletta in una strada altamente trafficata. Questo indicherebbe la volontà di riportare solamente fatti di cronaca negativi, tralasciando intenzionalmente atti positivi di umanità come quello sopraccitato¹⁷².

Eldridge sostiene inoltre che le autorità okinawane pubblichino dati non corretti riguardo al tasso di criminalità dei soldati americani stanziati a Okinawa, che in verità risulterebbe essere ben sei volte inferiore a quello della popolazione locale. Così facendo, secondo lui, si crea nella mente dei cittadini l'idea che le forze militari statunitensi siano

¹⁶⁷ “Former Governor of Okinawa Masahide Ota: Maher’s remarks represent his true feelings”, *Ryūkyū Shinpō*, 12/03/2020, <http://english.ryukyushimpo.jp/2011/03/12/99/>, consultato il 17/02/2020

¹⁶⁸ “U.S. diplomat...”, cit.

¹⁶⁹ Robert D. ELDRIDGE, “The Okinawa ‘Base Problem’ Today”, in *nippon.com*, 03/02/2012, <https://www.nippon.com/en/in-depth/a00501/#note-1-1>, consultato il 20/02/2020

¹⁷⁰ ELDRIDGE, “The Okinawa...”, cit.

¹⁷¹ *Ibidem*

¹⁷² Robert D. ELDRIDGE, “Words to Worry About: The Danger of Media Bias in Okinawa”, in *nippon.com*, 16/07/2015, <https://www.nippon.com/en/column/g00298/>, consultato il 05/07/2020

a lawless bunch, and that Japan has no control over them¹⁷³.

Un altro esempio a sostegno della sua opinione riguarda la polemica scatenata nel 2015 dalle affermazioni dello scrittore conservatore Hyakuta Naoki, secondo il quale

the Okinawan media was “indeed dangerous,” adding that “the two newspapers there should be destroyed”¹⁷⁴.

Il giorno seguente l’*Okinawa Times* e il *Ryūkyū Shinpō* pubblicarono un comunicato congiunto in cui condannavano duramente le parole di Hyakuta, poiché rappresentavano un attacco alla libertà di parola e di stampa. A detta dei due quotidiani, infatti,

È naturale che i media [...] siano critici nei confronti del governo [...]. Tuttavia, è semplicistico e pericoloso pensare che i media debbano essere chiusi perché sono critici nei confronti del governo. Pensiamo che sia una minaccia pericolosa non solo per i due giornali di Okinawa, ma anche per i mass media del paese¹⁷⁵.

Tuttavia, ciò che in questa questione ha maggiormente amareggiato Eldridge è il fatto che, stigmatizzando in tal modo l’intervento di Hyakuta, sia l’*Okinawa Times* che il *Ryūkyū Shinpō* hanno a loro volta violato il diritto alla libertà di parola. Egli, pertanto, sostiene che

Rather than seizing upon a good opportunity for self-evaluation, the Okinawan media [...] are firing out indiscriminately in all directions¹⁷⁶.

1.4.5. Le conseguenze del loro passato sulla moderna identità degli okinawani

Il fatto che gli okinawani continuino tuttora a subire discriminazioni da parte dei giapponesi, nonostante siano tornati nella sfera nazionale del Giappone da ben 48 anni, mette in luce che Okinawa e i suoi abitanti vengano ancora considerati come un’entità a parte, quasi di disturbo all’ideologia dell’omogeneità etnica. Infatti, complice soprattutto la censura scolastica, la maggioranza dei giapponesi sembra non essere a conoscenza del doloroso passato degli okinawani, dalle politiche di “nipponizzazione”, al sacrificio per la patria durante la Seconda guerra mondiale, fino all’accesa lotta sociale per abrogare l’amministrazione statunitense e alla delusione per i termini dell’Accordo di reversione.

È a causa di questo perpetuo trattamento discriminatorio che, come sostenuto all’inizio di questo elaborato, le radici dell’*Okinawa mondai* si trovano proprio nella difficoltà degli

¹⁷³ ELDRIDGE, “The Okinawa...”, cit.

¹⁷⁴ ELDRIDGE, “Words to...”, cit.

¹⁷⁵ SHIOHIRA Yoshikazu e TAKETOMI Kazuhiko, “Hyakuta shi hatsugen o meguru Ryūkyū Shinpō • Okinawa Taimusu kyōdō kōgi seimei”, *Ryūkyū Shinpō*, 26/06/2015, <https://ryukyushimpo.jp/news/preentry-244851.html>, consultato il 05/07/2020

¹⁷⁶ ELDRIDGE, “Words to...”, cit.

okinawani a definire sé stessi all'interno del contesto etnico giapponese. Secondo la studiosa Linda Angst, infatti,

“identity politics is implicitly one of resistance—in this case against the Japanese state and the powerful myth of Japanese cultural homogeneity”¹⁷⁷.

Pertanto, gli okinawani si sentono di diritto parte del Giappone, ma la società sembra da sempre rifiutare la loro identità autoctona, spingendo molti di loro a rinnegare il proprio bagaglio culturale poiché

no one would wish to be indigenous if they experience devaluation or discrimination after they claim their indigenous identity¹⁷⁸.

È in luce di questa dicotomia locale/nazionale che Hammine si pone un quesito molto interessante in merito al sopraccitato episodio discriminatorio avvenuto nel 2016: la parola “*dojin*” ha causato scalpore tra gli okinawani in quanto derideva la loro peculiare identità oppure perché metteva in dubbio il loro valore come giapponesi? In altre parole, per la popolazione locale è più offensivo essere considerati indigeni o non giapponesi¹⁷⁹?

Tuttavia, è più probabile che la loro rabbia fosse indirizzata al fatto che, agli occhi di molti dei loro connazionali, non sia contemporaneamente possibile essere giapponese e avere delle profonde radici culturali autoctone che differiscano da quelle della maggioranza.

Infatti, contrariamente al passato, negli ultimi decenni vi è da parte di molti okinawani, soprattutto giovani, la tendenza a considerarsi cittadini giapponesi, pur riconoscendo e valorizzando le proprie origini indigene, come hanno dimostrato i sondaggi condotti da Lim e Nakayama.

Secondo Hein e Selden, ciò è da attribuire prima di tutto al diverso contesto storico e sociale, in quanto è solo a partire dal 1972, dopo 27 anni di occupazione americana, che la vita quotidiana di Okinawa si è totalmente assimilata a quella giapponese. Così, da allora

Okinawans have studied the same school curriculum; watched the same movies; read the same books, magazines, and manga [...]; and traveled freely back and forth to the mainland¹⁸⁰.

Quindi, è naturale che le nuove generazioni siano molto più pratiche in lingua e cultura giapponese di quanto lo fossero i loro antenati ai tempi dell'annessione al Giappone o nel dopoguerra¹⁸¹.

¹⁷⁷ HEIN e SELDEN, “Culture, power...”, cit., p. 1

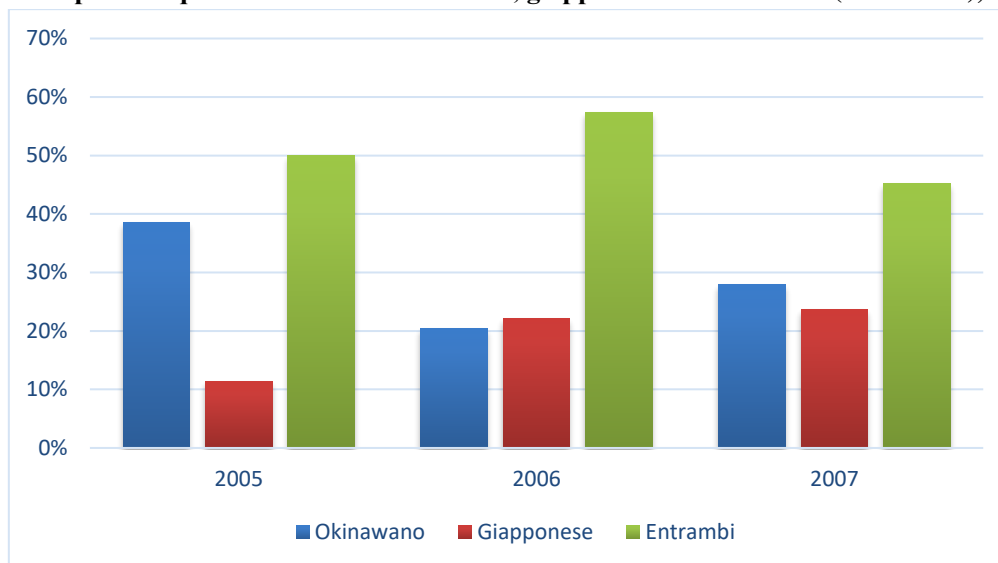
¹⁷⁸ HAMMINE, “Indigenous in...”, cit., p. 7

¹⁷⁹ HAMMINE, “Indigenous in...”, cit., p. 6

¹⁸⁰ HEIN e SELDEN, “Culture, power...”, cit., pp. 27-28

¹⁸¹ HEIN e SELDEN, “Culture, power...”, cit., p. 28

Figura 4 - Risposte al quesito “Ti sento okinawano, giapponese o entrambi?” (18-25 anni), 2005-2007



Fonte: <http://ir.lib.u-ryukyu.ac.jp/bitstream/20.500.12000/10367/1/No11p105.pdf>, p. 22

Analizzando ancora una volta il sondaggio di Lim, è possibile denotare che dal 2005 al 2007 la maggioranza degli intervistati tra i 18 e 25 anni si definiva sia okinawana che giapponese, con una media del 51% (Figura 4). Questi risultati, come volevasi dimostrare, confermano che le nuove generazioni penetrano con maggior facilità nella società giapponese, formandosi così una coscienza nazionale non circoscritta a quella autoctona.

Tuttavia, per i giapponesi accettare una simile fluidità culturale significherebbe mettere in discussione il significato e le caratteristiche dell'identità nipponica stessa, basata sull'ideologia dell'omogeneità etnica e radicata nell'immaginario nazionale dai primi anni dell'era Meiji¹⁸². A questo proposito Hammine sostiene che l'insegnamento di lingue dialettali nelle scuole renderebbe i giapponesi consapevoli di vivere in uno Stato multilingue e multiculturale, permettendo così alle popolazioni indigene di esprimere il proprio essere senza costrizioni¹⁸³.

Inoltre, la cosiddetta *Association of the Indigenous Peoples in the Ryukyus* (AIPR) si scaglia fortemente contro il governo, sancendo che esso

must take urgent and comprehensive measures to protect culture, tradition and languages of the indigenous peoples in the Ryukyus¹⁸⁴.

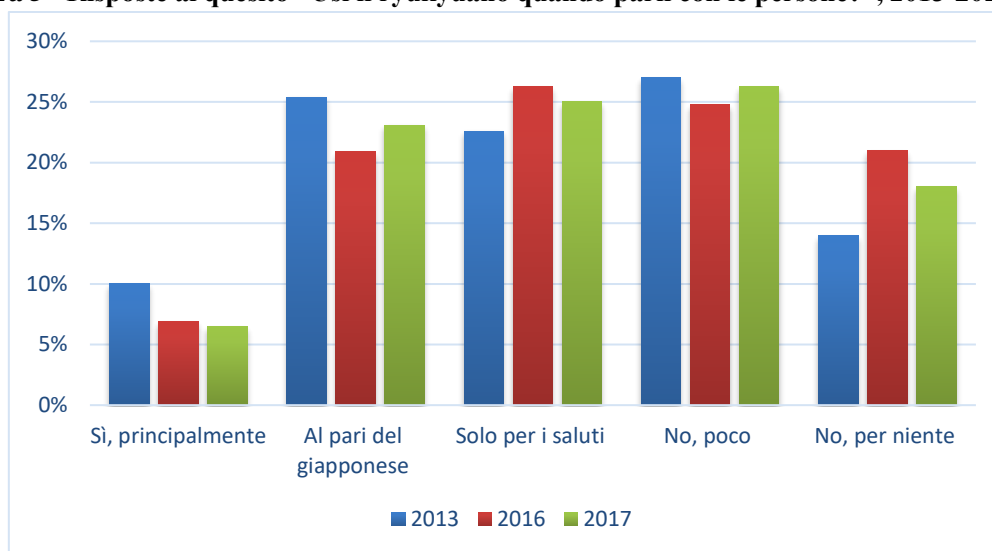
¹⁸² HEIN e SELDEN, “Culture, power...”, cit., p. 3

¹⁸³ HAMMINE, “Indigenous in...”, cit., p. 21

¹⁸⁴ AIPR, “Alternative report to the Committee on the Elimination of Racial Discrimination (CERD) for the review of 10th and 11th periodic report of Japan (CERD/C/JPN/10-11)”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 07/2018, https://tbinternet.ohchr.org/Treaties/CERD/Shared%20Documents/JPN/INT_CERD_NGO_JPN_32100_E.pdf, consultato il 03/04/2020, p. 9

Infatti, nonostante gli okinawani siano fieri della propria cultura, Heinrich sostiene che la “nipponizzazione” attuata dal Giappone a partire dal 1879 abbia portato al graduale deterioramento dei sei dialetti che compongono il ryūkyūano¹⁸⁵. Secondo l’UNESCO, quattro di essi, tra cui l’okinawano, sono in pericolo, poiché non fanno parte del curriculum scolastico, mentre due sono gravemente in pericolo, dato che vengono usati solamente dalle vecchie generazioni¹⁸⁶. Infatti, secondo dati raccolti nel 2016, la percentuale di cittadini che parla principalmente in lingua locale è mediamente del 23% nella fascia di età 60-70 anni, contro solamente 1% nella fascia 10-30 anni¹⁸⁷.

Figura 5 - Risposte al quesito “Usi il ryūkyūano quando parli con le persone?”, 2013-2016-2017



Fonte:

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunkasports/bunka/shinko/simakutuba/documents/kenminishiki.pdf>,
p.26;
<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/254440>

I sondaggi compiuti dalla prefettura tra il 2013 e il 2017 permettono di analizzare più dettagliatamente il rapporto della popolazione locale tra i 10 e i 79 anni con il dialetto, chiamato *shimakutōba* (しまくとぅば, “linguaggio dell’isola”), o *uchināguchi* (ウチナーグチ, “lingua di Okinawa”). La minoranza degli intervistati è rappresentata da coloro che parlano principalmente in ryūkyūano, con una media di appena 8% e in calo del 3% rispetto al 2013. Al contrario, la maggioranza, con una media del 26%, sostiene di parlarlo poco. Seguono coloro

¹⁸⁵ HEINRICH, “Language Loss...”, cit., p. 1

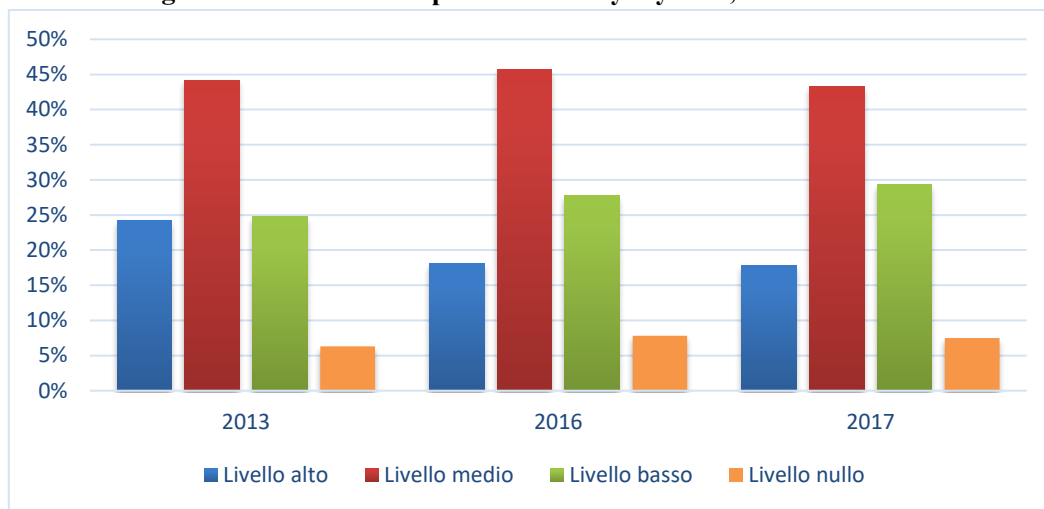
¹⁸⁶ UNESCO, “UNESCO Atlas of the World’s Languages in Danger”, in UNESCO, <http://www.unesco.org/languages-atlas/index.php>, consultato il 03/04/2020

¹⁸⁷ OKINAWAKEN, “Heisei 28 nendo Shimakutōba kenmin ishiki chōsa hōkokusho”, in *Okinawaken*, 03/2017, <https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/bunka/shinko/simakutuba/documents/kenminishiki.pdf>, consultato il 05/04/2020, p. 27

che lo adoperano solo per i saluti (25%), al pari del giapponese (23%) e per niente (18%). Infine, nonostante la loro tendenza altalenante, nell'arco di tempo considerato la percentuale di chi usa ugualmente il dialetto e il giapponese è diminuita del 2%, mentre quella di chi non lo usa è aumentata del 4% (Figura 5). Questi dati sembrano confermare i timori di Heinrich e Hammine in merito al progressivo deperimento del ryūkyūano.

Infatti, nonostante chi non capisca per nulla il dialetto rappresenti la minoranza, con una media del 7%, dal 2013 la percentuale di cittadini che lo capiscono perfettamente è diminuita del 6%, ovvero da 24% a 18% (Figura 6).

Figura 6 - Livello di comprensione del ryūkyūano, 2013-2016-2017



Fonte: <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/242721>

Ad essere a rischio, però, non sembra essere soltanto il dialetto ryūkyūano. Infatti, Nakayama afferma che anche le scuole pubbliche okinawane, inserite nel sistema scolastico nazionale, insegnino molto poco e inadeguatamente la cultura e la storia di Okinawa, sia passata che contemporanea. Pertanto, i giovani interessati a conoscere le proprie origini devono fare affidamento sugli insegnamenti dei propri familiari, sulle attività extrascolastiche e sugli eventi organizzati dalle loro comunità. Portando come esempio la sua personale esperienza, la studiosa ricorda che

there were several opportunities in my elementary school in which the school invited students and their parents during a weekend or a summer break and had them craft sanshin or shiisaa (a traditional decoration that serves as “the guardian of a house”). However, we never learned the history or meaning behind these ‘cultural stuff’ that we feel familiar but do not know much about¹⁸⁸.

¹⁸⁸ NAKAYAMA, “Okinawan Youth...”, cit., pp. 60-61

Secondo lei, quindi, il curriculum scolastico dovrebbe porre maggiore attenzione alla cultura locale, in modo da farla conoscere approfonditamente a tutti i giovani, che rappresentano il futuro, ed evitare così che scompaia con il passare degli anni. Infatti, Agarie sostiene che

L'identità, come risposta alla domanda su cosa sono io, porta con sé il passato personale o etnico e, allo stesso tempo, è un piano d'azione per il futuro. Non è permesso ignorare la realtà, seppellire il passato e disegnare arbitrariamente un'immagine di sé¹⁸⁹.

Conclusioni

Con il termine *Okinawa mondai* si indica generalmente la particolare condizione politica, economica e geopolitica di Okinawa all'interno del Giappone, originatasi storicamente dalla discriminazione sociale perpetrata dai giapponesi a danno degli okinawani.

Il fulcro della questione, infatti, risiede nella difficoltà dei cittadini di Okinawa a definire se la propria identità sia okinawana, giapponese o ibrida. I sondaggi condotti da Lim e Nakayama hanno messo in luce che negli ultimi due decenni la maggioranza della popolazione locale non si consideri giapponese, bensì ibrida oppure solamente okinawana, con un profondo affetto per le proprie radici.

Questo fenomeno indica che gli okinawani faticano ad inserirsi all'interno della visione culturalmente, etnicamente e linguisticamente omogenea che il Giappone ha di sé, influenzata dalle teorie razziali diffuse nel periodo Meiji (1868-1912). Infatti, nell'ottica del rafforzamento economico e militare del Paese, necessario a proteggersi dalle sempre più pressanti incursioni delle potenze occidentali, era di fondamentale importanza creare nel popolo un forte sentimento di unità nazionale, basato proprio sul concetto di omogeneità etnica dei giapponesi.

Tale ideologia viene tuttora condivisa da gran parte del popolo nipponico e da illustri politici, come l'ex primo ministro Nakasone, che rifiutano di riconoscere gli okinawani come minoranza etnica poiché sostengono che, essendo giapponesi, condividano la stessa cultura e le stesse caratteristiche. Questo pensiero viene confermato dal Comitato per l'Eliminazione della Discriminazione Razziale (CERD), che nei suoi rapporti del 2010, 2014 e 2018 accusava il governo centrale di discriminare gli okinawani, non riconoscendoli come popolazione autoctona, e criticava i programmi scolastici per non presentare argomenti legati alla storia e alla cultura di Okinawa.

¹⁸⁹ AGARIE, "Aidentità no...", cit.

Questa discriminazione sociale fece da sfondo alla storia dei difficili rapporti tra il Giappone e Okinawa, allora denominata Regno delle Ryūkyū (1429-1879), indipendente dal Giappone e Stato tributario della Cina. Data la posizione strategica del Regno nel Sud-est asiatico, esso godeva di floridi commerci con la Corea, di cui i giapponesi presero però il controllo nel XV secolo, comprando dai ryūkyūani i beni che essi ottenevano dalla Cina e rivendendoli direttamente ai coreani. Il Regno mantenne il suo ruolo di intermediario commerciale anche dopo l'invasione da parte del feudo nipponico di Satsuma nel 1609. Infatti, la politica del *sakoku* (ca 1635-1854) impediva al Giappone di commerciare con l'estero, ma approfittando dell'indipendenza del Regno, il *daimyō* assunse il dominio dei suoi scambi con la Cina, rivendendo i prodotti a prezzo maggiorato in Giappone.

Con l'incremento delle mire espansionistiche occidentali in Asia, per via della sua posizione geografica altamente strategica nel 1879 il neonato Stato Meiji decise di annettere formalmente il Regno delle Ryūkyū, che divenne la prefettura di Okinawa. Ebbe così inizio per gli okinawani la vera e propria discriminazione sociale, nucleo dell'*Okinawa mondai*. Infatti, nonostante in Giappone vigesse l'ideologia dell'omogeneità etnica, siccome per circa 500 anni i ryūkyūani avevano avuto con la Cina scambi sia commerciali che culturali, gran parte della popolazione nazionale pensava che gli okinawani non fossero giapponesi e che, data la grande distanza dalla capitale, fossero altamente incivili. Iniziò così un processo definito "niponizzazione", volto a rendere gli okinawani dei perfetti giapponesi, inculcando in loro il culto dell'imperatore e i valori della madrepatria. Prima di tutto, i cittadini furono obbligati ad indossare abiti e acconciature giapponesi. In secondo luogo, si forzò l'insegnamento della lingua giapponese, creando delle scuole di conversazione e vietando l'uso del dialetto sia negli istituti scolastici che nei luoghi pubblici.

Per la prima volta nella loro storia molti okinawani iniziarono a desiderare di diventare giapponesi, sia per poter godere dello stesso sviluppo economico della madrepatria che per sfuggire alle discriminazioni subite dai loro connazionali.

Inoltre, grazie alle varie vittorie militari e all'espansione del Giappone in Asia tra la fine del XIX secolo e gli anni Trenta del Novecento, il sentimento di orgoglio nazionale si intensificò in tutti i giapponesi, okinawani compresi. Infatti, la "niponizzazione" e la crescita del militarismo suscitarono in molti di loro il desiderio di dimostrare la propria lealtà all'Imperatore partecipando alla guerra come qualsiasi buon giapponese. Tuttavia, l'opinione pubblica li giudicava ancora poco fedeli e li categorizzava in modo sprezzante come *hikokumin*, ovvero "non cittadini".

Nonostante questo pensiero diffuso, a causa della sua posizione strategica, durante la Seconda guerra mondiale Okinawa fu usata come barriera contro l'invasione americana della madrepatria. Inoltre, i soldati giapponesi trattarono ferocemente gli okinawani, espropriando le loro terre e i loro rifugi, spingendoli a compiere suicidi di gruppo per evitare la cattura da parte degli americani e condannando a morte chiunque parlasse in dialetto, poiché considerato una spia del nemico. La Battaglia di Okinawa (aprile-giugno 1945) si concluse con la vittoria americana e la morte di circa 150.000 civili okinawani, ma, come era stato previsto, salvò il Giappone dall'invasione statunitense. Malgrado questo tragico bilancio, nella madrepatria, vi è ancora oggi la tendenza a sottovalutare le enormi sofferenze inflitte dai soldati giapponesi e a mettere in risalto la morte degli okinawani, rappresentandola come nobile sacrificio per la patria.

Benché abbiano subito discriminazioni dal 1879, la Seconda guerra mondiale rappresenta la base della memoria storica degli okinawani poiché fu l'evento più tragico della loro storia, soprattutto a causa della brutalità dell'armata nipponica. Inoltre, questa fu la prima volta in cui essi capirono che i giapponesi non erano interessati a loro come cittadini, ma soltanto ai vantaggi offerti dal loro territorio.

Nel 1945 ebbe inizio l'occupazione americana del Giappone e, data la sua ubicazione strategica in Asia orientale, gli americani decisero di mantenere anche il controllo amministrativo diretto su Okinawa. Per legittimare la loro presenza agli occhi del popolo, essi decisero di recidere il legame con il Giappone, reintroducendo l'uso del dialetto, del nome Ryūkyū, ricordando agli okinawani le atrocità commesse dai soldati giapponesi e mettendo in rilievo le loro peculiarità culturali.

Tuttavia, la popolazione sviluppò ben presto una forte avversione agli americani, perché capì che essi non avevano un reale interesse in Okinawa. Infatti, la loro priorità era di usare questo territorio come base militare, causando danni ambientali ed economici, poiché senza un reale sviluppo industriale l'economia di Okinawa e i cittadini stessi divennero dipendenti dalla presenza delle basi militari.

Perciò, gli okinawani crearono il cosiddetto movimento per il ritorno, nella speranza di tornare sotto l'amministrazione giapponese per poter godere dello stesso sviluppo economico e degli stessi diritti civili dei giapponesi. Tuttavia, sebbene il Giappone riacquistò la sua indipendenza nel 1952, il controllo statunitense di Okinawa continuò e le basi militari non vennero smantellate. Così, la lotta del movimento si fece sempre più intensa e acquistò una funzione antiamericana in chiave nazionale. Infatti, nonostante le discriminazioni subite in passato, per ottenere sostegno dal Giappone gli okinawani sostenevano di essere giapponesi e facevano uso della bandiera nipponica.

Finalmente, dopo 27 anni di amministrazione statunitense, il 15 maggio 1972 il Giappone riacquistò il controllo di Okinawa, grazie all'Accordo di reversione di Okinawa. Tuttavia, la maggior parte della popolazione non era soddisfatta, perché gli Stati Uniti mantenevano il diritto di avere basi militari nelle isole Ryūkyū. In altre parole, Okinawa restava il fulcro dell'alleanza militare tra il Giappone e gli Stati Uniti, tanto che nel 1972 circa 59% del suolo giapponese dedicato all'esercito americano si trovava proprio a Okinawa. Inoltre, sebbene il numero di soldati statunitensi fu ridotto, furono stanziati a Okinawa ben 6.800 uomini appartenenti alle Forze di autodifesa, incontrando la dura opposizione della popolazione locale, a cui questa massiccia militarizzazione ricordava le atrocità della Seconda guerra mondiale. I cittadini provavano rabbia anche per il fatto che l'esercito americano restituì poche delle terre private espropriate ai tempi dell'occupazione, mantenendo quelle situate in zone centrali, che avrebbero invece permesso alla prefettura di dare vita ad un efficace sistema economico autonomo, non più dipendente dalle basi militari, il cui reddito, nel 1972, rappresentava ben 15% di quello prefettizio lordo.

La forte delusione provata dagli okinawani li portò per la prima volta a rivisitare l'immagine del sistema imperiale, accusando l'imperatore Hirohito (1928-1989) di essere responsabile della tragica Battaglia di Okinawa, dei numerosi suicidi di massa e di aver dato Okinawa in concessione agli Stati Uniti per riottenere l'indipendenza del Giappone. Nemmeno il suo successore, Akihito (1989-2019), fu esente da critiche e proteste, poiché si considerava che egli fosse interessato solamente a crearsi una buona reputazione tra i cittadini di Okinawa, senza però ammettere chiaramente le responsabilità imperiali nel loro doloroso passato.

Inoltre, anche dopo il 1972 gli okinawani continuarono ad essere discriminati dai giapponesi, come quando nel 2016 due ufficiali di polizia di Ōsaka definirono "*dojin*", un termine altamente spregiativo dal significato di "aborigeno", alcuni okinawani che protestavano presso una base militare americana. Anche gli statunitensi continuano a mantenere un atteggiamento di superiorità rispetto agli okinawani, accusandoli di manipolare il governo centrale per ottenere ciò che desiderano. Eldridge, ad esempio, sostiene che i due giornali locali, l'*Okinawa Times* e il *Ryūkyū Shinpō*, mettano in luce solamente gli aspetti negativi della presenza militare americana a Okinawa per aizzare la popolazione contro l'esercito americano.

Il fatto che gli okinawani continuino tuttora ad essere discriminati indica che la maggior parte dei giapponesi, soprattutto a causa della censura nei libri di testo scolastici, non conosce il loro doloroso passato e rifiuta di accettare la loro identità ibrida, perché mette in discussione la teoria dell'omogeneità etnica giapponese.

Tuttavia, recentemente molti giovani okinawani si sentono sia giapponesi che okinawani, perché, essendo nati dopo il ritorno al Giappone, sono cresciuti a contatto con entrambe le culture, a differenza dei loro antenati. Ciononostante, il fatto che il dialetto ryūkyūano sia parlato quasi solamente dagli anziani mette in luce la necessità di inserire nei programmi scolastici corsi sia di lingua che di cultura okinawana, per evitare che questo ricco patrimonio si estingua con il passare del tempo.

CAPITOLO SECONDO

IMPLICAZIONI ECONOMICHE DELL'OKINAWA MONDAI DAL 1972 AD OGGI

2.1. I quattro piani del governo centrale per ridurre la disparità economica tra Okinawa e il Giappone (1972-2011)

I 27 anni di amministrazione americana esclusero Okinawa dallo sviluppo post-bellico della madrepatria, creandovi un sistema economico fortemente dipendente dalla presenza delle basi militari statunitensi. Così, proprio come ai tempi della sua annessione nel 1879, anche al suo ritorno nella madrepatria Okinawa risultava essere la prefettura più povera del Giappone.

2.1.1. Il boom economico di Okinawa

Il governo centrale sentiva il dovere di

premiare il popolo di Okinawa per [...] il sacrificio compiuto negli anni, correggendo urgentemente queste disparità e mettendo in atto condizioni di base che consentano uno sviluppo indipendente e garantiscano che Okinawa occupi una posizione auspicabile nell'economia e nella società giapponese¹.

Pertanto, nel tentativo di sanare il divario con la madrepatria, nel 1972 il governo nazionale istituì il primo Piano per la promozione e sviluppo di Okinawa, (沖繩振興開発計画, *Okinawa shinkō kaihatsu keikaku*), in vigore fino al 1981. Non avendo raggiunto gli obiettivi sperati, il piano venne prorogato per altri due decenni, dal 1982 al 1992 e dal 1993 al 2001. Dal 2002 al 2011, invece, fu adottato il Piano per la promozione di Okinawa (沖繩振興計画, *Okinawa shinkō keikaku*), che si discostava dalle precedenti misure poiché, superata l'incombente necessità di ridurre la disparità con la madrepatria, lo scopo principale era ora di stabilire una prospera economia autosufficiente che contribuisse allo sviluppo del Giappone e dell'Asia, soprattutto grazie alla sua posizione strategica².

¹ "Okinawa shinkō kaihatsu keikaku", (Piano per la promozione e sviluppo di Okinawa), in *Naikakufu · Okinawa sōgō jimukyoku*,

http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/sinkou/shinkou-kaihatu/dai1ji_shinkou.pdf?la=ja-JP&hash=A36E3DC397C9E82229D9B21E270B656008858CDE, consultato il 26/05/2020, p. 5

² "Okinawa shinkō no kore made no torikumi", (Gli sforzi fatti finora per la promozione di Okinawa), in *Okinawaken*, 19/09/2014,

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/documents/q6okinawasinkounokoremadenotorikumi260919.pdf>, consultato il 14/05/2020, p. 2

Come nota la studiosa Eiko Asato, grazie ai vari piani

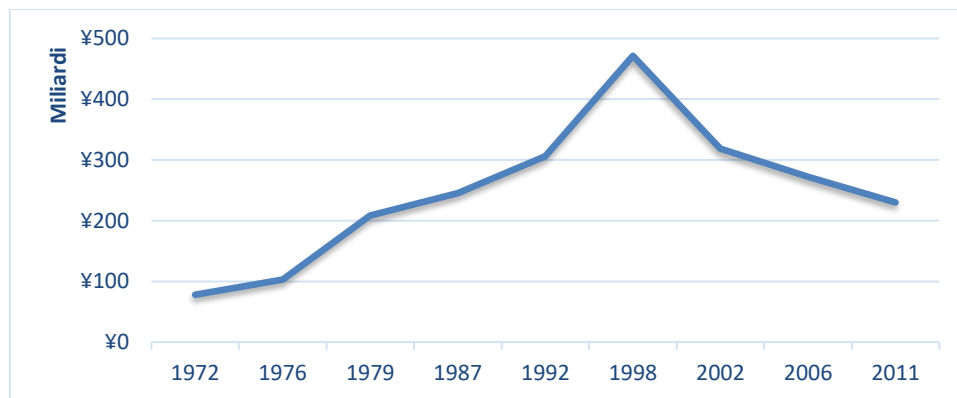
Japanese government spending in Okinawa has grown dramatically [...]. Okinawa, with only 0.6 percent of Japan's land area and 1.0 percent of its population, has received 1.1 to 1.6 percent of Japan's public investment since reversion³.

Infatti, secondo le stime effettuate dalla Camera Alta, tra il 1972 e il 2017 Okinawa ricevette ¥12 trilioni per il suo sviluppo⁴. Mentre le altre prefetture ricevono uno stanziamento da ogni singolo ministero, i fondi assegnati a Okinawa vengono erogati come somma forfettaria, denominata budget di promozione di Okinawa e calcolata dall'Ufficio di Gabinetto. Secondo Ikemiyagi Hidemasa, docente presso l'Università Meiji, si tratta però di un nome fuorviante, dal momento che

it is simply the sum of national government disbursements and the cost of national government projects, which all prefectures receive⁵.

Nonostante ogni prefettura riceva fondi dal governo centrale, è innegabile che fu posta particolare attenzione su Okinawa. Infatti, tra il 1972 e il 2011 l'ammontare del suo budget di promozione aumentò di ben ¥152 miliardi (+195%). Inoltre, sebbene il suo andamento sia stato altalenante, vide un incremento costante fino al 1998, ovvero quasi al termine del terzo piano, a dimostrazione della necessità iniziale di ridurre il divario economico con la madrepatria (Figura 7).

Figura 7 - Budget di promozione di Okinawa, 1972-2011



Fonte: <https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/keikaku/reiwa1/documents/07dai4kaisiryoku4-1.pdf>, p. 6
https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/33_1.html
<https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/33.html>

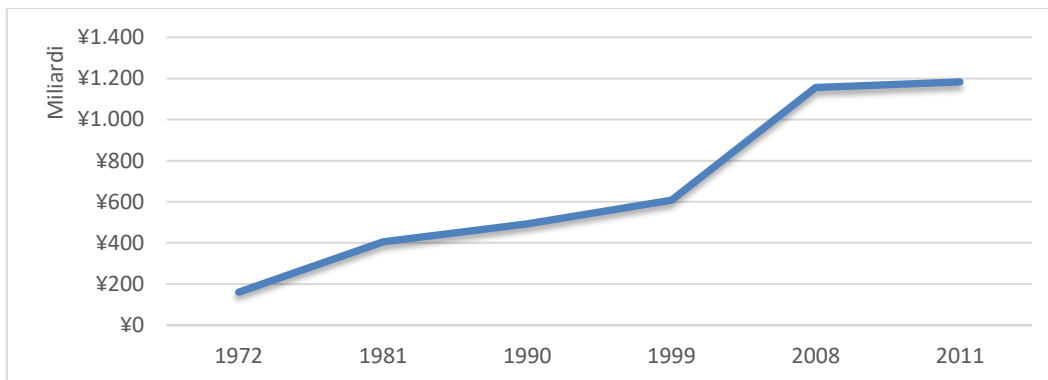
³ Eiko ASATO, "Okinawan Identity and Resistance to Militarization and Maldevelopment", in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, formato Kindle, p.235

⁴ TAKEMOTO Hideki, "Reiwa 2 nendo Okinawa ·Hoppō kankei yosan", (Bilancio per Okinawa e i Territori del Nord nel 2020), in *Sangiin*, 02/2020, https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2020pdf/20200207168.pdf, consultato il 12/05/2020, p.1

⁵ Hidemasa IKEMIYAGI, "Okinawa promotion budget, a misleading name", in *Meiji University*, 06/03/2018, https://www.meiji.ac.jp/cip/english/research/opinion/Hidemasa_Ikemiyagi.html, consultato il 13/05/2020

L'impegno del governo centrale è confermato anche dall'aumento di ¥1.023 miliardi (+637%) del cosiddetto *government financial consumption expenditure* (GFCE) di Okinawa, ovvero la parte del PIL non consumata, ma distribuita direttamente alla prefettura (Figura 8).

Figura 8 - Government final consumption expenditure di Okinawa (GFCE), 1972-2011



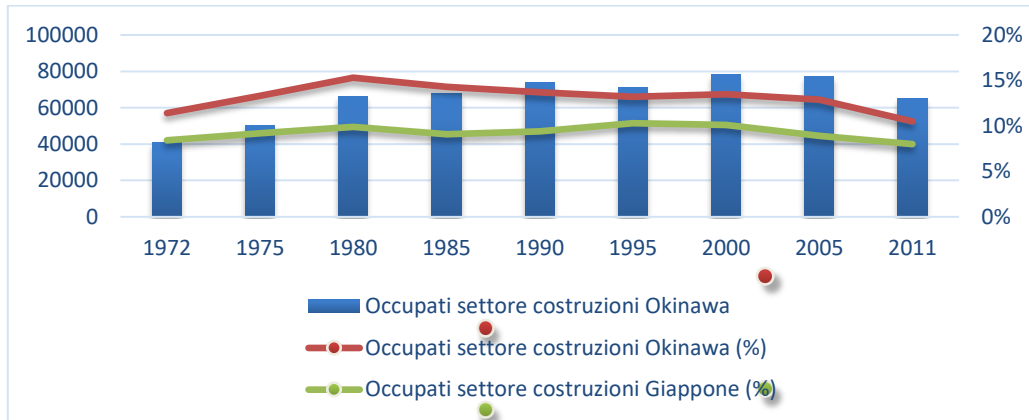
Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30sisyutu2_s30-s49.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50sisyutu2_s50-h11.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h26/syuyo5.xls

Allo scopo di creare le condizioni per uno sviluppo autosufficiente di Okinawa, il primo piano diede molta importanza all'aumento degli investimenti pubblici, potenziando la rete infrastrutturale attraverso la costruzione di porti, aeroporti e strade sia sull'isola principale che in quelle remote. Inoltre, vennero realizzati tre ospedali e varie dighe per l'approvvigionamento idrico⁶.

Ciò ebbe come diretta conseguenza l'incremento dei cittadini okinawani impiegati nel settore delle costruzioni, che tra il 1972 e il 2011 crebbero di 24.000 unità e rappresentarono in media il 13% della forza lavoro locale, contro il 9% nazionale (Figura 9).

⁶ "Okinawa shinkō no kore...", cit., p. 2

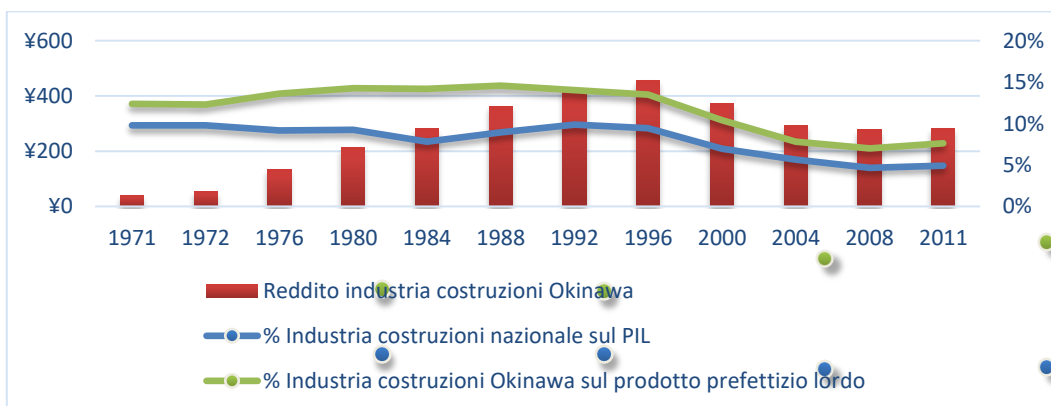
Figura 9 - Occupati okinawani nel settore delle costruzioni e loro percentuale sulla forza lavoro locale, confrontata con quella giapponese, 1972-2011



Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/1-1jinkoukoyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=984A529F3641037513CBB9D884C2EA2249828CF1, p. 3
http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/2-2nijisangyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=F83F71575A8B16C36991800CF6141F46071BE5EB, p. 2

Infine, per quanto riguarda il reddito di questo settore, nonostante ebbe un andamento altalenante, aumentò di ¥15 miliardi (+38%) tra il 1971, ovvero l'ultimo anno del dominio americano, e il 1972 e di ben ¥243 miliardi (+611%) dal 1971 al 2011. Inoltre, anche la sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, pari al 12% nel 1971, crebbe fino al 1% nel 1988, per poi diminuire fino all'8% nel 2011. D'altro canto, il peso dell'industria delle costruzioni nazionale nel PIL fu sempre minore di quello locale, con una media di 8% contro 12% (Figura 10). Questi dati confermano la notevole attenzione rivolta all'urgente miglioramento infrastrutturale di Okinawa nei primi decenni del ritorno alla madrepatria.

Figura 10 - Reddito dell'industria delle costruzioni okinawana e sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, confrontata con la percentuale dell'industria delle costruzioni nazionale sul PIL, 1971-2011



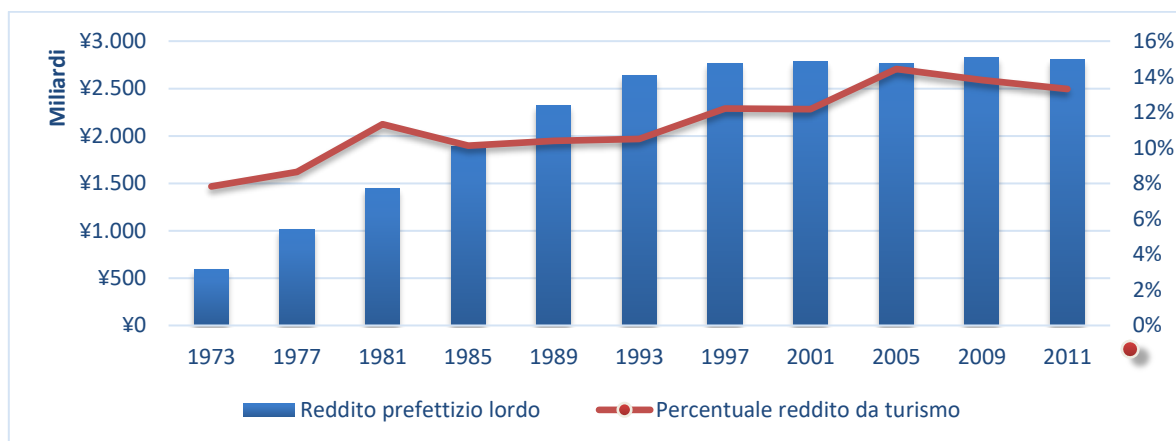
Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30seisan_s30-s49.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50seisan_s50-h11.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h20/syuyo2_1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/syuyo2.xls

Il secondo piano vide tra i suoi progetti principali l'ampliamento dell'aeroporto di Naha, oltre alla costruzione di ponti e impianti di desalinizzazione sulle isole remote. Il terzo, invece, si concentrò maggiormente sul rafforzamento di Okinawa come regione che concorresse allo sviluppo socioeconomico del Giappone, potenziando i settori delle telecomunicazioni e del turismo⁷.

In particolare, per incentivare quest'ultimo furono presi importanti provvedimenti, come ridurre l'imposta sul carburante per l'aviazione e istituire voli diretti dalla terraferma alle isole remote. Queste misure si dimostrarono efficaci, poiché tra il 1973 e il 2011 l'incidenza del turismo sul reddito prefettizio lordo aumentò del 5%, passando da 8% a 13% (Figura 11).

Inoltre, il numero di turisti che visitarono Okinawa aumentò di circa 5 milioni (+1121%) dal 1972 al 2011, grazie anche alla nomina del castello di Shuri (Naha) a patrimonio dell'UNESCO nel 2000, all'apertura dell'acquario di Churaumi (Motobu) nel 2002 e all'inaugurazione della monorotaia che collega l'aeroporto di Naha al centro città nel 2003⁸. Naturalmente, hanno giocato un ruolo molto importante anche il maggior numero di voli nazionali ed internazionali e l'aumento degli scali delle navi da crociera⁹. Va tuttavia sottolineato che la spesa pro capite dei turisti raggiunse l'apice di ¥90.000 nel 1988, per poi subire una diminuzione costante, pari a circa ¥4.200 (-6%) tra il 1972 e il 2011 (Figura 12).

Figura 11 - Percentuale del reddito da turismo sul reddito prefettizio lordo, 1973-2011



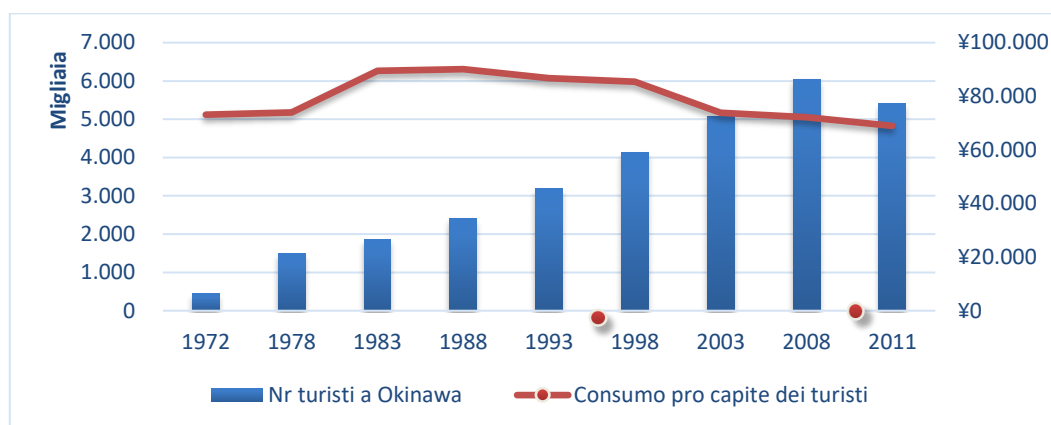
Fonte: https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/yearbook/56/22/22_05.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu2.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu3.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h26/soukatu5.xls

⁷ "Okinawa shinkō no kore...", cit., p. 2

⁸ KOISO Shūji, NISHIMURA Nobuhiko, YAMAZAKI Mikine, "Aratana Okinawa shinkō seisaku no hikaku kenkyū", (Studio comparativo delle nuove politiche di promozione di Okinawa), in *Hokkaidō kaiatsu kyōkai*, https://www.hkk.or.jp/kenkyusho/file/jyosei_rep24-08.pdf, consultato il 23/05/2020, p. 11

⁹ "Dai 3 ji sangyō", (Il settore terziario), in *Naikakufu · Okinawa sōgō jimukyoku*, http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/2-3sanjisangyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=03FE3345C2C42C8285B5AEA81354E4B00E39402C, consultato il 01/06/2020, p. 1

Figura 12 - Numero di turisti a Okinawa e loro consumo pro capite, 1972-2011



Fonte: https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/yearbook/45/22/22_01.xls
http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/2-3sanjisangyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=03FE3345C2C42C8285B5AEA81354E4B00E39402C, p. 4
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/yearbook/62/data/22.xls>

Infine, il piano varato nel 2002 aveva come obiettivi il rafforzamento dell'industria, della finanza e delle telecomunicazioni¹⁰. Infatti, le aziende legate a quest'ultimo settore erano solo 3 nel 1974, ma aumentarono a ben 66 nel 2010¹¹. Inoltre, secondo Matsui Kazuhiko, membro della commissione di ricerca della Camera Alta, all'inizio del 2011 si potevano contare a Okinawa 216 società informatiche, che davano lavoro a circa 20.000 persone, soprattutto giovani¹². Per quanto riguarda lo sviluppo del settore manifatturiero, basato prevalentemente su piccole e medie imprese, vennero create zone economiche di libero scambio e distretti speciali per i servizi finanziari, tentando così di attrarre un maggior numero di aziende.

Tra le conseguenze positive di queste misure va annoverata la crescita del prodotto del settore secondario, che tra il 1972 e il 2011 aumentò di ¥410 miliardi (+409%), raggiungendo un valore di ¥510 miliardi, pari a ¥445 miliardi in più rispetto al 1971 (+683%). Tuttavia, nonostante questa notevole crescita, la sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo subì un calo del 9% tra il 1972 e il 2011 e del 7% rispetto al 1971. Infatti, a diventare la forza trainante dell'economia locale fu senza dubbio il settore terziario, il cui prodotto fu in costante aumento, pari a ben ¥2.988 miliardi tra il 1972 e il 2011 (+928%) e a ¥3.067 miliardi tra il 1971 e il 2011 (+1262%). Il suo peso sul prodotto prefettizio lordo crebbe rispettivamente del 10% e del 13% rispetto al 1971 e al 1972 (Figura 13).

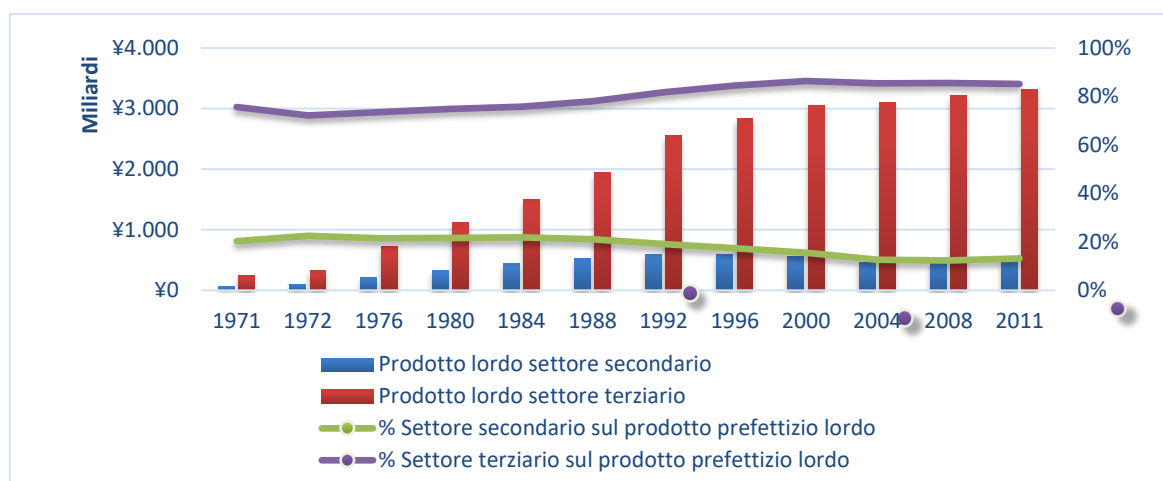
¹⁰ "Okinawa shinkō no kore...", cit., p. 2

¹¹ "Dai 3...", cit., pp. 6-7

¹² MATSUI Kazuhiko, "Okinawa shinkō no kadai to kongo no shinkō saku no arikata", (Sfide per la promozione di Okinawa e future misure di promozione), in *Sangiin*, 01/2012, https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2012pdf/20120113137.pdf, consultato il 23/05/2020, p. 3

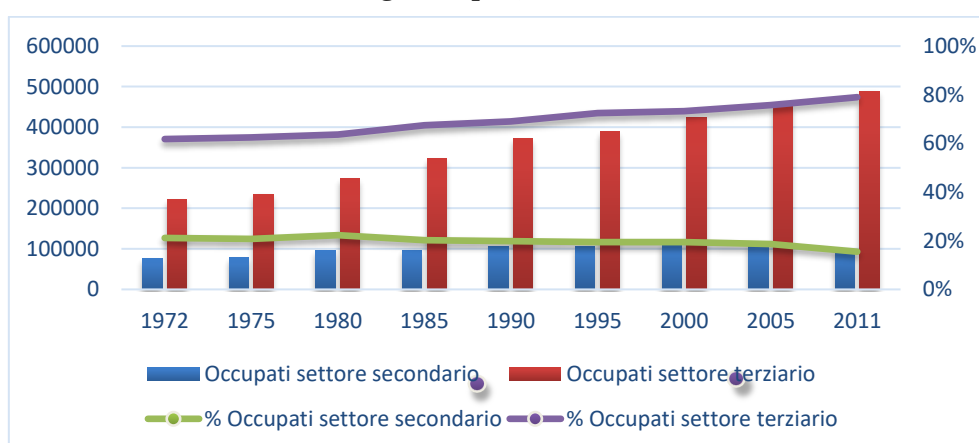
La crescita esponenziale del settore terziario viene ulteriormente confermata anche dall'analisi della forza lavoro. Infatti, tra il 1972 e il 2011 il numero di cittadini occupati nel settore secondario aumentò di 20.000 unità, ma la loro percentuale sul totale dei lavoratori diminuì del 6%, passando da 21% a 15%. Al contrario, gli impiegati nel settore terziario crebbero di 267.000 unità e la loro rappresentanza aumentò da 62% a 79%, raggiungendo il 17% (Figura 14).

Figura 13 - Prodotto lordo dei settori secondario e terziario e loro percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 1971-2011



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30seisan_s30-s49.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50seisan_s50-h11.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_li00st/kenmin/files/contents/tables/h15/seisan.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h26/syuyo2.xls

Figura 14 - Numero di occupati okinawani nei settori secondario e terziario e loro percentuale sul totale degli occupati, 1972-2011

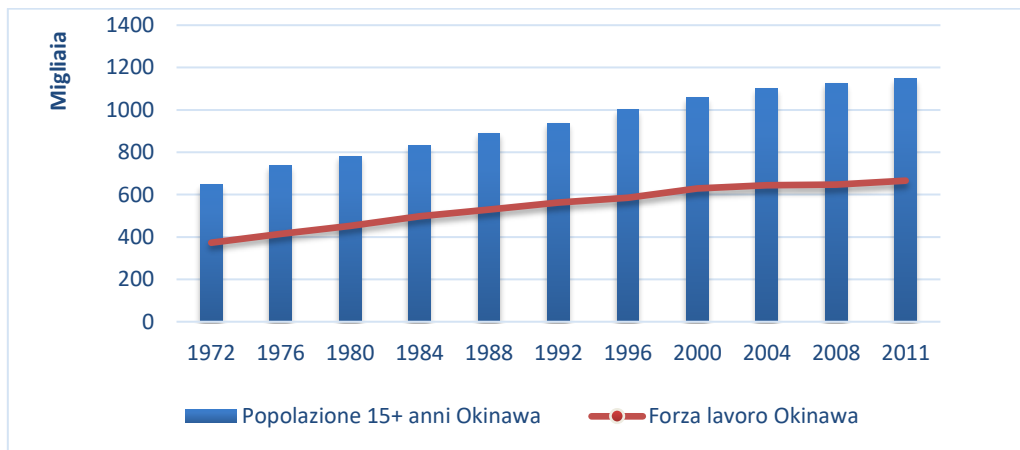


Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/1-1jinkoukoyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=984A529F3641037513CBB9D884C2EA2249828CF1, p. 3

Per quanto riguarda la forza lavoro locale, tra il 1972 e il 2011 essa aumentò complessivamente del 79%, così come la popolazione sopra i 15 anni, che crebbe del 77% (Figura 15).

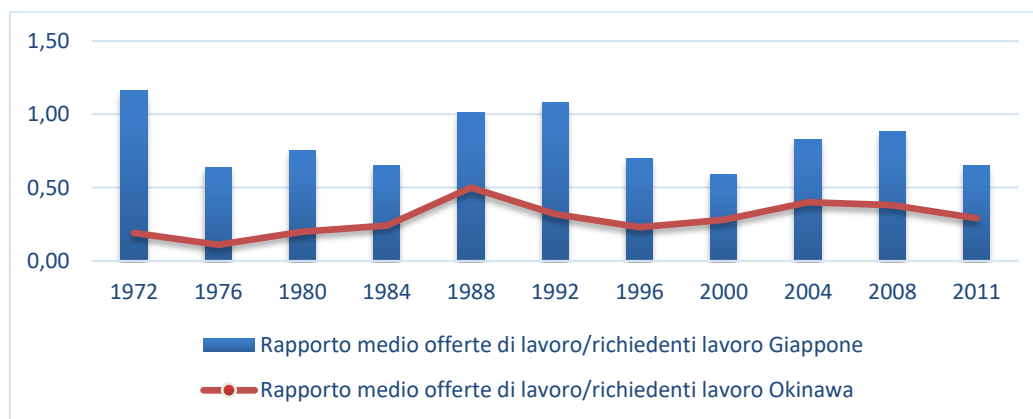
Inoltre, è positiva anche l'analisi del rapporto medio tra le offerte di lavoro e il numero dei richiedenti lavoro di Okinawa. Infatti, pur avendo avuto un andamento altalenante, tra il 1972 e il 2011 aumentò di 0,10, passando da 0,19 a 0,29. Ciò significa che nel 2011 per ogni okinawano in cerca di occupazione vi erano 0,29 offerte di lavoro, un dato comunque relativamente basso (Figura 16).

Figura 15 - Popolazione sopra i 15 anni e forza lavoro di Okinawa, 1972-2011



Fonte: <https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/long-term/02lfs/01lfs.xls>

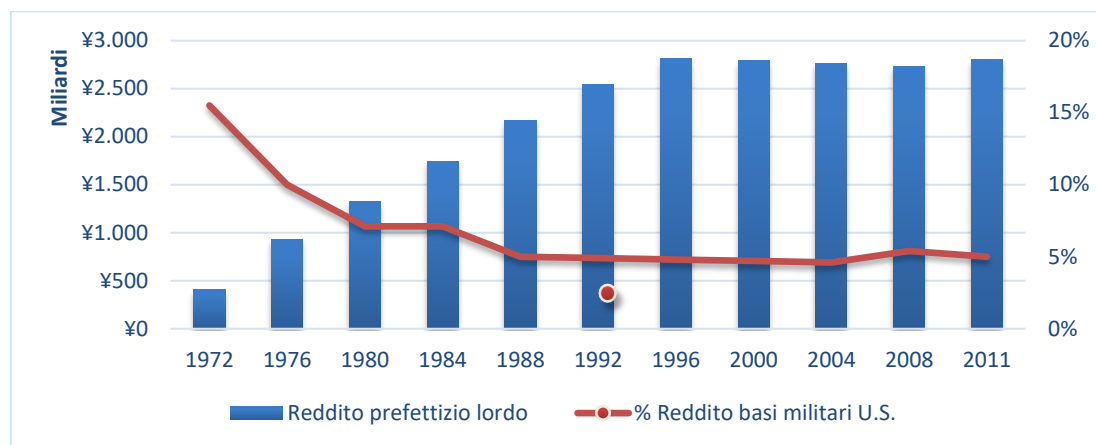
Figura 16 - Rapporto medio tra le offerte di lavoro e i richiedenti lavoro del Giappone e di Okinawa, 1972-2011



Fonte: <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031947840&fileKind=0>

Lo sviluppo del tessuto industriale ebbe come principale conseguenza la fine della dipendenza economica di Okinawa dalle basi militari statunitensi. Infatti, mentre nel 1972 il reddito prodotto da queste ultime rappresentava il 15% del reddito prefettizio lordo, questo valore scese a solamente 5% nel 2011, con una diminuzione di ben 10% (Figura 17).

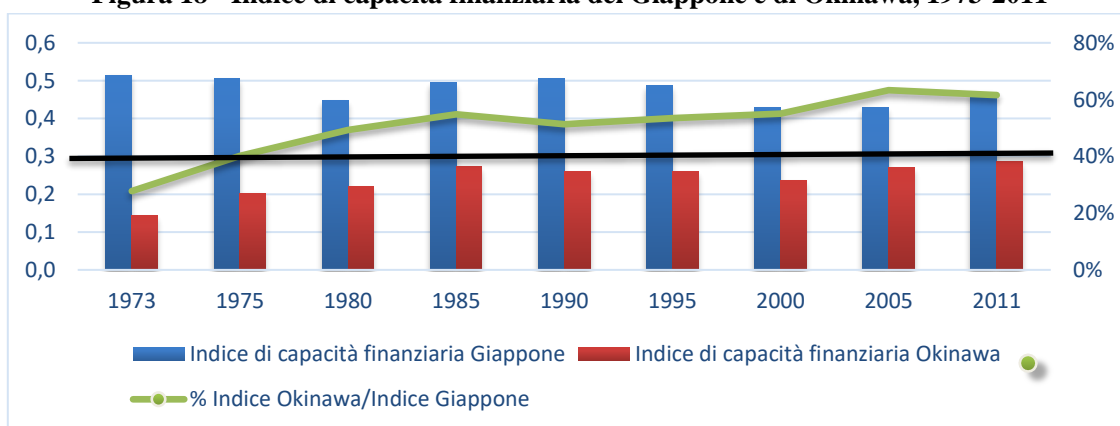
Figura 17 - Percentuale del reddito delle basi militari statunitensi sul reddito prefettizio lordo, 1972-2011



Fonte: https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/yearbook/50/28/28_14.xls
<https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/yearbook/62/data/28.xls>
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu2.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu3.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h15/soukatu3.xls

Per poter giudicare l'effettivo grado di riuscita dei vari piani di sviluppo, è necessario analizzare anche il mutamento dei principali indicatori macroeconomici, cominciando dall'indice di capacità finanziaria, che rappresenta il rapporto tra le entrate e le uscite dei governi locali. Nel caso il suo valore sia inferiore a 0,3, la prefettura in questione viene classificata come appartenente al gruppo E, il più basso¹³. Tra il 1973 e il 2011 l'indice di Okinawa fu sempre inferiore a quello nazionale e al valore minimo di 0,3. Ciononostante, aumentò di 0,14 e il suo rapporto sull'indice nazionale crebbe di ben 34%, passando da 28% a 62% (Figura 18).

Figura 18 - Indice di capacità finanziaria del Giappone e di Okinawa, 1973-2011

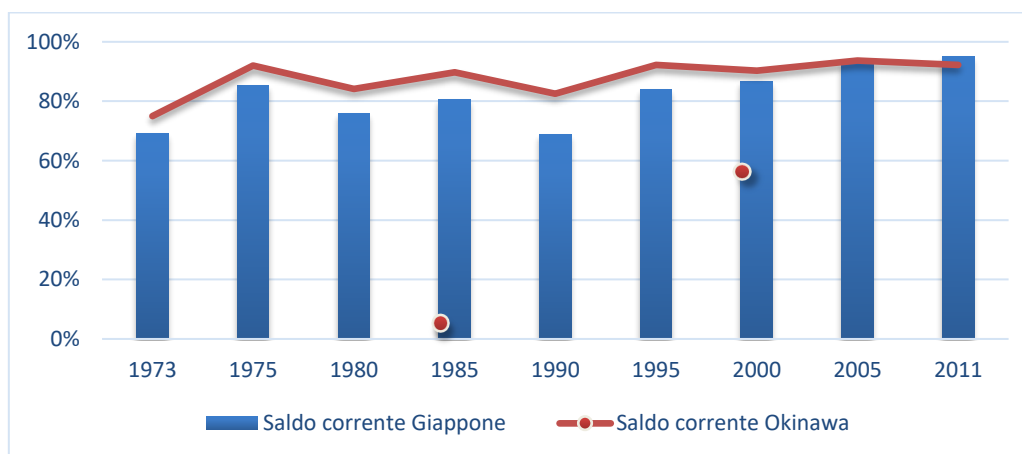


Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/5-2chihouzaisei_s.pdf?la=ja-JP&hash=00669C1883DCC5C3BE7B41654A962E96B226BE71, p. 5
https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/xls/H23_chiho_4.xls

¹³ HIDEMASA, "Okinawa promotion...", cit.

Il saldo corrente rappresenta il rapporto percentuale tra le entrate e le uscite finanziarie di un'economia. Se il suo valore supera il 100%, significa che l'economia è elastica, ovvero che al variare delle uscite corrisponde un maggiore variare delle entrate. In altre parole, in questo caso le entrate sono più che sufficienti per coprire le uscite. Di conseguenza, se il rapporto è inferiore al 100%, significa che la data economia è anelastica, cioè che non riesce a coprire tutte le sue spese tramite le entrate. Tra il 1973 e il 2011 sia l'economia nazionale che quella locale sono state anelastiche, ma, tranne nel 2011, il saldo corrente di Okinawa è sempre stato maggiore di quello giapponese, con una media di 88% contro 82%. Tuttavia, il valore nazionale ha subito un incremento del 26%, mentre quello locale solamente del 17% (Figura 19).

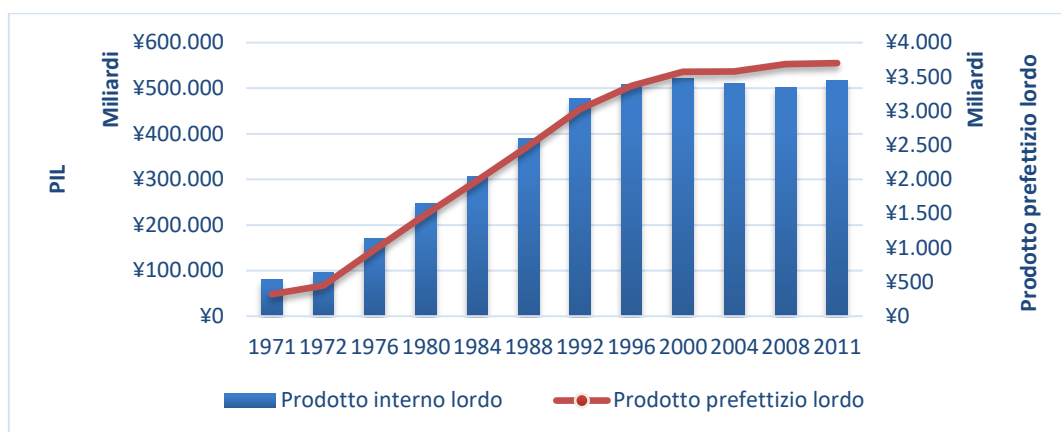
Figura 19 - Saldo corrente del Giappone e di Okinawa, 1973-2011



Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/5-2chihouzaisei_s.pdf?la=ja-JP&hash=00669C1883DCC5C3BE7B41654A962E96B226BE71, p. 5
https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/xls/H23_chiho_4.xls

Uno tra i principali miglioramenti fu quello del prodotto prefettizio lordo, che crebbe di ¥124 miliardi (+39%) dal 1971 al 1972 e di ben ¥3.379 miliardi (+1051%) tra il 1971 e il 2011. Inoltre, sebbene il PIL abbia sempre avuto un ammontare notevolmente maggiore, con una media di ¥360.000 miliardi contro solamente ¥2.400 miliardi, esso era 251 volte più grande di quello prefettizio nel 1971 e 139 volte nel 2011, mettendo in luce una notevole riduzione della disparità tra Okinawa e il Giappone (Figura 20).

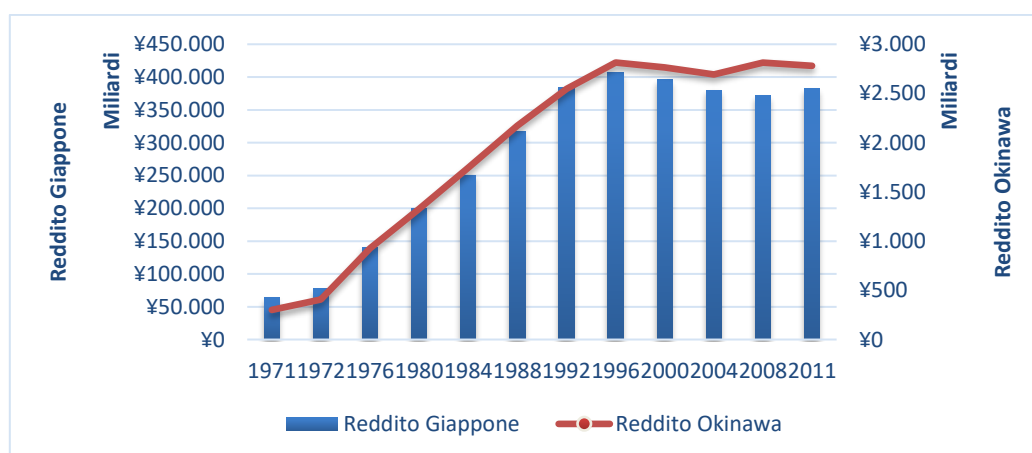
Figura 20 – PIL e prodotto prefettizio lordo, 1971-2011



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h20/soukatu1_1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/soukatu1.xlsx

Al pari del prodotto lordo, anche il reddito prefettizio aumentò. Il suo valore, infatti, crebbe di ¥105 miliardi (+35%) tra il 1971 e il 1972 e di ¥2.482 miliardi (+825%) dal 1971 al 2011. Anche in questo caso è possibile denotare una diminuzione del dislivello economico tra la prefettura e la madrepatria, poiché il reddito nazionale era 215 volte maggiore di quello okinawano nel 1971, ma solamente 138 volte nel 2011 (Figura 21).

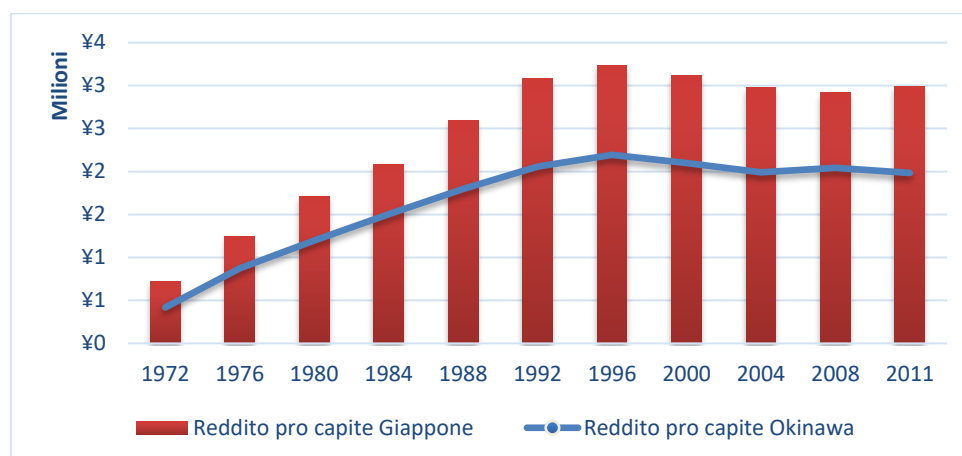
Figura 21 - Reddito del Giappone e di Okinawa, 1971-2011



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu2.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu3.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h20/soukatu5_1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/soukatu5.xlsx

Allo stesso modo, tra il 1972 e il 2011 il reddito pro capite di Okinawa ebbe un aumento di ¥2 milioni (+374%) e il suo rapporto su quello nazionale crebbe da 58% a 66% (Figura 22).

Figura 22 - Reddito pro capite del Giappone e di Okinawa, 1972-2011

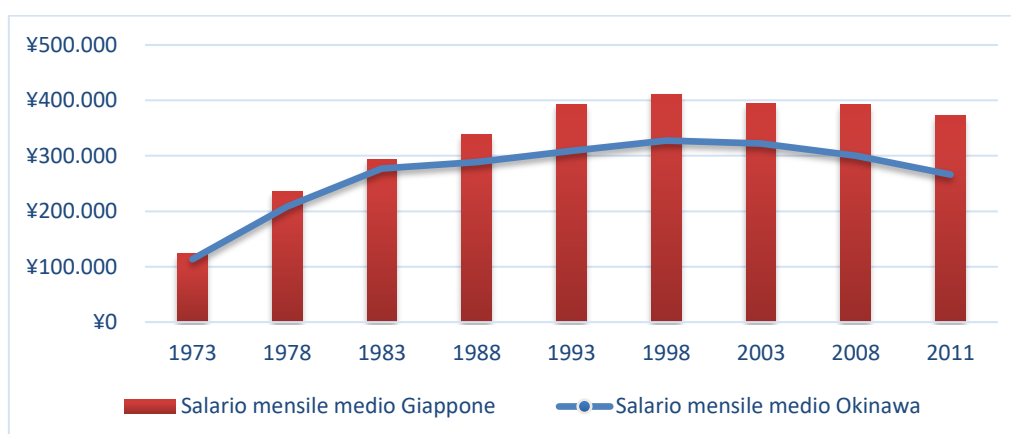


Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu5_sankou.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu7.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h20/soukatu9_1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/soukatu7.xlsx

Si registrarono dei miglioramenti anche nella condizione economica delle famiglie okinawane, come dimostra in primis l'aumento del salario mensile medio, tra il 1973 e il 2011, di ¥153.000 (+135%). Tuttavia, è importante sottolineare che il suo valore non superò mai quello nazionale, rappresentandone mediamente l'83% (Figura 23).

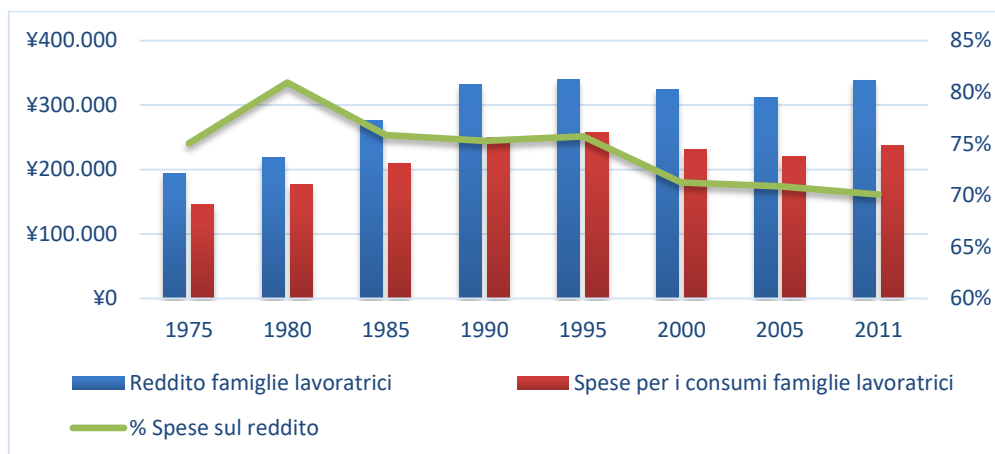
In secondo luogo, pur avendo avuto un andamento incostante, tra il 1975 e il 2011 crebbe anche il reddito delle famiglie lavoratrici okinawane, precisamente di ¥145.000 (+75%). Di conseguenza, le spese per i consumi aumentarono di ¥92.000 (+64%), tanto che il loro rapporto sul reddito diminuì del 5% (Figura 24).

Figura 23 - Salario mensile medio del Giappone e di Okinawa, 1973-2011



Fonte: <https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/long-term/04mls/01mls.xls>

Figura 24 - Reddito e spese per i consumi delle famiglie lavoratrici okinawane, 1975-2011



Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/1-4bukkadoukou_s.pdf?la=ja-JP&hash=007A47EE63634E0418991119887C826A107F18AE, p. 3

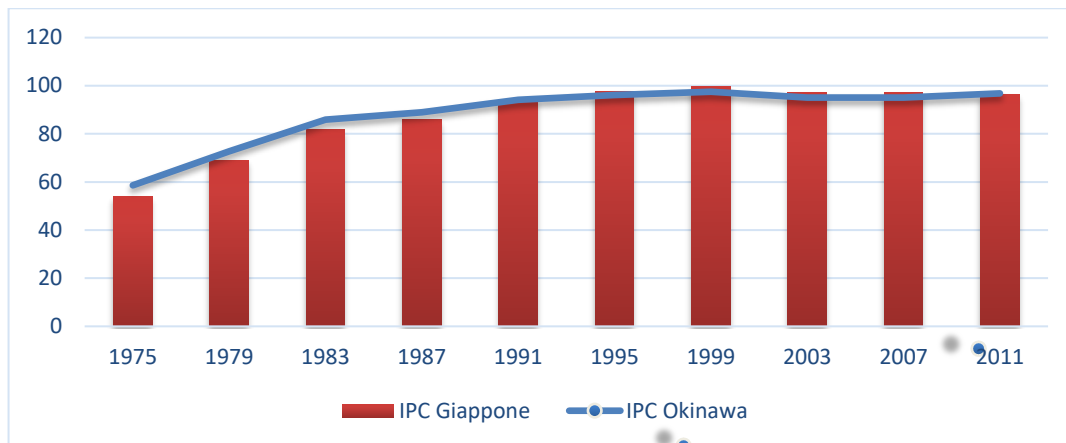
Pertanto, nel 2011, alla conclusione del Piano per la promozione di Okinawa, il governo centrale riconosceva un generale progresso delle condizioni della prefettura, grazie soprattutto all'aumento del prodotto prefettizio lordo e allo straordinario sviluppo del turismo e delle telecomunicazioni. Secondo il governo locale, infatti, erano stati proprio questi due settori a contribuire maggiormente al miglioramento della qualità di vita dei cittadini¹⁴.

Naturalmente, però, vi furono anche cambiamenti negativi nella vita quotidiana della popolazione, come ad esempio quello relativo all'indice dei prezzi al consumo (IPC), ovvero il costo di un dato paniere di beni e servizi usufruito da un consumatore medio. Infatti, tra il 1975 e il 2011 l'IPC generico di Okinawa subì un aumento quasi costante, pari a circa 38 punti, passando così da 59 a 97. Inoltre, escludendo il periodo 1991-2007 il suo valore fu sempre maggiore di quello nazionale (Figura 25). Secondo l'Ufficio del Gabinetto, ciò è dovuto, tra le altre cose, alla distanza geografica tra Okinawa e la madrepatria, che fa lievitare i costi di trasporto¹⁵.

¹⁴ MATSUI, "Okinawa shinkō no kadai...", cit., p. 4

¹⁵ "Bukka oyobi shōhi dōkō", (Prezzi e tendenze dei consumi), in *Naikakufu · Okinawa sōgō jimukyoku*, http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/1-4bukkadoukou_s.pdf?la=ja-JP&hash=007A47EE63634E0418991119887C826A107F18AE, consultato il 31/05/2020, p. 1

Figura 25 - Indice dei prezzi al consumo del Giappone e di Okinawa, 1975-2011



Fonte: <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031431849&fileKind=0>
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031431830&fileKind=0>

2.1.2. L'altra faccia della medaglia: la distruzione ambientale e sociale di Okinawa

Sfortunatamente, l'aumento dell'IPC non fu l'unico risvolto negativo del progresso economico raggiunto da Okinawa. Infatti, secondo Matsuda Yoshitaka, professore emerito presso l'Università delle Ryūkyū,

I meriti dello sviluppo del capitale sociale includono strade, porti, aeroporti, controllo delle inondazioni e strutture di comunicazione, mentre i demeriti includono prezzi elevati, accaparramento di terreni, distruzione della natura, distruzione dell'agricoltura¹⁶.

Lo sviluppo conseguito, infatti, fu ottenuto a caro prezzo, soprattutto a livello di distruzione ambientale. A tal proposito è assai eloquente il rapporto pubblicato dal sindaco di Nago (isola di Okinawa) nel 1973, in cui egli condannava apertamente le nuove politiche attuate dal governo centrale, sancendo che:

Human beings have become enslaved to productionism, which results in the destruction of the basis of our existence. Rather, we citizens of Nago should take as our goal the creation of the most favorable life environment. We need to strive to make our city proud and comfortable, not to pursue short-term profit. [...] we have nothing to learn from this development law designed only to close the economic gap with Japan¹⁷.

Dalle sue dure parole si deduce che l'improvvisa modernizzazione rappresentava un elemento di disturbo nella secolare armonia che lega gli okinawani alla natura. Infatti, la grande enfasi posta sul

¹⁶ IRAMINA Hirono, MIYAGI Toshirō, ŌTANI Kentarō, "Okinawa kankō sangyōshi ni kansuru kenkyū: Okinawa kokusai kaiyō hakurankai kaisai o sakai to suru zengo 10 nen no Okinawa kankō o chūshin toshite", (Uno studio sulla storia dell'industria del turismo di Okinawa: concentrarsi sul turismo di Okinawa per 10 anni prima e dopo l'Esposizione oceanica internazionale di Okinawa), *Meiō daigaku sōgō kenkyū*, 25, 03/2016, <http://hdl.handle.net/20.500.12001/19705>, p. 7

¹⁷ ASATO, "Okinawan Identity...", cit., p. 234

progresso del settore turistico, data la straordinaria bellezza del territorio, portò alla costruzione di molteplici stazioni balneari, che contaminarono ulteriormente la purezza del litorale. Secondo Caroli, nel 1972 vi erano 185 alberghi in tutta la prefettura, mentre nel 1974 se ne potevano contare ben 360 solamente sull'isola di Okinawa¹⁸. Tra il 1972 e il 2011 il numero totale di alloggi aumentò del 633%, raggiungendo quota 1.357, di cui 613 solo sull'isola principale¹⁹. Di conseguenza, come mette in luce Asato,

The destruction of the natural and social environment in the area, which began with the devastation of war, was followed by the degradation of the environment through military base construction followed by industrial and tourism development²⁰.

Per comprendere adeguatamente le caratteristiche e gli effetti di questa degradazione ambientale è necessario analizzare l'evento cardine del primo piano di sviluppo, ovvero l'Esposizione oceanica internazionale (1975-76), visitata da circa 3,5 milioni di persone e volta a

creare una sede per lo scambio internazionale, promuovere il turismo e lo sviluppo degli oceani e servire come forza dinamica nello sviluppo delle infrastrutture sociali e dell'industria nella parte settentrionale del paese²¹.

Il costo totale del progetto fu di circa ¥280 miliardi, di cui circa ¥180 miliardi derivati da investimenti pubblici. Tra questi ultimi, la maggior parte (46%) venne stanziata per il miglioramento della rete stradale²². Inoltre, il prodotto prefettizio lordo del 1975 aumentò del 107% (+¥475 miliardi) rispetto al 1972 e del 13% (+¥107 miliardi) rispetto al 1974²³.

Fu pertanto un ottimo anno per l'economia okinawana, ma i cittadini iniziarono presto a mostrare preoccupazione per il numero sempre più elevato di aziende nipponiche che acquistavano terreni locali, poiché il loro prezzo era aumentato vertiginosamente in conseguenza all'Esposizione, causando una sorta di speculazione fondiaria²⁴. Infatti, nel 1973 circa 6% del territorio prefettizio era stato venduto alla madrepatria, per poi salire a quasi 8% nel 1975²⁵. A questo proposito, si calcola che nel 1974 erano presenti a Okinawa ben 374 succursali di società giapponesi, che per la maggior

¹⁸ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 257

¹⁹ OKINAWAKEN BUNKA KANKŌ SUPŌTSUBU – KANKŌ SEISAKUKA, "Heisei 23 nen 'shukuhaku shisetsu jittai chōsa' no kekka ni tsuite", (Dati sui risultati della ricerca sulla struttura ricettiva nel 2011), in *Okinawaken*, 13/07/2012, <https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/kankoseisaku/kikaku/statistics/acmd/documents/h23shukuhaku.pdf>, consultato il 02/06/2020, p. 5

²⁰ ASATO, "Okinawan Identity...", cit., p. 235

²¹ IRAMINA, MIYAGI, ŌTANI, "Okinawa kankō...", cit., pp. 3-5

²² IRAMINA, MIYAGI, ŌTANI, "Okinawa kankō...", cit., p. 7

²³ "Kennai sōseisan (= kennai sōshishutsu (meimoku))", (Prodotto interno lordo (= Spesa prefettizia lorda (nominale)), in *Naikakufu*, https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu1.xls; https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu1.xls, consultato il 04/06/2020

²⁴ ASATO, "Okinawan Identity...", cit., p. 236

²⁵ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 257

parte avevano assimilato le piccole e medie imprese locali, chiaramente non all'altezza da un punto di vista economico. Pertanto,

trenta ditte chiusero i battenti [...] tra l'aprile e il novembre del 1974 [...]. Il fallimento completo o un deficit superiore ai dieci milioni di yen colpì novantuno imprese locali nel 1975, e centocinquantadue nel 1976²⁶.

Questo fu di grande intralcio al tentativo del governo centrale di creare le condizioni di base per lo sviluppo autosufficiente di Okinawa. Infatti, sebbene il progresso industriale abbia permesso di recidere il legame di dipendenza tra l'economia locale e le basi militari statunitensi, le molteplici aziende giapponesi insediatesi sul territorio divennero il fulcro di questo sistema di subalternità.

Ciò non giovava al reale benessere economico della regione per vari motivi, prima di tutto poiché i capitali investiti tendevano a riconfluire nelle varie sedi centrali in Giappone²⁷.

Inoltre, la chiusura di molte aziende locali comportò un tasso di disoccupazione fluttuante ma tendenzialmente in crescita, da 3,7% nel 1972 a 7,1% nel 2011, con un aumento di ben 3,4%. Questi dati risultano assai più elevati di quelli giapponesi, dal momento che la disoccupazione nazionale era solamente dell'1,4% nel 1972 e del 4,6% nel 2011, con una media di 3,1%, contro il 6% di Okinawa, ovvero quasi il doppio (Figura 26). Contribuì a questa tendenza anche il fatto che spesso gran parte delle aziende giunte a Okinawa facevano uso di manodopera proveniente dalla madrepatria, dal momento che era naturalmente più qualificata.

Figura 26 - Tasso di disoccupazione del Giappone e di Okinawa, 1972-2011



Fonte: <https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/long-term/02lfs/01lfs.xls>

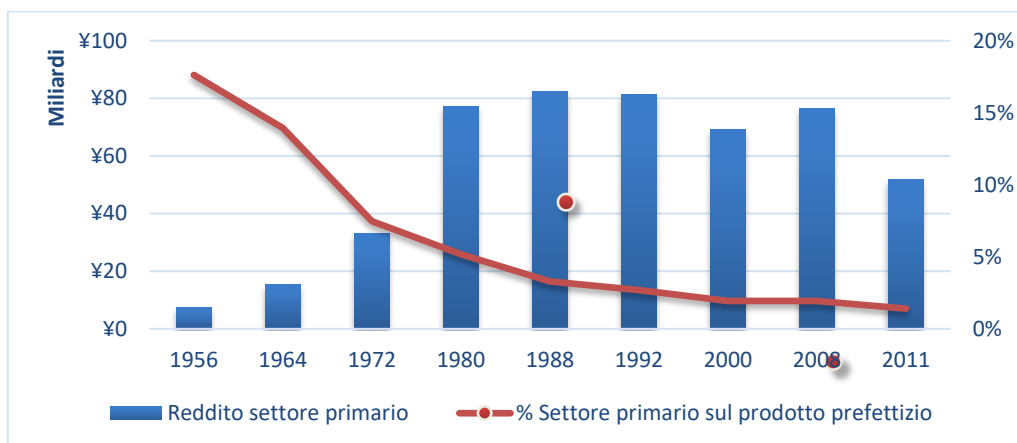
Per di più, la vendita di molti terreni diminuì l'estensione di quelli utilizzabili dal settore primario, aggravando ulteriormente la tendenza cominciata con la costruzione di basi militari durante e dopo la

²⁶ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 257

²⁷ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 258

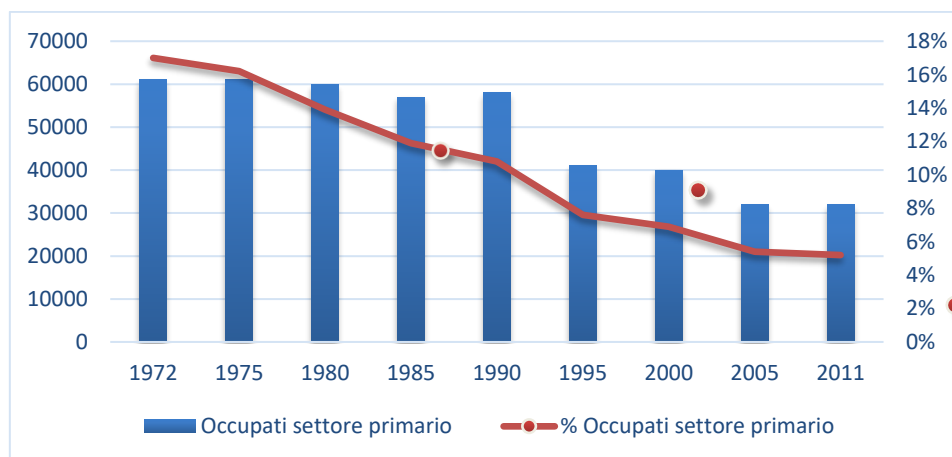
Seconda guerra mondiale²⁸. Infatti, nonostante tra il 1956 e il 2011 il reddito del settore primario aumentò di ¥45 miliardi (+613%), il suo peso sul prodotto prefettizio calò di ben 16%, raggiungendo circa l'1% (Figura 27). Oltre a ciò, dal 1972 al 2011 calarono sia il numero di occupati in questo settore che la loro percentuale sul totale della forza lavoro locale, rispettivamente di 29.000 persone e del 12% (Figura 28).

Figura 27 - Reddito del settore primario e sua percentuale sul prodotto prefettizio, 1956-2011



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30seisan_s30-s49.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50seisan_s50-h11.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h20/syuyo2_1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/syuyo2.xls

Figura 28 - Numero di occupati nel settore primario e loro percentuale sul totale degli occupati, 1972-2011



Fonte: <https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/long-term/02lfs/01lfs.xls>

Nel libro *The Crisis of Loss of Okinawa*, pubblicato nel 1976, il cosiddetto Comitato di dieci persone per la protezione della cultura e della natura di Okinawa esprimeva la sua preoccupazione in merito ai radicali cambiamenti apportati dopo il 1972. Secondo le sue parole,

²⁸ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 258

In a mere one or two years since Reversion, large companies from the mainland established themselves in Okinawa, bought up local land, and went on a building spree of leisure facilities, vacation cottage complexes, and golf courses; coastal land was reclaimed for manufacturers, and a host of other environmentally destructive public projects were carried out for the Marine Exposition. These development projects all came in a rush; [...] there was a crisis of destruction of Okinawa, that is, the destruction of its culture and nature [...] The loss of the natural environment will lead to the loss of Okinawan thought²⁹.

La modernizzazione e le migliori condizioni economiche, infatti, non distrussero soltanto l'ambiente, ma anche il tessuto sociale degli okinawani, come dimostra il caso del villaggio di Ishikawa (isola di Okinawa), il cui 20% fu espropriato ai fini dell'Esposizione, mentre il 22% fu acquisito da aziende private con sede in Giappone. Tuttavia, ciò non andò di pari passo con un effettivo sviluppo del territorio, dal momento che molte delle terre acquistate non vennero mai utilizzate, deteriorando così il loro valore produttivo. Questo fenomeno, inoltre, contribuì a distruggere anche la struttura sociale degli abitanti, che avevano fino ad allora vissuto di agricoltura, ma si ritrovarono costretti a lavorare nelle attività connesse all'Esposizione, come ristoranti e alberghi, che, però, spesso fallirono o chiusero poco dopo la mostra³⁰.

L'esempio più eclatante di questo fenomeno, tuttavia, è rappresentato senza ombra di dubbio dal progetto della società giapponese Mitsubishi di costruire un enorme porto petrolifero, detto *Central Terminal Station* (CTS) nella baia di Kin, a est dell'isola di Okinawa. Purtroppo, il suo mare, caratterizzato dall'abbondanza di coralli e da una ricca fauna, era già stato pesantemente danneggiato dai depositi di altre compagnie, presenti dagli anni Sessanta³¹. Ad esempio,

In October 1971 [...] more than 190 tons of crude oil leaked and polluted the entire Kin Bay area, killing white squid, shellfish, and other local fish, and threatening people who lived by fishing³².

Pertanto, nel 1973 gli abitanti decisero di formare la cosiddetta Associazione per la salvaguardia della baia di Kin (金武湾を守る会, *Kinwan o mamorukai*), secondo la quale l'introduzione di nuove industrie nella regione aveva portato

all'inquinamento della baia [...], alla distruzione della pesca [...] e dell'ambiente di vita dei residenti locali³³,

tanto che definiva Mitsubishi

un mercante di morte [che] va di pari passo con il militarismo giapponese³⁴.

²⁹ ASATO, "Okinawan Identity...", cit., p. 237

³⁰ ASATO, "Okinawan Identity...", cit., p. 236

³¹ CAROLI, *Il mito...*, cit., p. 259

³² TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 130

³³ KINWAN O MAMORUKAI, "Teiso ni atatte no seimei", (Dichiarazione sul deposito della causa), in *Biglobe*, 05/09/1974, <http://www7b.biglobe.ne.jp/~whoyou/kinwantoso.html#mamorukaiseimei>, consultato il 10/05/2020

³⁴ *Ibidem*

Le parole di Asato Seishin, il fondatore dell'associazione, sono molto intense. Egli, infatti, sosteneva che

la regione di Okinawa [...] ha un sistema funzionante che permette di godere del “diritto alla vita” attraverso il “potere del mare, della terra e della comunità”. È il governo che sta interferendo e vandalizzando le aree di Okinawa che sono già in grado di vivere in modo indipendente e autonomo. Non calpestate il “diritto alla vita”. Non intralciate lo stile di vita proattivo degli okinawani. [...] “Okinawa è già indipendente e autosufficiente”. [...] Il mare ha il ruolo di nutrire tutte le persone, [...] “il mare è la madre di tutte le persone”. [...] C'era la necessità di distruggere l'autosufficienza di un gruppo eterogeneo di persone e di passare a un'economia di mercato [...]? Non è forse vero che siamo caduti preda dell'idea di misurare l'“indipendenza” solo in termini di “quantità” di acquisti³⁵?

Dal suo discorso appare chiaro che l'intento di impedire la costruzione del CTS andava ben oltre il concetto di protezione ambientale, poiché il rischio più grande era che venisse rovinato il modello di vita comunitario in auge da varie generazioni, distruggendo definitivamente il tessuto sociale.

Pertanto, Asato si scagliava principalmente contro la modernizzazione che il Giappone voleva imporre a Okinawa, già capace di provvedere a sé stessa grazie al mare, definito metaforicamente come una madre che ciba i suoi figli. In merito alla nozione di sussistenza, egli sosteneva che

La crescita economica e la ricchezza della vita non sono mai proporzionali. [...] Molti pensano in modo stereotipato che l'economia debba crescere [...]. Tuttavia, l'importante non è mai la crescita economica, ma [...] lo scambio non remunerato. [...] abbiamo condotto una vita ‘continua’ nell'ambito dell'economia di sussistenza, basata sulle industrie tradizionali dell'agricoltura e della pesca³⁶.

La popolazione locale, infatti, nutriva un forte orgoglio per le proprie risorse, che le avevano finora consentito di vivere in modo semplice ma dignitoso, in netta contrapposizione all'ideale di benessere prospettato dallo sviluppo su modello giapponese. Come recitava una delle frasi usate come slogan dai membri dell'associazione,

I would rather eat sweet potatoes under the blue sky, than steaks in a big house³⁷.

Tuttavia, il problema messo in luce da Asato era che

le attività tradizionali e sostenibili in tali aree stanno diventando più difficili a causa dello sviluppo capitalistico e della globalizzazione, nonché della penetrazione dell'economia monetaria attraverso la modernizzazione³⁸.

³⁵ UTSUMI Emiko, “Asato Seishin san no shisō — Kinwan kara Shiraho, Henoko Takae e”, (Il pensiero di Asato Seishin — Dalla baia di Kin a Shiraho, Henoko e Takae), *Ke-shi kaji*, 76, 09/2012, <http://www7b.biglobe.ne.jp/~whoyou/kinwantoso.html#mamorukaiseimei>

³⁶ *Ibidem*

³⁷ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 137

³⁸ UTSUMI, “Asato Seishin...”, cit.

Ciononostante, il governatore Yara sembrava approvare la costruzione del CTS in quanto lo considerava

strategically necessary for Okinawa's industrialization³⁹.

Infatti, secondo il primo piano, la raffinazione del petrolio doveva essere implementata per diventare un'industria di punta di Okinawa⁴⁰. L'associazione, però, sosteneva che si trattasse semplicemente di una scelta di convenzione, dal momento che il ritorno di Okinawa in Giappone

Era l'incentivo perfetto per le aziende inquinanti che erano state cacciate dalla terraferma perché avevano incontrato una vivace resistenza da parte dei residenti dopo aver causato un forte inquinamento⁴¹.

Così, nel 1974 i membri dell'associazione decisero di intraprendere un'azione giudiziaria contro il governo prefettizio, nonostante due anni prima quest'ultimo avesse vinto le elezioni proprio grazie al sostegno popolare, che lo considerava innovativo. I vertici del movimento dichiararono che lo scopo di questa azione era di

difendere la baia di Kin, alla quale noi e i nostri discendenti siamo strettamente legati per [...] i mezzi di sussistenza [...], denunciare e correggere gli errori dell'amministrazione prefettizia "progressista", che porta avanti il suo [della baia] deterioramento, oltre [...] a combattere il monopolio di Mitsubishi Giappone, che controlla i cittadini tramite la violenza e il potere del denaro e sta forzando la costruzione di aziende inquinanti⁴².

Purtroppo, nonostante l'accesa lotta, nel 1979 una sentenza della Corte distrettuale di Naha diede il via libera al completamento del progetto, che prevedeva una capacità di venti milioni di chilometri di petrolio⁴³.

2.2. Sviluppo ecosostenibile e autosufficiente: la Visione del 21° secolo di Okinawa (2012-2021)

A posteriori risulta abbastanza difficile giudicare l'effettiva riuscita dei quattro piani di sviluppo di Okinawa messi in atto dal governo centrale tra il 1972 e il 2011. Infatti, essi modernizzarono la prefettura, dotandola di una rete infrastrutturale e trasformandola in una ambita meta turistica, distruggendo però la sua già danneggiata ricchezza naturale. D'altro canto, riuscirono nell'obbiettivo primario di ridurre la disparità con il Giappone, ma non erano ancora stati risolti vari problemi economici non indifferenti.

³⁹ TANJI, *Myth, protest...*, cit., p. 130

⁴⁰ *Ibidem*

⁴¹ KINWAN O MAMORUKAI, "Teiso ni...", cit.

⁴² *Ibidem*

⁴³ CAROLI, *Il mito...*, cit., pp. 259-260

2.2.1. Problemi economici irrisolti alla vigilia del 2012

Alla fine del 2011, vi era ad Okinawa il sentimento diffuso che quanto ottenuto finora non bastasse e che l'obiettivo di creare un'economia autonoma non fosse ancora stato raggiunto⁴⁴. Pertanto, il governo prefettizio sottolineava la necessità di continuare gli sforzi intrapresi finora per

superare le sfide associate alla particolare situazione di Okinawa e [...] sviluppare un'economia autosufficiente guidata dal settore privato, oltre a contribuire allo sviluppo del Giappone e della regione dell'Asia-Pacifico [...], approfittando dei suoi vantaggi [...], come la sua posizione geografica al centro dell'Asia orientale⁴⁵.

Esso sosteneva quindi che

se allarghiamo la nostra prospettiva non solo a livello interno, ma anche in Asia e nel mondo, potremo vedere che [...] siamo ora in grado di sfruttare i vantaggi che Okinawa ha da offrire.

Possiamo anche aspettarci di vedere emergere il potenziale per un ulteriore sviluppo⁴⁶.

Perciò, si pensava che fosse fondamentale formulare nuove politiche di sviluppo incentrate proprio sulle peculiarità della prefettura, come, per l'appunto, la sua ubicazione strategica.

Infatti, pur riconoscendo il rafforzamento dell'economia locale, soprattutto grazie allo sviluppo delle infrastrutture, del turismo e delle telecomunicazioni, era chiaro che vi fossero ancora vari aspetti da migliorare, come il basso reddito prefettizio e l'alto tasso di disoccupazione⁴⁷. Inoltre, anche il tasso di crescita economica non era particolarmente soddisfacente, poiché, sebbene nel 1972 il suo valore fosse del 39%, contro solo 19% a livello nazionale, negli anni seguenti fu molto più altalenante e contenuto, tanto che nel 2011 si fermò solamente al 2%, ovvero ben 37% in meno rispetto al 1972 (Figura 29).

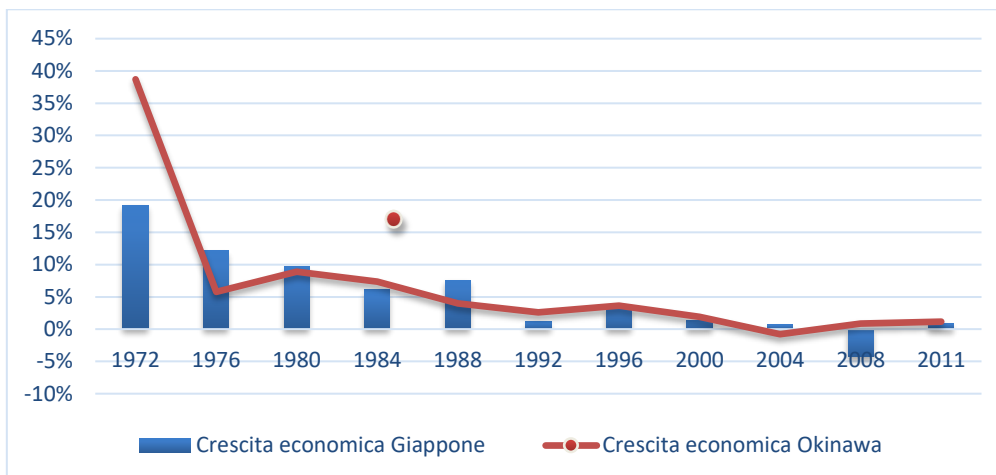
⁴⁴ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon keikaku", (Piano di Base per la Visione del 21° Secolo di Okinawa), in *Okinawaken*, 05/2012, <https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/keikaku/documents/21kihonkeikaku.pdf>, consultato il 06/06/2020, p. 9

⁴⁵ OKINAWAKEN KIKAKUBU KIKAKU CHŌSEIKA, "(Yoku aru shitsumon) Okinawa shinkōsaku ni tsuite", ((Domande frequenti) La politica di sviluppo di Okinawa), in *Okinawaken*, 14/01/2020, <https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/yokuaru-okinawashinkousaku.html>, consultato il 22/05/2020

⁴⁶ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon...", cit., p. 9

⁴⁷ "Okinawa shinkō no kore...", cit., p. 1

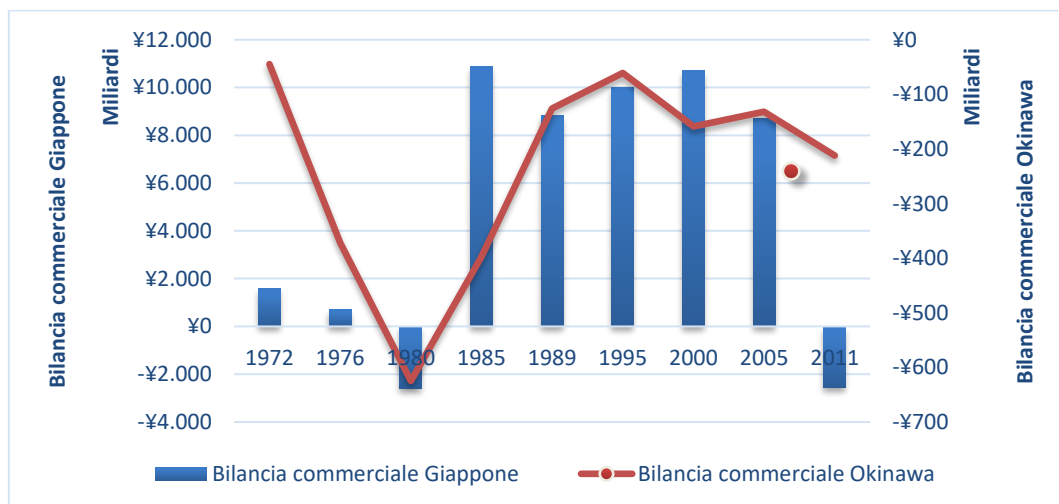
Figura 29 - Tasso di crescita economica del Giappone e di Okinawa, 1972-2011



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h20/soukatu2_1.xls
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h26/soukatu2.xls

Infine, l'analisi della bilancia commerciale di Okinawa, ovvero la differenza tra le esportazioni e le importazioni, mette in luce la debolezza del tessuto industriale della prefettura. Infatti, tra il 1972 e il 2011 fu sempre in passivo, con una media di -¥237 miliardi, ad indicare che il costo delle importazioni non riusciva ad essere coperto con i guadagni tratti dalle esportazioni. Al contrario, nel lasso di tempo considerato quella nazionale fu in passivo solo nel 1980 e nel 2011, con una media di ¥5.136 miliardi (Figura 30).

Figura 30 - Bilancia commerciale del Giappone e di Okinawa, 1972-2011



Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/3-1bouekigaikyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=E9B6611C49CB82047E5E4F1DC21AE32410053284, p. 2

2.2.2. La Visione del 21° secolo di Okinawa: i desideri della popolazione per il futuro della prefettura

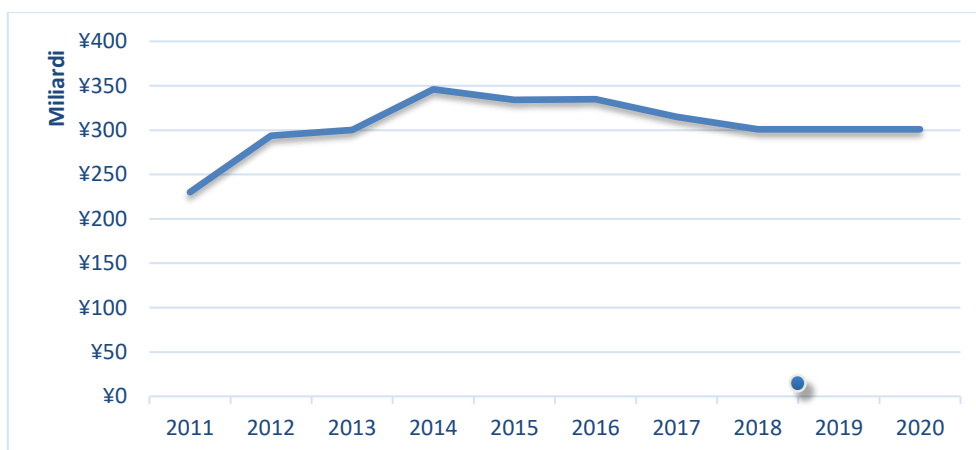
Alla luce di questi problemi irrisolti e del mancato raggiungimento di un'economia autosufficiente, nel 2012 il governo prefettizio instaurò autonomamente il suo primo piano di sviluppo a lungo termine, la cosiddetta Visione del 21° secolo di Okinawa.

Naturalmente, ciò non significa che il Giappone smise di contribuire economicamente al progresso della prefettura. Infatti, secondo Matsui, per poter risolvere i suoi problemi, Okinawa doveva realizzare una propria politica, ma attuarla sempre con il sostegno del governo centrale, cioè attraverso il budget di promozione⁴⁸. Tra il 2011 e il 2020 l'ammontare di quest'ultimo ebbe un andamento assai altalenante, ma aumentò di ben ¥71 miliardi, pari a 31% (Figura 31).

Inoltre, nel 2017 Okinawa si posizionò al 5° posto tra le prefetture per quanto riguarda il trasferimento pro capite di fondi statali, ovvero la somma della spesa pubblica e dei contributi di allocazione locale, e al 10° posto in merito alla sola spesa pubblica⁴⁹.

Infine, tra il 2011 e il 2016 crebbe anche la parte del PIL investita dal governo centrale a Okinawa (GFCE), precisamente di ¥101 miliardi, ovvero del 9% (Figura 32).

Figura 31 - Budget di promozione di Okinawa, 2011-2020

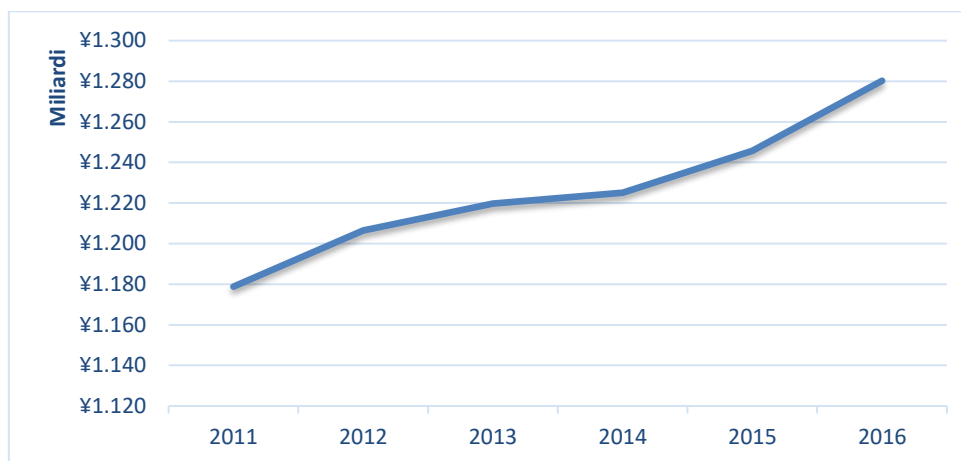


Fonte: <https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/33.html>

⁴⁸ MATSUI, "Okinawa shinkō no kadai...", cit., p. 1

⁴⁹ OKINAWAKEN KIKAKUBU KIKAKU CHŌSEIKA, "(Yoku aru shitsumon) Okinawa shinkō yosan ni tsuite", ((Domande frequenti) Il budget di promozione di Okinawa), in *Okinawaken*, 14/01/2020, <https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/yokuaru-yosan.html>, consultato il 22/05/2020

Figura 32 - Government final consumption expenditure (GFCE) di Okinawa, 2011-2016



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/syuyo5.xlsx

La Visione del 21° secolo viene definita dal governo prefettizio come

una visione di base per il futuro (circa il 2030) di come Okinawa dovrebbe apparire con la [...] collaborazione della gente della prefettura, e definisce la direzione degli sforzi per realizzarla, così come il ruolo dei cittadini e del governo⁵⁰.

È molto interessante il fatto che, discostandosi dai quattro piani precedentemente elaborati dal Giappone, ai cittadini venga dato un ruolo attivo nello sviluppo della regione. Infatti, i contenuti e le caratteristiche della Visione del 21° secolo si basano sulle risposte (2.751) ad un questionario rivolto agli okinawani tra il 2008 e il 2009, tramite il quale essi hanno espresso quali sono i loro desideri relativi al futuro di Okinawa.

Prima di tutto, è fondamentale che venga rispettata la sua natura unica e ricca, con cui la popolazione vive da sempre in simbiosi. È indubbiamente molto importante anche proteggere e mantenere viva la sua peculiare cultura, motivo di orgoglio per gli okinawani e oggetto della curiosità straniera. In particolare, bisogna cercare di riportare in auge il concetto di comunità, in cui tutti, dai bambini agli anziani, sono importanti e hanno un ruolo attivo. Affinché tutto questo sia possibile, è necessario infondere nei cittadini un sentimento di amore per la propria identità autoctona, insegnando loro la natura, la storia e le tradizioni del territorio⁵¹.

È chiaro, quindi, che la popolazione desidera uno sviluppo ecosostenibile, in opposizione al modello di progresso giapponese, poiché

⁵⁰ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon to wa", (Che cos'è la Visione del 21° di Okinawa?), in *Okinawa 21 seiki bijon*, <https://www.21okinawa.com/about21>, consultato il 04/06/2020

⁵¹ OKINAWAKEN, "Kenmin no iken o shūyaku shita 'Okinawa no shōraizō'", (La "Futura immagine di Okinawa" che sintetizza le opinioni dei cittadini), in *Okinawa 21 seiki bijon*, https://www.21okinawa.com/future_images, consultato il 04/06/2020

lo sviluppo di un'economia troppo orientata al mercato minaccia di indebolire gradualmente i rapporti umani nelle comunità locali⁵².

Infatti, il sopraccitato sondaggio condotto da Lim mette in luce che nel 2007 il 56% degli intervistati sosteneva di non apprezzare le politiche adottate per lo sviluppo di Okinawa, contro il mero 10% degli estimatori⁵³.

Per risolvere i problemi di Okinawa e potenziare la sua economia nel rispetto dei desideri della popolazione, il governo locale ha fornito una serie di valide idee nel cosiddetto Piano di base per la visione del 21° secolo di Okinawa, in vigore dal 2012 al 2021⁵⁴.

In merito alla salvaguardia ambientale, si vuole migliorare il sistema di riciclaggio, oltre ad implementare l'utilizzo di energie rinnovabili a basse emissioni di carbonio. Per quanto riguarda la crescita del valore di Okinawa come meta turistica e il mantenimento della sua cultura, risulta necessario puntare sull'arte, la gastronomia e l'intrattenimento⁵⁵. Inoltre, si tenterà di stimolare il concetto di comunità attraverso la collaborazione reciproca e la condivisione delle risorse locali, proprio come in passato. Tuttavia, non bisogna intendere la comunità come un ristretto gruppo di persone limitate al proprio territorio. Infatti, una sfida importante è quella di rimuovere ogni forma di disparità, attraverso

il miglioramento e il rafforzamento dell'industria, dell'ambiente, dell'istruzione, dell'assistenza sanitaria, dei trasporti, dei servizi amministrativi e delle infrastrutture di sussistenza in base alle caratteristiche della regione⁵⁶.

Uno degli obiettivi principali è sicuramente non dipendere più dalla massiccia presenza di aziende giapponesi, rendendo Okinawa autosufficiente grazie ad uno sviluppo sostenibile, basato quindi sui settori locali come l'agricoltura e la pesca per creare prodotti al 100% okinawani, dalla lavorazione alla vendita. Come sostiene il governo prefettizio, infatti,

Il nostro obiettivo è quello di promuovere e sostenere le industrie di comunità che si avvalgono di risorse locali superiori⁵⁷.

⁵² OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon...", cit., p. 10

⁵³ LIM, "Okinawa jūmin...", cit., p. 20

⁵⁴ OKINAWAKEN, "Basic Plan for 21st Century Vision of Okinawa (Okinawa Promotion Plan) (Excerpt)", in *Kyūshū chihō kankyō jimusho*, 03/2012, <http://kyushu.env.go.jp/okinawa/amami-okinawa/plans/society/pdf/z-10-e.pdf>, consultato il 05/06/2020, p. 4

⁵⁵ OKINAWAKEN, "Shōraizō 1 Okinawarashī shizen to rekishi, dentō, bunka o taisetsu ni suru shima", (Immagine del futuro 1 Un'isola che valorizza la natura, la storia, la tradizione e la cultura di Okinawa), in *Okinawa 21 seiki bijon*, https://www.21okinawa.com/pas_1, consultato il 04/06/2020

⁵⁶ OKINAWAKEN, "Shōraizō 2 Kokoro yutaka de, anzen · anshin ni kuraseru shima", (Immagine del futuro 2 Un'isola dove le persone possono vivere in pace, sicurezza e tranquillità), in *Okinawa 21 seiki bijon*, https://www.21okinawa.com/pas_2, consultato il 04/06/2020

⁵⁷ OKINAWAKEN, "Shōraizō 3 Kibō to katsuryoku ni afureru yutakana shima", (Immagine del futuro 3 Un'isola ricca di speranza e vitalità), in *Okinawa 21 seiki bijon*, https://www.21okinawa.com/pas_3, consultato il 04/06/2020

Non solo, al fine di raggiungere l'agognata indipendenza economica, è anche fondamentale che la prefettura faccia leva sui propri pregi per rafforzare la sua presenza in Asia. Infatti, secondo la rivista economica nazionale Nikkei Business

Aviation, energy as well as manufacturing industries and as-yet-unknown advanced technology businesses have begun to make headway. People and money are flowing in from around the world to realize this potential. Okinawa is no longer the frontier of Japan. The center of Asia is approaching Okinawa⁵⁸.

Anche Tomikawa Moritake, professore emerito presso l'Università internazionale di Okinawa e consulente politico del governo prefettizio, sostiene che

Okinawa possesses, to a sufficient degree, elements providing it with a comparative advantage [...] and proximity as a "bridgehead to Asia," and has a high potential for expansion. If those elements are actualized, then not only will the Okinawan economy be self-sustaining, but it will also be helpful to revitalizing Japan's economy⁵⁹.

Tuttavia, per usufruire al meglio di questo potenziale è necessario implementare la rete infrastrutturale, in particolar modo porti e aeroporti, poiché, secondo il governo centrale, non è ancora del tutto adeguata⁶⁰. Infatti, è stato calcolato che nel 2016 la lunghezza delle strade per 1.000 abitanti corrispondeva solamente al 58% della media nazionale⁶¹.

2.2.3. Il progresso economico di Okinawa dal 2012 ad oggi

Nonostante manchi ancora un anno alla scadenza del Piano di base per la Visione del 21° secolo di Okinawa, attraverso l'analisi dei principali indicatori macroeconomici è possibile determinare se dal 2012 vi siano stati dei miglioramenti.

Il primo segno di una leggera ripresa è dato dal tasso di crescita economica. Infatti, nonostante il suo andamento incostante, tra il 2011 e il 2017 esso è cresciuto dello 0,4% ed è stato sempre maggiore di quello nazionale, tranne nel 2017, con una media di 2%, contro 1% (Figura 33).

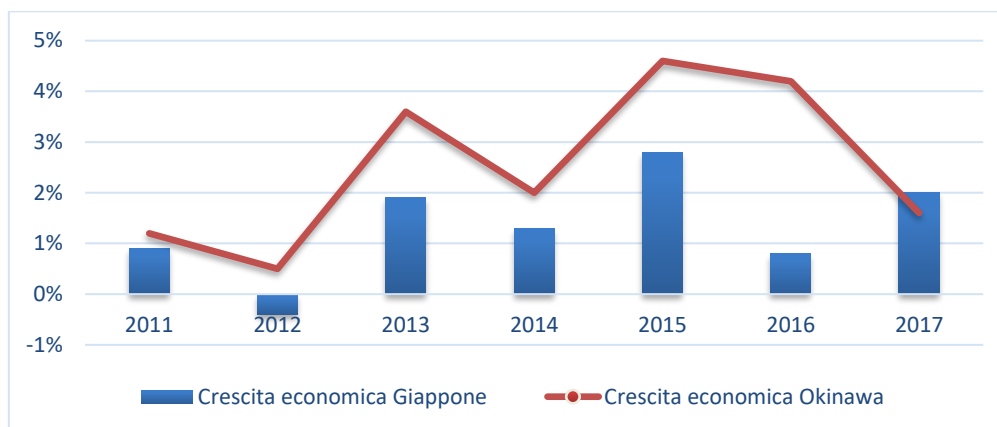
⁵⁸ TOMIKAWA Moritake, "Okinawa keizai no shōrai to Ajia—Datsu beigun kichi izon no tenbō", (Il futuro dell'economia di Okinawa e dell'Asia—Prospetti per la dipendenza dalle basi dell'esercito americano), in *Okinawa Prefectural Government – Washington D.C. Office*, 03/2017, <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/03/OkinawasEconomicFutureandAsia.pdf>, consultato il 05/06/2020, p. 4

⁵⁹ *Ibidem*

⁶⁰ DIRECTOR GENERAL FOR POLICY PLANNING, OKINAWA DEVELOPMENT AND PROMOTION BUREAU, OKINAWA GENERAL BUREAU, "Policies on Okinawa", in *Naikakufu*, https://www.cao.go.jp/en/pmf/pmf_6.pdf, consultato il 05/06/2020, pp. 1-2

⁶¹ OKINAWAKEN KIKAKUBU, "Okinawa shinkō ni kansuru kakushu seidotō ni tsuite", (Informazioni su vari sistemi relativi alla promozione di Okinawa), in *Okinawaken*, 23/10/2019, <https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/keikaku/reiwa1/documents/07dai4kaisiryō4-1.pdf>, consultato il 12/05/2020, p. 14

Figura 33 - Tasso di crescita economica del Giappone e di Okinawa, 2011-2017



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/soukatu1.xlsx
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/accounts/2017/acc4r.pdf>, p. 1

Inoltre, secondo il professor Ikemiyagi,

L'economia della prefettura sta andando bene e la crescita delle entrate [...] ha portato al rafforzamento della forza fiscale⁶².

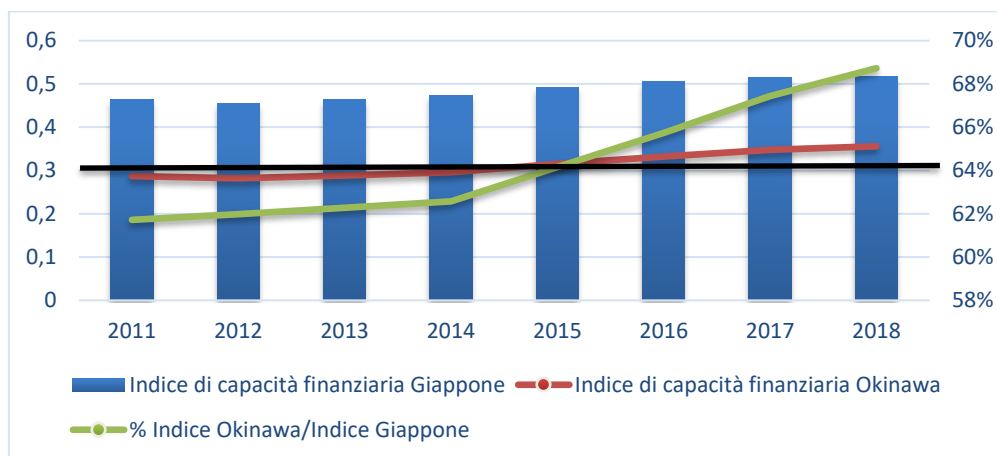
Infatti, anche se tra il 2011 e il 2018 è stato mediamente inferiore di 0,17 punti rispetto a quello nazionale, l'indice di capacità finanziaria di Okinawa ha visto un aumento di 0,07 punti (+24%), raggiungendo il valore di 0,36. È degno di nota, quindi, che dal 2015 abbia superato, anche se di poco, il limite di 0,3, diventando così per la prima volta dal 1973 una prefettura appartenente al gruppo D, ovvero con un indice compreso tra 0,300 e 0,399⁶³. Così, nel 2011 Okinawa era al 43° posto tra le prefetture per indice di capacità finanziaria, ma nel 2017 scalò ben sei posizioni, fino alla 37^o⁶⁴. Questo ha anche fatto sì che crescesse il suo rapporto su quello giapponese, precisamente dal 62% al 69% (Figura 34).

⁶² "Keizai kōchō no Okinawaken Zaiseiryoku shisū ga kako saikō Zenkoku nan i?", (Condizioni economiche favorevoli di Okinawa Indice di capacità finanziaria più alto di sempre Che posizione a livello nazionale?), *Okinawa Taimusu*, 20/08/2017, <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/130136#:~:text=%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C%E3%81%AE%EF%BC%92%EF%BC%90%EF%BC%91%EF%BC%97%E5%B9%B4%E5%BA%A6,%E3%82%92%E6%8C%87%E6%91%98%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82>, consultato l'08/06/2020

⁶³ *Ibidem*

⁶⁴ SEIFU TŌKEI, "Chiiki rankingu (Todōfuken dēta)", (Classifica delle regioni (Dati delle prefetture)), in *e-Stat*, <https://www.e-stat.go.jp/en/regional-statistics/ssdsviw/prefectures/rank>, consultato l'08/06/2020

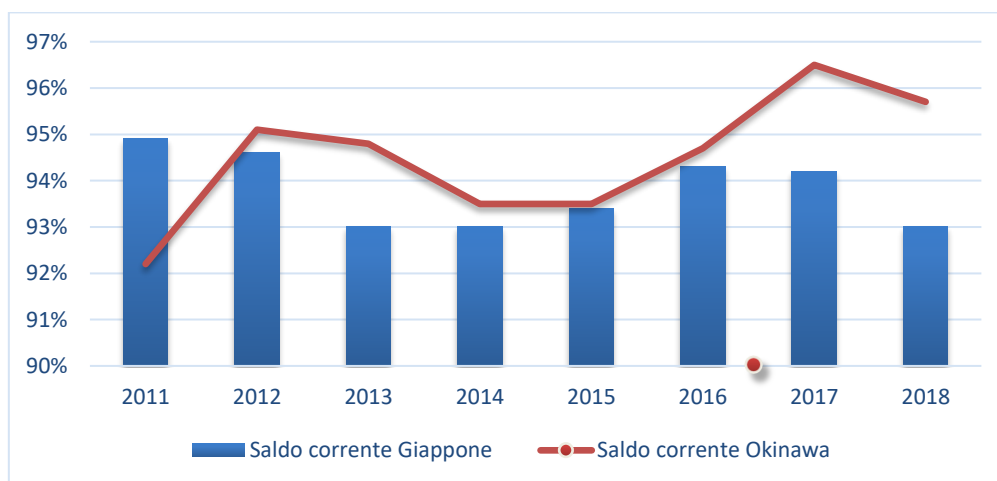
Figura 34 - Indice di capacità finanziaria del Giappone e di Okinawa, 2011-2018



Fonte: https://www.soumu.go.jp/iken/shihyo_ichiran.html

Nonostante, proprio come accadde nell'arco temporale 1973-2011, tra il 2011 e il 2018 sia l'economia nazionale che quella locale siano state anelastiche, il saldo corrente di Okinawa è risultato quasi sempre leggermente maggiore di quello del Giappone, con una media di 95% contro 94%. Per di più, il valore di quello giapponese è diminuito del 2%, mentre quello okinawano ha avuto un incremento del 3% (Figura 35), passando dalla 36° posizione tra le prefetture, nel 2011, alla 16°, nel 2017, guadagnando ben 20 posti⁶⁵.

Figura 35 - Saldo corrente del Giappone e di Okinawa, 2011-2018

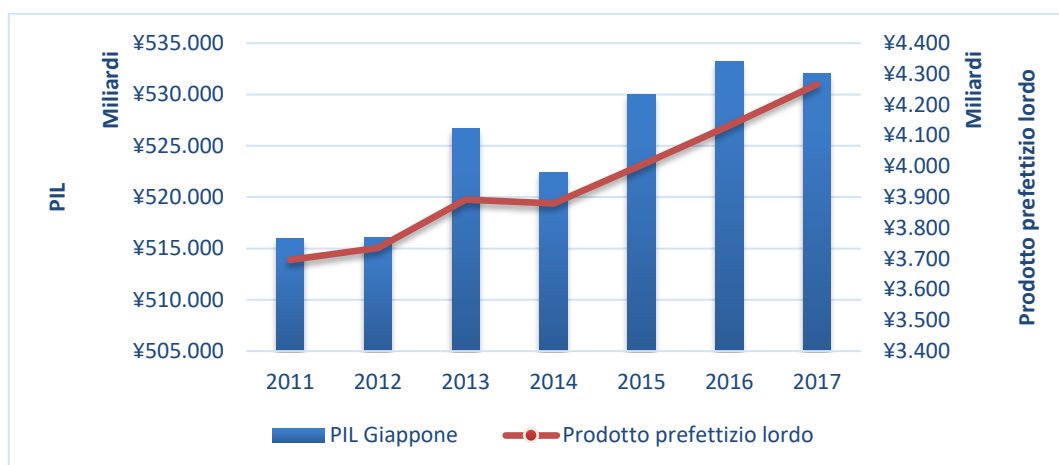


Fonte: https://www.soumu.go.jp/iken/shihyo_ichiran.html

⁶⁵ SEIFU TŌKEI, "Chiiki rankingu...", cit.

Per quanto riguarda invece il prodotto lordo, il governo prefettizio ha stimato che aumenterà, raggiungendo nel 2021 il valore di ¥5.144 miliardi⁶⁶, grazie soprattutto alle industrie legate al turismo e alle telecomunicazioni⁶⁷. È assai probabile che ciò si realizzi, dal momento che nel 2017 l'ammontare del prodotto prefettizio lordo era di ¥4.266 miliardi, ovvero solo ¥877 miliardi in meno rispetto all'obiettivo. Inoltre, tra il 2011 e il 2017 il suo valore è aumentato di ben 15% (+¥570 miliardi), mentre il PIL, pur essendo notevolmente maggiore, è cresciuto solo del 3% (Figura 36).

Figura 36 - Prodotto lordo del Giappone e di Okinawa, 2011-2017



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/soukatu2.xlsx
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/accounts/2017/acc4r.pdf>, p. 1

È positiva anche l'analisi del reddito prefettizio, poiché, sebbene tra il 2011 e il 2017 abbia rappresentato solamente lo 0,8% di quello giapponese, ha avuto un aumento costante, pari a ben 22% (+¥607 miliardi), contro solo 5% a livello nazionale (Figura 37).

Infine, secondo le stime del governo prefettizio, nel 2021 il reddito pro capite sarà di ¥2,7 milioni⁶⁸. Dato che tra il 2011 e il 2017 il suo valore è cresciuto di ben 18%, contro appena 6% a livello nazionale e che ha raggiunto circa ¥2,3 milioni, ovvero solamente ¥400.000 in meno rispetto all'obiettivo, anche in questo caso quest'ultimo risulta facilmente raggiungibile. Inoltre, la sua percentuale sul reddito pro capite è aumentata da 66% a 74% (Figura 38). Benché questi dati rappresentino un innegabile miglioramento delle condizioni economiche locali, è pur sempre vero che ci sia ancora molta strada da fare, poiché sia nel 2010 che nel 2015 Okinawa si posizionava all'ultimo posto tra le prefetture proprio in merito al reddito pro capite⁶⁹.

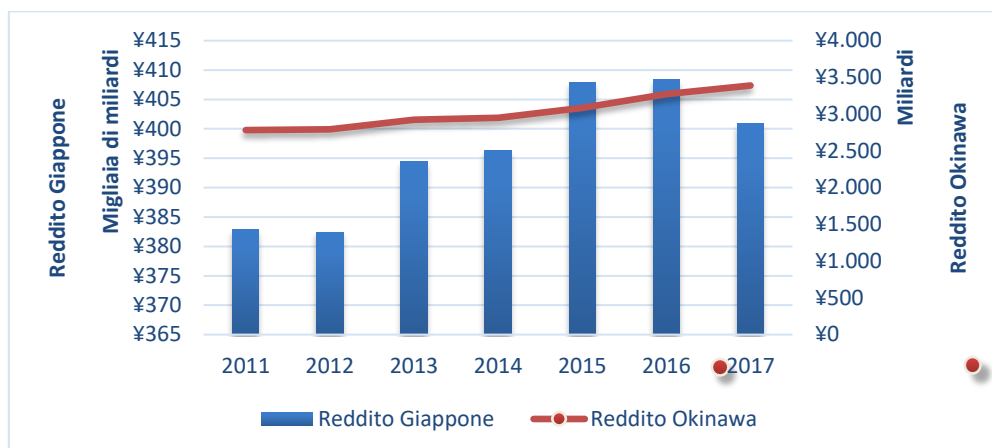
⁶⁶ OKINAWAKEN, "Shakai keizai tenbōchi", (Prospettive socioeconomiche), in *Okinawa 21 seiki bijon*, <https://www.21okinawa.com/frame>, consultato in data 05/06/2020

⁶⁷ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon...", cit., p. 29

⁶⁸ OKINAWAKEN, "Shakai keizai...", cit.

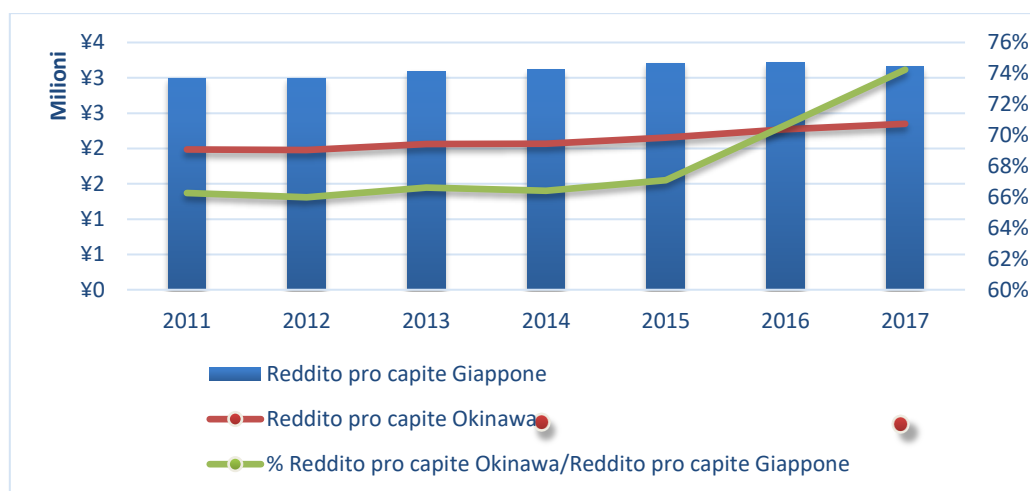
⁶⁹ SEIFU TŌKEI, "Chiiki ranking...", cit.

Figura 37 - Reddito del Giappone e di Okinawa, 2011-2017



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/soukatu5.xlsx
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/accounts/2017/acc4r.pdf>, p. 1

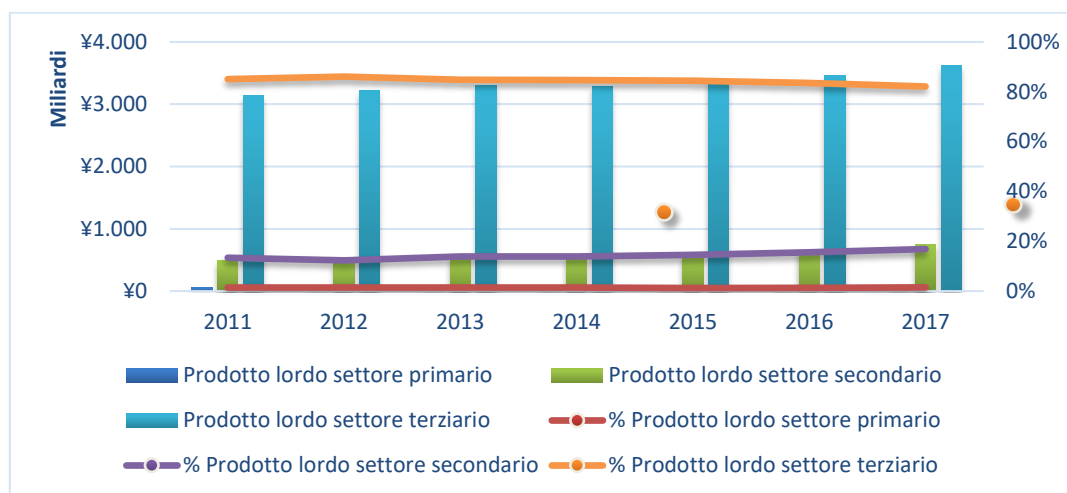
Figura 38 - Reddito pro capite del Giappone e di Okinawa, 2011-2017



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/soukatu7.xlsx
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/accounts/2017/acc4r.pdf>, p. 1

Analizzando dettagliatamente lo sviluppo dei tre settori economici tra il 2011 e il 2017, risulta che il prodotto di quello primario è aumentato di ¥14 miliardi, ma il suo peso sul prodotto prefettizio lordo è rimasto quasi invariato, da 1,4% a 1,5%. Al contrario, il miglioramento del settore secondario è stato più consistente, con la crescita del suo prodotto lordo e della sua percentuale rispettivamente di ¥251 miliardi e del 3%, raggiungendo il 17%. Tuttavia, nonostante il suo peso sia diminuito del 3%, è sempre il settore terziario a trainare l'economia di Okinawa, con un aumento del suo prodotto lordo pari a ¥481 miliardi, confermando così la tendenza creata dopo il 1972 (Figura 39).

Figura 39 – Prodotto lordo dei tre settori dell’economia e loro percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 2011-2017



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/syuyo2.xlsx
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/accounts/2017/acc4r.pdf>, pp. 1-2

Benché il settore secondario abbia subito un certo miglioramento, anche tra il 2011 e il 2018 la bilancia commerciale di Okinawa è stata costantemente negativa, con una media di -¥210 migliaia, sintomo che non è ancora stato raggiunto uno sviluppo delle industrie locali tale da uniformare il rapporto tra le importazioni e le esportazioni. Tuttavia, nello stesso lasso temporale il dato nazionale è stato positivo solamente nel 2016 e nel 2017, con una media di -¥3,9 milioni (Figura 40).

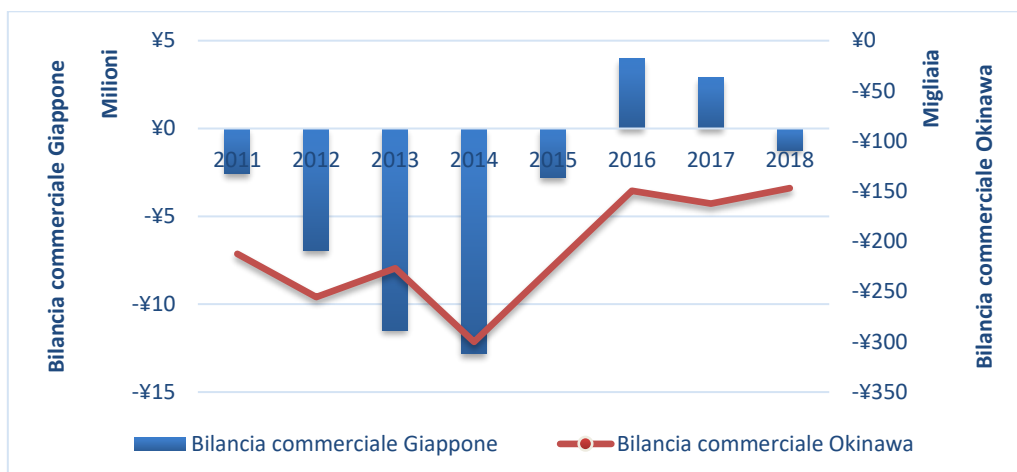
A conferma della debolezza del tessuto industriale vi è anche il fatto che tra il 2011 e il 2017 il suo reddito decresse di ¥16 miliardi (-8%) e la sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo diminuì dell'1% (Figura 41).

Questi dati mettono in luce che il governo locale non è ancora riuscito nel suo intento iniziale di rivitalizzare Okinawa, rendendola indipendente dalla massiccia presenza di aziende giapponesi, sviluppando

l'industria manifatturiera [...], nonché le piccole e medie imprese che sostengono la vita dei cittadini della prefettura⁷⁰.

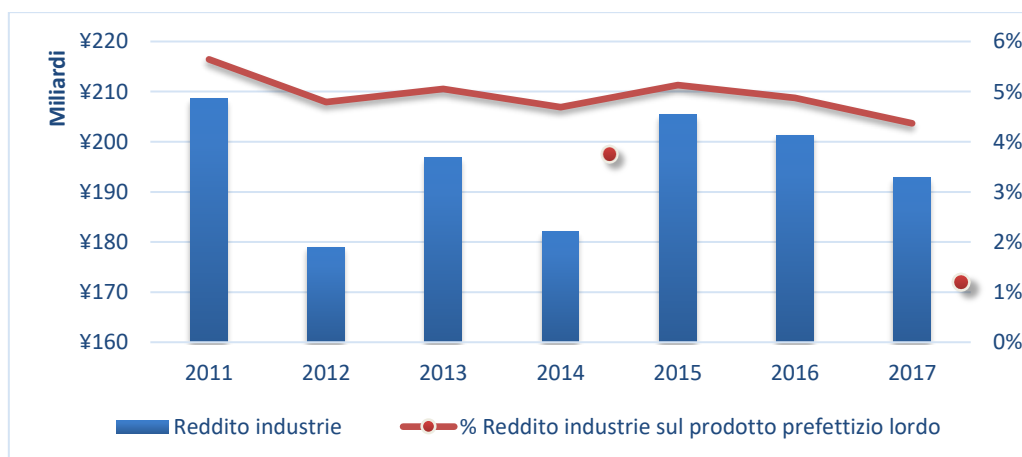
⁷⁰ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon...", cit., pp. 21-22

Figura 40 - Bilancia commerciale del Giappone e di Okinawa, 2011-2018



Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/3-1bouekigaikyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=E9B6611C49CB82047E5E4F1DC21AE32410053284, p. 2

Figura 41 - Reddito delle industrie e sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 2011-2017



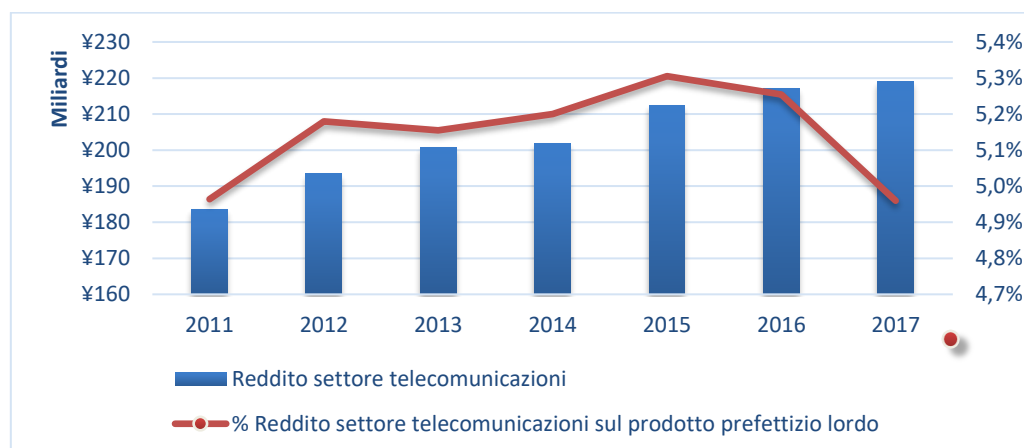
Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/syuyo2.xlsx
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/accounts/2017/acc4r.pdf>, p. 3

In seguito, per quanto riguarda il settore terziario, tra il 2011 e il 2017 la percentuale dell'industria delle telecomunicazioni sul prodotto prefettizio lordo è rimasta invariata al 5%, ma il suo reddito ha avuto un aumento costante, pari a ¥35 miliardi (+19%) (Figura 42), facendone la seconda industria più importante dopo quella del turismo⁷¹. Infatti, le aziende di telecomunicazioni non locali che si insediavano a Okinawa erano solo 52 nel 2002 e davano lavoro a 4.899 persone, mentre nel 2015 il loro numero era salito a 387, con ben 26.627 impiegati⁷². Questo convalida gli sforzi attuati dal governo prefettizio per fare di Okinawa un centro specializzato nelle telecomunicazioni, che funga da ponte di contatto tra il Giappone e l'Asia.

⁷¹ TOMIKAWA, "Okinawa keizai no...", cit., pp. 18-19

⁷² *Ibidem*

Figura 42 - Reddito del settore delle telecomunicazioni e sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 2011-2017



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/syuyo2.xlsx
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/accounts/2017/acc4r.pdf>, p. 3

Come precedentemente affermato, anche tra il 2011 e il 2017 l'industria trainante dell'economia okinawana è stata quella turistica, per merito, tra le altre cose, dall'ampliamento dell'aeroporto di Naha e dal perfezionamento della ricezione delle navi da crociera⁷³.

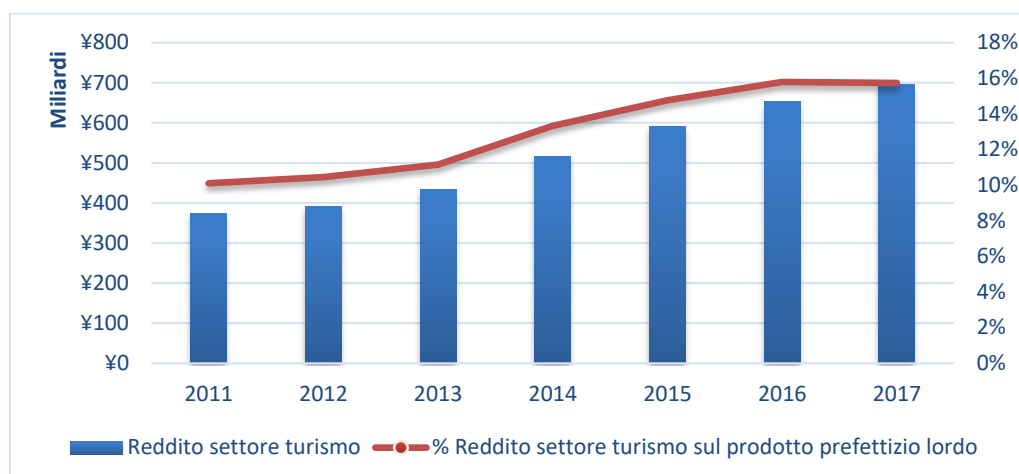
Infatti, il suo reddito è aumentato di ben ¥321 miliardi (+86%) e il suo peso sul peso sul prodotto prefettizio lordo è cresciuto dal 10% al 16% (+6%) (Figura 43).

Inoltre, dal 2011 al 2017 il numero di turisti è aumentato di circa 4 milioni, raggiungendo la cifra di 9,4 milioni, ovvero solo 600.000 in meno rispetto all'obiettivo di 10 milioni posto dal governo locale per il 2021⁷⁴. Seppur in modo irregolare, sono cresciuti anche i consumi pro capite dei turisti, precisamente del 7%, ovvero di circa ¥5.000 (Figura 44).

⁷³ OKINAWAKEN, "Chakujitsuna seika ga arawareteiru Okinawa 21 seiki bijon", (La Visione del 21° secolo di Okinawa mostra risultati costanti), in *Okinawa 21 seiki bijon*, <https://www.21okinawa.com/achievement>, consultato il 09/06/2020

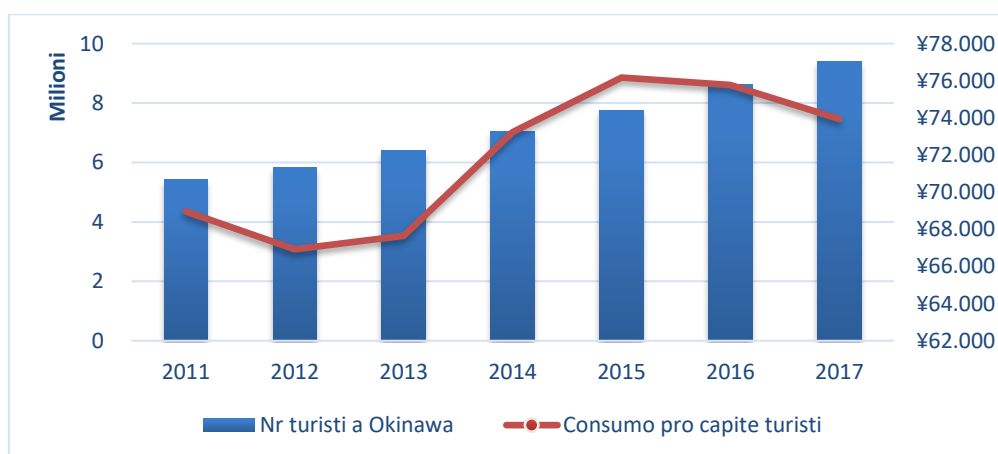
⁷⁴ TOMIKAWA, "Okinawa keizai no...", cit., p. 17

Figura 43 - Reddito del settore turistico e sua percentuale sul prodotto prefettizio lordo, 2011-2017



Fonte: https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/h28/syuyo2.xls
<https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/yearbook/62/data/22.xls>

Figura 44 - Numero di turisti a Okinawa e loro consumo pro capite, 2011-2017



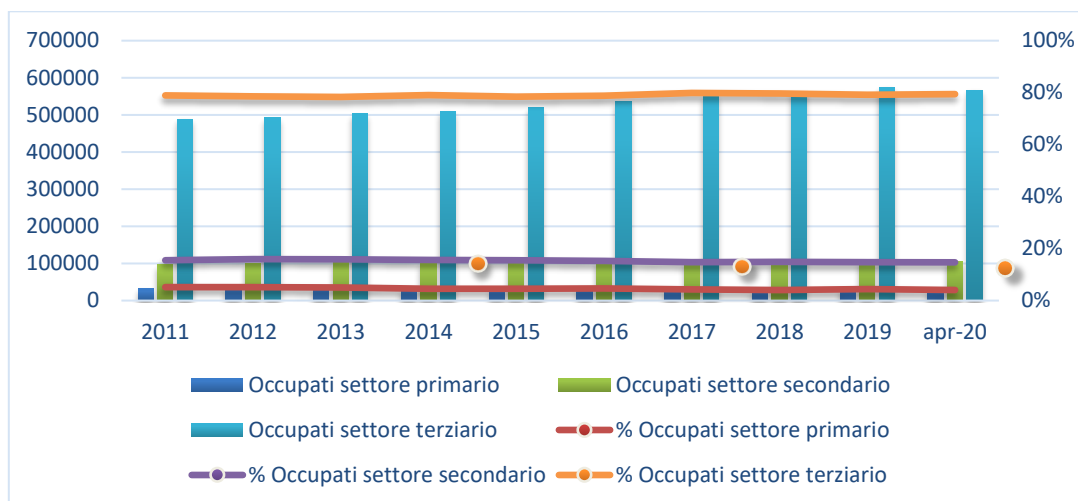
Fonte: <https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/yearbook/62/data/22.xls>

Il predominio economico del settore terziario è avvalorato anche dal numero dei suoi impiegati, che tra il 2011 e l'aprile del 2020 è cresciuto di 78.000 unità (+16%), raggiungendo il 79% sul totale della forza lavoro. Una tendenza opposta è rappresentata dai cittadini occupati nel settore secondario, aumentati di 9.000 unità (+9%) ma in discesa rispetto alla forza lavoro, dal 16% al 15%. Tuttavia, la situazione peggiore è quella del settore primario, i cui impiegati sono 3.000 in meno (-9%) e rappresentano solamente il 4% della forza lavoro totale (-1%).

Questi dati risultano abbastanza in linea con le previsioni del governo prefettizio per il 2021, secondo le quali la percentuale di occupati sulla forza lavoro sarà del 5% per il settore primario, del 15% per quello secondario e dell'80% per il terziario⁷⁵.

⁷⁵ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon...", cit., pp. 28-29

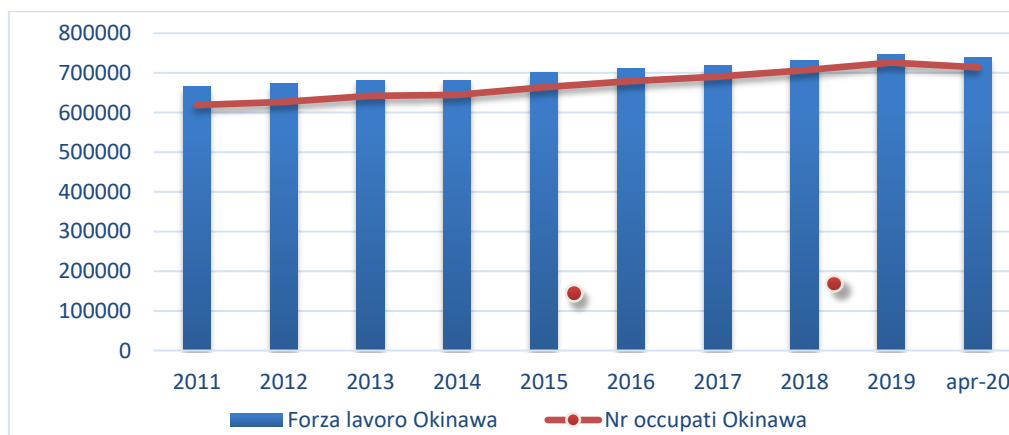
Figura 45 – Numero di occupati dei tre settori e loro percentuale sul totale della forza lavoro, 2011-2020



Fonte: <https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/long-term/02lfs/01lfs.xls>
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/lfs/2020/lfs202004.pdf>, p. 7, 27

Analizzando il mercato del lavoro nel suo complesso, è molto positivo il fatto che tra il 2011 e l'aprile del 2020 la forza lavoro sia aumentata dell'11%, stabilizzandosi a 739.000, e che il numero di occupati sia cresciuto di ben 15%, raggiungendo quota 714.000 (Figura 46). Ciò dimostra che gli obiettivi del Piano di base, ovvero 720.000 per la forza lavoro e 690.000 per gli occupati, sono stati già stati ampiamente superati⁷⁶.

Figura 46 – Forza lavoro e numero di occupati di Okinawa, 2011-2020



Fonte: <https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/long-term/02lfs/01lfs.xls>
<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/lfs/2020/lfs202004.pdf>, p. 7

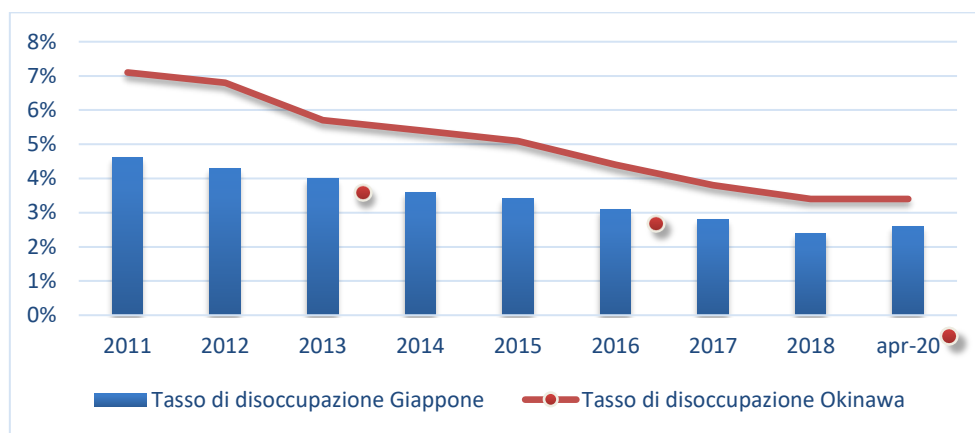
Sono stati ottenuti dei risultati assai soddisfacenti anche per quanto riguarda uno dei principali problemi dell'economia okinawana, ovvero l'alto tasso di disoccupazione, che il governo prefettizio

⁷⁶ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon...", cit., p. 28

ha stimato al 4% per il 2021⁷⁷. In effetti, nonostante tra il 2011 e l'aprile del 2020 sia stato mediamente del 5%, contro solamente 3% a livello nazionale, è stato in costante diminuzione (-4%) e ha già superato l'obiettivo predisposto, assestandosi a 3,4%. Inoltre, il margine di differenza dal tasso del Giappone è sceso da 2% a 1% (Figura 47).

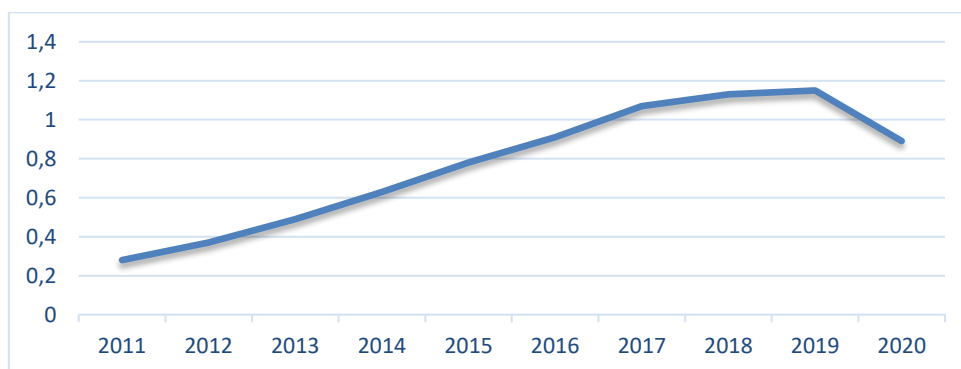
Questo miglioramento è in parte dovuto all'espansione del mercato del lavoro locale, poiché tra il mese di aprile del 2011 e del 2020 il rapporto medio tra le offerte di lavoro e i cittadini in cerca di un impiego è aumentato di 0,61. Pur essendo un dato ancora molto basso, ciò significa che per ogni okinawano vi erano 0,28 posizioni lavorative aperte nel 2011 e 0,89 nel 2020 (Figura 48).

Figura 47 – Tasso di disoccupazione del Giappone e di Okinawa, 2011-2020



Fonte: <https://www.pref.okinawa.lg.jp/toukeika/long-term/02lfs/01lfs.xls>
https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/lfs/lfs_index.html
<https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/index.html>

Figura 48 – Rapporto medio tra le offerte di lavoro e i richiedenti lavoro di Okinawa, 2011-2020



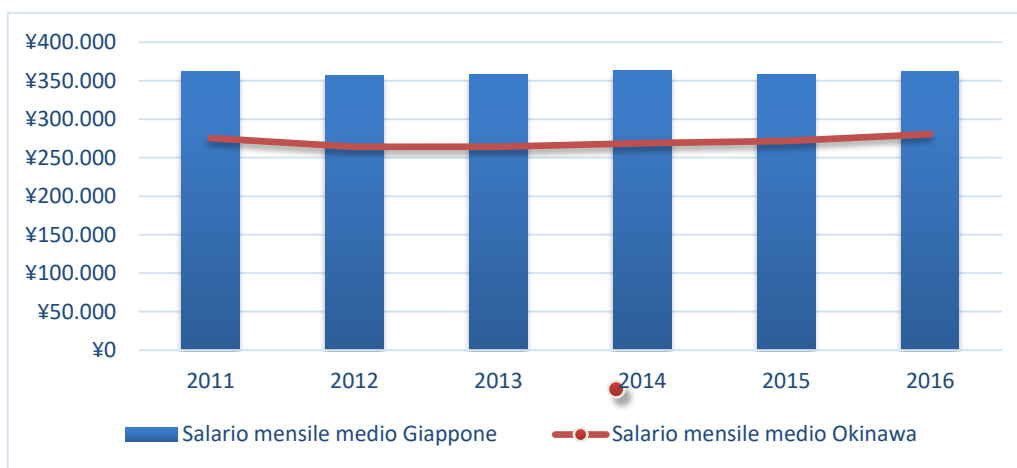
Fonte: <https://dashboard.e-stat.go.jp/en/graph?screenCode=00060&indicatorCode=0301020001000010010®ionalRank=3®ionCode=47000®ionLevel=3&cycle=1&isSeasonalAdjustment=1>

⁷⁷ OKINAWAKEN, "Okinawa 21 seiki bijon kihon...", cit., p. 28

Ha subito un discreto progresso anche il salario mensile medio degli okinawani, aumentando di ¥5.211 (+2%) dal 2011 al 2016. Tuttavia, continua ad essere molto più basso di quello medio nazionale, rappresentandone solamente il 78% (+3%) (Figura 49).

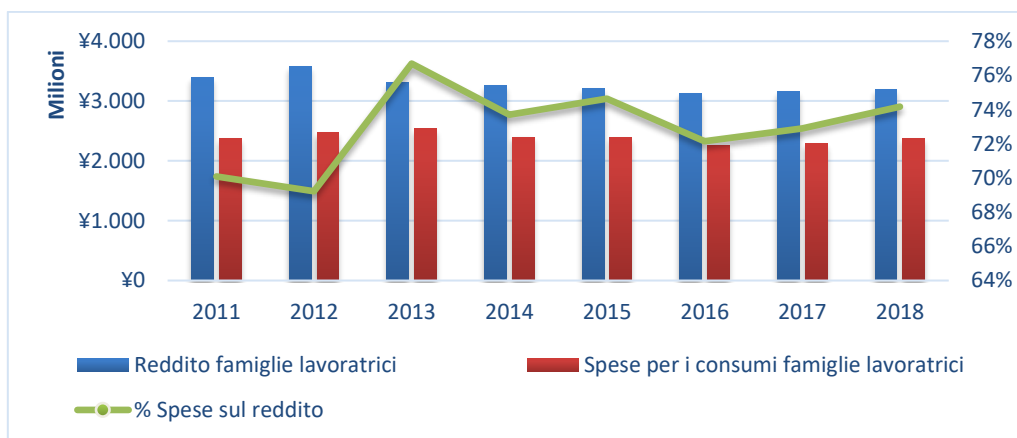
È invece negativa l'analisi del reddito delle famiglie lavoratrici, che tra il 2011 e il 2018 è diminuito di ¥188 milioni (-6%). Di conseguenza, siccome le spese per i consumi sono calate di solamente ¥1 milione, il loro rapporto sul reddito è cresciuto fino al 74% (+4%) (Figura 50).

Figura 49 Salario mensile medio del Giappone e di Okinawa, 2011-2016



Fonte: <https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/long-term/04mls/01mls.xls>

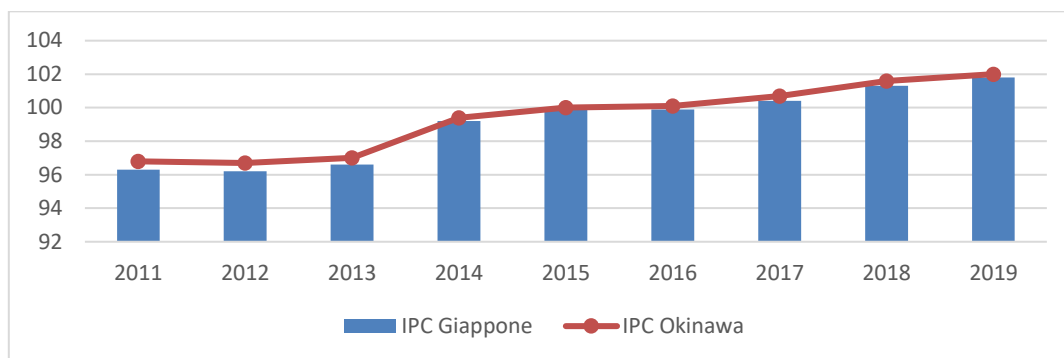
Figura 50 - Reddito e spese per i consumi delle famiglie lavoratrici okinawane, 2011-2018



Fonte: http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/1-4bukkadoukou_s.pdf?la=ja-JP&hash=007A47EE63634E0418991119887C826A107F18AE, p. 3

A gravare ulteriormente sulle finanze delle famiglie vi è l'IPC di Okinawa, che tra il 2011 e il 2019 è aumentato di 5 punti ed è stato mediamente di 99,4 punti, contro i 99,1 punti nazionali (Figura 51). Questo indica che non è ancora stato risolto il problema degli alti costi di trasporto dei beni dalla terraferma alla prefettura.

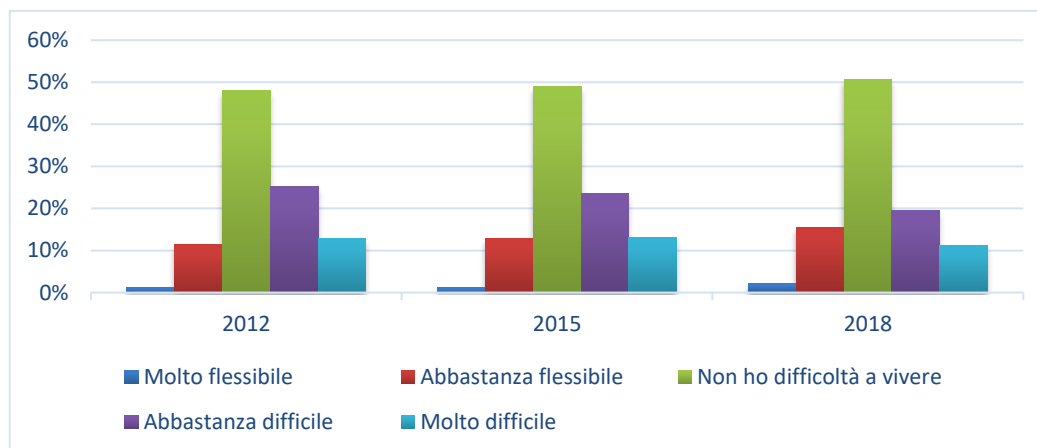
Figura 51 - Indice dei prezzi al consumo del Giappone e di Okinawa, 2011-2019



Fonte: <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031431849&fileKind=0>
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/file-download?statInfId=000031431830&fileKind=0>

In conclusione, secondo i sondaggi compiuti dal governo locale, tra il 2012 e il 2018 la situazione economica delle famiglie okinawane ha subito un leggero miglioramento. Infatti, anche se la media del 23% degli intervistati ha sostenuto di avere una condizione economica abbastanza difficile, la maggioranza è rappresentata da coloro che non hanno rilevanti problemi, con una media maggiore di ben 26%. Inoltre, nonostante la situazione molto flessibile sia rappresentata dalla minoranza (media dell'1%), quelle abbastanza e molto difficili hanno visto un calo costante dal 2012, rispettivamente di 6% e 2% (Figura 52).

Figura 52 – Risposte al quesito “Com’è la vostra condizione economica?”, 2012-2015-2018



Fonte: <https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/seido/documents/03.pdf>, p. 13

Conclusioni

I 27 anni trascorsi sotto il controllo americano esclusero Okinawa dallo sviluppo post-bellico della madrepatria. Così, quando finalmente nel 1972 la prefettura tornò sotto l'amministrazione del Giappone, si presentava con un'economia molto debole, la più povera dell'arcipelago nipponico.

Infatti, la costruzione delle basi militari statunitensi, durante e dopo la Seconda guerra mondiale, aveva notevolmente ridotto l'estensione dei terreni coltivabili, minando così l'importanza del settore primario, mentre la mancanza di una reale politica di ricostruzione economica aveva compromesso il potenziamento dei settori secondario e terziario, costringendo pertanto la maggioranza dei cittadini a dipendere da impieghi correlati alle strutture militari.

Di conseguenza, nel 1972 l'obiettivo primario del governo nazionale era indubbiamente quello di ridurre il divario economico tra il Giappone e Okinawa. Così, in quello stesso anno fu varato il Piano per la promozione e sviluppo di Okinawa, di durata decennale, poi prorogato anche dal 1982 al 1992 e dal 1993 al 2001. Una volta raggiunto questo obiettivo primario, dal 2002 al 2011 fu in vigore il Piano per la promozione di Okinawa, maggiormente incentrato sulle azioni da intraprendere per permettere alla prefettura di raggiungere uno sviluppo autosufficiente e di concorrere al progresso economico giapponese ed asiatico.

Nei 39 anni trascorsi tra il 1972 e il 2011, grazie a circa ¥2 bilioni stanziati dal governo centrale sotto forma di budget di promozione di Okinawa, le condizioni economiche della prefettura conobbero un rapido miglioramento.

Fu prima di tutto potenziata la rete infrastrutturale, con la costruzione di strade, porti e aeroporti sia sull'isola centrale che in quelle remote, incrementando così il numero di occupati nell'industria delle costruzioni, il reddito di quest'ultima e il suo peso sul prodotto prefettizio lordo.

Si puntò poi sulla posizione geografica altamente strategica di Okinawa, che poteva fungere da ponte di contatto tra il Giappone e la regione Asia-Pacifico. Pertanto, nel tentativo di trasformare la prefettura in un centro specializzato, si investì molto sullo sviluppo delle telecomunicazioni, creando anche zone di libero scambio, al fine di attrarre un numero maggiore di aziende sia giapponesi che straniere.

La straordinaria crescita del settore terziario è stata resa possibile principalmente dalla notevole importanza attribuita al turismo, fiore all'occhiello di Okinawa. Così, sfruttando le sue bellezze naturali, gli investitori della madrepatria iniziarono la costruzione di alberghi, zone di villeggiatura e ristoranti, tanto che aumentarono in modo esponenziale sia il numero di turisti che il reddito del turismo nel prodotto prefettizio lordo.

Questi miglioramenti ebbero effetti positivi sui principali indicatori macroeconomici di Okinawa, tra cui il prodotto prefettizio lordo, il reddito prefettizio e pro capite, oltre al salario medio mensile e al reddito delle famiglie lavoratrici.

Purtroppo, questo moderno progresso economico fu accompagnato da una grave forma di distruzione ambientale e sociale, come dimostra la lotta degli abitanti della baia di Kin contro la costruzione del CTS, il porto petrolifero della società Mitsubishi, poiché esso rischiava di danneggiare irreparabilmente il mare e, di conseguenza, il concetto di comunità, in auge da generazioni. Infatti, i cittadini vivevano in gruppo in modo semplice ma autosufficiente, proprio grazie ai prodotti del territorio.

L'esempio più chiaro di questa degradazione è però rappresentato dall'Esposizione oceanica internazionale del 1975. Di fatto, pur avendo avuto un indubbio beneficio economico, è innegabile che causò anche molti problemi, come il massiccio acquisto di terreni da parte di aziende giapponesi per costruirvi strutture ricettive, portando ad un ulteriore deterioramento dell'ambiente naturale, oltre che ad una nuova forma di dipendenza economica di Okinawa dalla madrepatria. Infatti, le deboli società locali non erano state capaci di reggere la competizione, spingendo i cittadini a dover trovare un impiego presso quelle recentemente insediate sul territorio, che però spesso si avvalevano di forza lavoro giapponese oppure chiudevano dopo un certo periodo. È anche per queste ragioni che tra il 1972 e il 2011 il tasso di disoccupazione di Okinawa fu mediamente del 6%, contro solo 3% a livello nazionale.

Pertanto, alla vigilia del 2012 la prefettura appariva più moderna e sviluppata rispetto a 40 anni prima, ma vi erano ancora varie questioni da risolvere, come, per l'appunto, la protezione ambientale e l'alta disoccupazione, oltre alla ristretta crescita economica e al debole tessuto industriale. Così, nel 2012 il governo locale ha istituito il suo primo piano di sviluppo autonomo, in vigore fino al 2021 e denominato Piano di base per la visione del 21° di Okinawa. Basato sui desideri della popolazione, esso mira a incrementare ulteriormente lo sviluppo della regione in modo nuovo, ovvero rispettando l'armonia tra la natura e l'uomo, oltre a raggiungere l'autosufficienza completa e l'indipendenza dalle aziende giapponesi, usufruendo dei prodotti locali.

Benché manchi un anno alla conclusione del piano e vi siano ancora aspetti da implementare, sono già stati registrati degli importanti miglioramenti rispetto al 2011, come quello del tasso di crescita economica, dell'indice di capacità finanziaria, del prodotto prefettizio lordo, del reddito prefettizio e di quello pro capite. Tuttavia, nonostante gli sforzi effettuati per promuovere e rafforzare le aziende locali, il settore secondario ha perso importanza, come dimostra il valore costantemente negativo della bilancia commerciale. Al contrario, il peso del settore terziario è aumentato ulteriormente,

confermandosi come pilastro dell'economia locale, principalmente grazie al turismo, anch'esso in forte crescita.

CONCLUSIONI

Il presente elaborato si è posto l'obiettivo di individuare l'esistenza di una correlazione tra l'origine storica dell'*Okinawa mondai*, ovvero la discriminazione sociale inflitta dai giapponesi agli okinawani, e due caratteristiche tuttora attuali di Okinawa, vale a dire il problema identitario dei suoi cittadini e la fragilità della sua economia.

In primo luogo, gli studi effettuati hanno consentito di stabilire che la coscienza personale degli okinawani è stata e continua a essere fortemente influenzata dalla storia delle relazioni tra Okinawa e il Giappone, contraddistinte dall'atteggiamento di superiorità socio-culturale di quest'ultimo e da un rapporto di convenienza.

Nel 1879 l'allora Regno delle Ryūkyū fu annesso al Giappone, diventando la prefettura di Okinawa, poiché possedeva una posizione geografica strategicamente utile, sia per bloccare l'avanzata delle potenze occidentali che come punto di partenza per l'espansione coloniale in Asia, ma i suoi abitanti non rispecchiavano l'ideale del giapponese comune. Infatti, il loro passato indipendente e a stretto contatto con la Cina, di cui il Regno era uno Stato tributario, aveva fatto dei ryūkyūani una popolazione quasi a sé stante, con una cultura, un dialetto e delle tradizioni peculiari, che contrastavano con l'ideologia dell'omogeneità etnica nipponica, un espediente concepito dai burocrati del periodo Meiji per rafforzare il Paese attraverso l'unità nazionale.

Ebbe così inizio la discriminazione sociale degli okinawani, considerati fortemente incivili e forzati a diventare giapponesi, acquisendo la lingua e i costumi nazionali, spesso tramite l'uso di strumenti coercitivi.

Questa "nipponizzazione" portò alla prima rivisitazione dell'identità okinawana, poiché molti decisero di rilegare il loro bagaglio culturale alla sfera privata, dimostrando invece in quella pubblica di essere giapponesi, allo scopo di integrarsi nel gruppo maggioritario e sfuggire alle denigrazioni quotidiane, basate sulla diversa fisionomia, sull'accento particolare o sul solo fatto di essere originari di Okinawa.

Inoltre, tra gli anni Venti e Trenta del Novecento, con il rafforzarsi del nazionalismo e del militarismo, molti okinawani sentivano il bisogno di partecipare alla causa nazionale per dimostrare la loro lealtà all'Imperatore e, di conseguenza, il loro valore come giapponesi. Tuttavia, la Seconda guerra mondiale coincise con la loro più grande disillusione, poiché si resero conto per la prima volta e in modo tragico che il Giappone non solo non li riconosceva ancora come cittadini, ma non era nemmeno mai stato realmente interessato a farlo. Essi capirono che non erano stati "nipponizzati" perché parte integrante della patria, ma poiché conformandosi alle regole nazionali, sarebbe stato più

semplice per la classe dirigente avere il controllo di Okinawa e della sua posizione strategica, unico vero obiettivo dei burocrati. Infatti, durante il conflitto il loro territorio fu usato come barriera protettiva contro l'invasione americana della madrepatria, mentre i soldati giapponesi trattarono brutalmente i locali, uccidendo chiunque parlasse in dialetto e rubando loro viveri e rifugi, risultando complessivamente nella morte di circa 150.000 civili okinawani.

Il forte senso di tradimento venne ulteriormente amplificato quando, nel 1952, il Giappone riacquistò la sua indipendenza dagli Stati Uniti, permettendo loro di mantenere il controllo amministrativo diretto su Okinawa, fondamentale nell'agenda militare statunitense per via, ancora una volta, della sua ubicazione strategica nella regione Asia-Pacifico.

Nonostante le terribili sofferenze patite per mano dei proprio connazionali, nel 1972 gli okinawani riuscirono finalmente a tornare sotto l'amministrazione nipponica, dopo anni di lotte in cui, pur di poter godere dello stesso benessere economico e sociale della madrepatria, misero in rilievo il fatto di essere cittadini giapponesi.

Questo rinnovato sentimento patriottico, però, non cambiò assolutamente la mentalità della maggioranza dei giapponesi, che tuttora continuano a discriminare gli okinawani in quanto tali. Inoltre, sulla base dell'ideologia dell'omogeneità etnica, il governo centrale rifiuta di riconoscerli come minoranza, non ammettendo di fatto l'esistenza della loro cultura autoctona.

Tale atteggiamento si riflette prima di tutto sulla loro identità, poiché per la maggior parte essi non si definiscono giapponesi, bensì okinawani oppure sia giapponesi che okinawani. Questo dimostra che la discriminazione sociale e le sofferenze incessantemente subite dal 1879 ad oggi hanno impresso nella popolazione locale un sentimento di inadeguatezza, impedendole di sentirsi realmente appartenenti al Giappone, tanto da non riuscire ad inserirsi nel contesto nazionale prescindendo dal proprio bagaglio culturale.

Infine, si rispecchia anche sul sistema scolastico nazionale, che mette in atto una sorta di censura riguardo a Okinawa, non trattando il suo tragico passato, ma nemmeno prevedendo corsi di cultura o lingua locali. Questo mette ulteriormente a rischio la sopravvivenza del dialetto ryūkyūano, messo al bando dalle autorità giapponesi a partire dal 1879 e, di conseguenza, considerato oggi dall'UNESCO a rischio di estinzione, poiché parlato abitualmente da sempre meno persone.

Inoltre, rischia di compromettere anche il futuro dell'identità okinawana, oggi custodita nelle mani dei giovani. Infatti, essi hanno assai poche opportunità di venire a contatto con la cultura locale, se non nel proprio ambiente familiare, oltre al fatto che, essendo nati vari decenni dopo il ritorno di Okinawa in Giappone, a differenza dei loro antenati vivono immersi nella cultura nazionale, dai film alla musica, dai romanzi alla scuola.

In secondo luogo, dalla ricerca condotta è emerso che la discriminazione sociale a lungo subita dagli okinawani per mano dei giapponesi ha avuto conseguenze dirette anche sulla debolezza dell'economia locale rispetto a quella nazionale.

Infatti, mentre il Giappone fu controllato dagli Stati Uniti per solamente 7 anni, Okinawa trascorse ben 20 anni di più sotto la diretta amministrazione statunitense, poiché, data la scarsa considerazione che il Giappone aveva degli okinawani, usò questi ultimi quasi come merce di scambio con l'America per riavere al più presto la propria indipendenza. In altre parole, consapevole dei loro forti interessi nella regione, l'imperatore Hirohito non ebbe nessun problema a cedere Okinawa agli americani, anche perché questo permise al Giappone di concentrare tutte le proprie risorse nella ricostruzione e nello sviluppo economico postbellici. Infatti, siccome la nuova Costituzione, varata dall'esercito americano nel 1947, sanciva la rinuncia giapponese alla guerra e al mantenimento di qualsiasi tipo di armi, sulla base del Trattato di sicurezza bilaterale nippo-americano (1951) il mantenimento della pace in Asia veniva affidato agli Stati Uniti, a cui era concesso di mantenere strutture militari sul suolo giapponese. Di conseguenza, libero dalla spesa legata al budget militare, il Giappone avviò una straordinaria ripresa economica, da cui Okinawa fu naturalmente esclusa.

Al contrario, i 27 anni di amministrazione statunitense furono economicamente disastrosi per Okinawa, poiché gli americani, considerandola solamente come una base di partenza per le loro operazioni nelle vicinanze, non avevano in realtà nessun interesse per un reale sviluppo dell'economia. Prima di tutto, la massiccia espropriazione forzata di terreni privati, per costruirvi basi militari, danneggiò irreparabilmente il settore primario, che rappresentava da sempre la principale fonte di sostentamento locale. D'altra parte, furono lasciati stagnanti anche i settori secondario e terziario, creando una dipendenza dell'economia locale dalla presenza delle strutture militari, poiché esse rappresentavano una cospicua parte del reddito prefettizio lordo e per sopravvivere i cittadini non avevano altra scelta che lavorarci, data la generica mancanza di industrie locali.

Pertanto, al ritorno in Giappone, nel 1972, Okinawa si presentava con l'economia più povera di tutto il Giappone. Nonostante da allora vi sia stato un visibile miglioramento di indicatori macroeconomici come il prodotto e il reddito prefettizio lordi, grazie ai vari piani di sviluppo implementati dai governi centrale e locale, la disparità economica con la madrepatria non è ancora stata del tutto risolta.

Tuttavia, è importante sottolineare che, trattandosi di un argomento molto vasto, che meriterebbe quindi di essere analizzato separatamente, questo elaborato non si è concentrato sulle caratteristiche della presenza militare americana a Okinawa e sulle sue conseguenze sia sull'identità okinawana che sull'economia locale. Uno studio più approfondito, infatti, avrebbe messo in luce che lo sproporzionato numero di basi militari nella prefettura è ancora oggi motivo di ostilità verso il

Giappone da parte degli okinawani. Inoltre, questa situazione ha una notevole rilevanza in campo politico, poiché il governatore progressista Tamaki Denny (2018-) sostiene che la mancata restituzione a Okinawa delle terre espropriate dall'esercito americano sia uno dei maggiori ostacoli a un completo sviluppo economico della prefettura.

Infine, data la scarsità di tali ricerche all'interno della letteratura specifica, un suggerimento per studi futuri potrebbe essere quello di condurre sondaggi di opinione tra gli okinawani, dai bambini agli anziani, ponendo domande relative alla propria identità, alla visione del Giappone, alla conoscenza della cultura e delle tradizioni autoctone. In questo modo, si potrebbe mettere a confronto la percezione di sé divisa per età, evidenziando eventuali differenze e tentando di spiegarle. Inoltre, sarebbe molto interessante anche intervistare vari okinawani, diversi per sesso, età e contesto sociale, oltre che residenti sia nella prefettura che nella madrepatria, in merito a eventuali episodi di discriminazione subita dai giapponesi, per fornire una visione diversificata di questo fenomeno. Inoltre, al fine di proporre un quadro completo, sarebbe assai utile realizzare dei sondaggi anche tra i giapponesi, ponendo quesiti in merito alla loro visione delle minoranze etniche, alla loro considerazione degli okinawani, alla loro conoscenza del passato di Okinawa, oltre che al loro giudizio sulla censura scolastica.

Bibliografia

Volumi, saggi e articoli

“110,000 protest history text revision order”, *The Japan Times*, 30/09/2007, <https://www.japantimes.co.jp/news/2007/09/30/national/110000-protest-history-text-revision-order/>, consultato il 07/01/2020

ALLEN, Matthew, “Wolves at the Back Door - Remembering the Kumejima Massacres”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, pp. 39-64, formato Kindle

ANIYA Masaaki, “Okinawasen no 「shūdanjiketsu」 (kyōsei shūdanshi)”, (I "suicidi di massa" della battaglia di Okinawa (Morti di massa forzate)), in “Compulsory Mass Suicide, the Battle of Okinawa, and Japan's Textbook Controversy”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 6, 1, 01/01/2008.

安仁屋政昭、『沖縄戦の「集団自決」(強制集団死)』、“Compulsory Mass Suicide, the Battle of Okinawa, and Japan's Textbook Controversy”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 第6巻1号、2008年1月1日、<https://apjif.org/data/aniya.%20j.pdf>

ASATO, Eiko, “Okinawan Identity and Resistance to Militarization and Maldevelopment”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, pp. 228-242, formato Kindle

BURGESS, Chris, “Multicultural Japan? Discourse and the 'Myth' of Homogeneity”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 5, 3, 01/03/2007, <https://apjif.org/-Chris-Burgess/2389/article.html>

CAROLI, Rosa, *Il mito dell'omogeneità giapponese: Storia di Okinawa*, Milano, Franco Angeli, 1999.

CAROLI, Rosa e GATTI, Francesco, *Storia del Giappone*, Roma, Editori Laterza, 2004

FLINT, Monica, “Governor Takeshi Onaga and the US Bases in Okinawa: The Role of Okinawan Identity in Local Politics”, *New Voices in Japanese Studies*, 10, 02/07/2018, pp. 29-51, <https://doi.org/10.21159/nvjs.10.02>

HAMMINE, Madoka, “Indigenous in Japan? The Reluctance of the Japanese State to Acknowledge Indigenous Peoples and Their Need for Education”, in Otso Kortekangas, Pigga Keskitalo, Jukka Nyysönen, Andrej Kotljarchuk, Merja Paksuniemi e David Sjögren (a cura di), *Sámi Educational History in a Comparative International Perspective*, Londra, Palgrave Macmillan, 2019, pp. 225-245, [10.1007/978-3-030-24112-4_13](https://doi.org/10.1007/978-3-030-24112-4_13)

HEIN, Laura e SELDEN, Mark, “Culture, Power, and Identity in Contemporary Okinawa”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, pp. 1-36, formato Kindle

HEINRICH, Patrick, “Language Loss and Revitalization in the Ryukyu Islands”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 3, 11, 24/11/2005, <https://apjjf.org/-Patrick-Heinrich/1596/article.pdf>

IRAMINA Hirono, MIYAGI Toshirō, ŌTANI Kentarō, “Okinawa kankō sangyōshi ni kansuru kenkyū: Okinawa kokusai kaiyō hakurankai kaisai o sakai to suru zengo 10 nen no Okinawa kankō o chūshin toshite”, (Uno studio sulla storia dell'industria del turismo di Okinawa: concentrarsi sul turismo di Okinawa per 10 anni prima e dopo l'Esposizione oceanica internazionale di Okinawa), *Meiō daigaku sōgō kenkyū*, 25, 03/2016, pp. 33-42.

伊良皆啓、宮城敏郎、大谷健太郎、『沖縄観光産業史に関する研究：沖縄国際海洋博覧会開催を境とする前後10年の沖縄観光を中心として』、名桜大学総合研究、第25巻、2016年3月、pp. 33-42, <http://hdl.handle.net/20.500.12001/19705>

“Keizai kōchō no Okinawaken Zaiseiryoku shisū ga kako saikō Zenkoku nan i?”, (Condizioni economiche favorevoli di Okinawa Indice di capacità finanziaria più alto di sempre Che posizione a livello nazionale?), *Okinawa Taimusu*, 20/08/2017.

『経済好調の沖縄県 財政力指数が過去最高 全国何位?』、沖縄タイムス、2017年8月20日、<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/130136#:~:text=%E6%B2%96%E7%B8%84%E7%9C%8C%E3%81%AE%EF%BC%92%EF%BC%90%EF%BC%91%EF%BC%97%E5%B9%B4%E5%BA%A6,%E3%82%92%E6%8C%87%E6%91%98%E3%81%97%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82>, consultato l'08/06/2020

LIM John Chuan-Tiong, “Okinawa jūmin no aidentiti chōsa (2005-nen ~ 2007-nen)”, (Indagine sull'identità dei residenti di Okinawa (2005-2007)), *Seisaku kagaku • kokusai kankei ronshū*, 11, 03/2009, pp. 105-147.

林泉忠、『沖縄住民のアイデンティティ調査（2005年～2007年）』、政策科学・国際関係論集、第11巻、pp. 105-147, <http://hdl.handle.net/20.500.12000/10367>

MOLASKY, Michael, “Medoruma Shun – The Writer as Public Intellectual in Okinawa Today”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, pp. 161-191, formato Kindle

MURPHY-SHIGEMATSU Stephen, “Okinawa seinen no aidentiti no bunkiten”, (Il bivio dell’identità giovanile di Okinawa), *Tōkyō joshi daigaku hikaku bunka kenkyūjo*, 44, 1, 11/1997, pp. 6-8, 11-14.

マーフィ・重松スティーヴン、『沖縄青年のアイデンティティの分岐点』、東京女子大学比較文化研究所、第44巻1号、1997年11月、pp. 6-8, 11-14、

<https://www.academia.edu/9966166/%E6%B2%96%E7%B8%84%E9%9D%92%E5%B9%B4%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%82%A4%E3%83%87%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%81%AE%E5%88%86%E5%B2%90%E7%82%B9>

NELSON, Thomas, “Japan in the Life of Early Ryukyu”, *The Journal of Japanese Studies*, 32, 2, 2006, pp. 367-392, <http://www.istor.com/stable/25064649>

OKAMOTO Masataka, “Nihonjin naibu no minzoku ishiki to gainen no konran”, (Coscienza etnica e confusione concettuale tra i giapponesi), *Fukuokaken ritsu daigaku ningen shakaigakubu kiyō*, 19, 2, 2011, pp. 77-98.

岡本雅享、『日本人内部の民族意識と概念の混乱』、福岡県立大学人間社会学部紀要、第19巻2号、2011年、pp. 77-98、

http://www.fukuoka-pu.ac.jp/kiyou/kiyo19_2/1902_okamoto.pdf

“Okinawa: The First Year”, *Japan Quarterly*, 20, 3, 01/07/1973, pp. 247-251, <https://search.proquest.com/docview/1304274115?accountid=17274>

ŌTA, Masahide, “The U.S. Occupation of Okinawa and Postwar Reforms in Japan Proper”, in Robert E. Ward e Sakamoto Yoshikazu (a cura di), *Democratizing Japan: The Allied Occupation*, Honolulu, University of Hawaii Press, 1987, pp. 283-304, doi:10.2307/j.ctv9zcm6g.14

RABSON, Steve, “Life and Times in the Greater Osaka Diaspora”, in Laura Hein e Mark Selden (a cura di), *Islands of Discontent – Okinawan Responses to Japanese and American Power*, Lanham, Rowman & Littlefield Publishers, Inc., 2003, pp. 99 -134, formato Kindle

RABSON, Steve, “Okinawan Perspectives on Japan's Imperial Institution”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 6, 2, 01/02/2008, <https://apjif.org/-Steve-Rabson/2667/article.pdf>

SAKAI, Robert K., “The Satsuma-Ryukyu Trade and the Tokugawa Seclusion Policy”, *The Journal of Asian Studies*, 23, 2, 05/1964, pp. 391-403, <https://www.jstor.org/stable/2050758>

“Shijitsu o bokasu seiji kecchaku, 「kyōsei」 mitomezu 「kanyo」 e”, (Una soluzione politica che offusca i fatti storici, verso il “coinvolgimento” senza riconoscere la “coercizione”), *Okinawa Times*, 27/12/2007, in “Compulsory Mass Suicide, the Battle of Okinawa, and Japan's Textbook Controversy”, *The Asia-Pacific Journal – Japan Focus*, 6, 1, 01/01/2008,

『史実をぼかす政治決着、「強制」認めず「関与」へ』、沖縄タイムス、2007年12月27日、“Compulsory Mass Suicide, the Battle of Okinawa, and Japan's Textbook Controversy”, *The*

Asia-Pacific Journal – Japan Focus, 第 6 卷 1 号、2008 年 1 月 1 日、
<https://apjif.org/data/Okinawa%20Times%20on%20Shudan%20Jiketsu-1.pdf>

TANJI, Miyume, *Myth, protest and struggle in Okinawa*, Oxfordshire, Routledge, 2006.

UEMA Sōichirō, “Kindai wagakuni no dōka shugi to Okinawa no minzoku shisō – ‘Okinawagaku’ ni kansuru shakaishiteki kōsatsu”, (*Assimilazionismo e ideologia etnica di Okinawa nel Giappone moderno – Ricerca storico-sociale sugli “Studi di Okinawa”*), *Ōyō shakaigaku kenkyū*, 49, 2007, pp. 285-295.

上間創一郎、『近代わが国の同化主義と沖縄の民族思想 — 「沖縄学」に関する社会史的考察』、*応用社会学研究*、第 49 卷、2007 年、pp. 285-295,

https://rikkyo.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=1856&item_no=1&attribute_id=18&file_no=1

UTSUMI Emiko, “Asato Seishin san no shisō — Kinwan kara Shiraho, Henoko Takae e”, (*Il pensiero di Asato Seishin – Dalla baia di Kin a Shiraho, Henoko e Takae*), *Ke-shi kaji*, 76, 09/2012. 内海恵美子、『安里清信さんの思想——金武湾から白保、辺野古・高江へ』、*けーし風*、第 76 卷、2012 年 9 月、

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~whoyou/kinwantoso.html#mamorukaiseimei>

ZHUGE, Scott, “Okinawa Occupied: Current US Naval Bases in Japan”, *Harvard International Review*, 34, 3, 2013, pp. 7-8, www.jstor.org/stable/43746109

Documenti tratti dalla rete

AGARIE Nariyuki, “Aidentiti no yakuwari to kanōsei”, (*Il ruolo e il potenziale dell'identità*), in *Taiwan International Studies Association*.

東江平之、『アイデンティティの役割と可能性』、*Taiwan International Studies*

Association、<http://www.tisanet.org/okinawa/1.htm>, consultato il 20/06/2020

AIPR, “Alternative report to the Committee on the Elimination of Racial Discrimination (CERD) for the review of 10th and 11th periodic report of Japan (CERD/C/JPN/10-11)”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 07/2018,

https://tbinternet.ohchr.org/Treaties/CERD/Shared%20Documents/JPN/INT_CERD_NGO_JPN_32_100_E.pdf, consultato il 03/04/2020

“Bilateral Security Treaty between the United States of America and Japan (September 8, 1951)”, in *Asia for Educators*, 08/09/1951,

http://afe.easia.columbia.edu/ps/japan/bilateral_treaty.pdf, consultato il 29/01/2020

“Bukka oyobi shōhi dōkō”, (Prezzi e tendenze dei consumi), in *Naikakufu · Okinawa sōgō jimukyoku*.

『物価及び消費動向』、内閣府・沖縄総合事務局、http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/1-4bukkadoukou_s.pdf?la=ja-JP&hash=007A47EE63634E0418991119887C826A107F18AE, consultato il 31/05/2020

CERD, “CERD/C/JPN/CO/3-6”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 06/04/2010, https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CERD%2FC%2FJPN%2FCO%2F3-6&Lang=en, consultato il 19/10/2019

CERD, “CERD/C/JPN/CO/7-9”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 26/09/2014, https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CERD/C/JPN/CO/7-9&Lang=En, consultato in data 19/10/2019

CERD, “CERD/C/JPN/CO/10-11”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, 26/09/2018, https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/treatybodyexternal/Download.aspx?symbolno=CERD/C/JPN/CO/10-11&Lang=En, consultato in data 19/10/2019

“Committee on the Elimination of Racial Discrimination”, in *United Nations Human Rights – Office of the High Commissioner*, <https://www.ohchr.org/en/hrbodies/cerd/pages/cerdindex.aspx>, consultato il 19/10/2020

“Dai 3 ji sangyō”, (Il settore terziario), in *Naikakufu · Okinawa sōgō jimukyoku*.
『第3次産業』、内閣府・沖縄総合事務局、http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/choki/keizai_gaikyou/r01/2-3sanjisangyou_s.pdf?la=ja-JP&hash=03FE3345C2C42C8285B5AEA81354E4B00E39402C, consultato il 01/06/2020

DIRECTOR GENERAL FOR POLICY PLANNING, OKINAWA DEVELOPMENT AND PROMOTION BUREAU, OKINAWA GENERAL BUREAU, “Policies on Okinawa”, in *Naikakufu*, https://www.cao.go.jp/en/pmf/pmf_6.pdf, consultato il 05/06/2020

“Editorial: Government responsible for structural discrimination behind ‘dojin’ remark”, *Ryūkyū Shinpō*, 20/10/2016, <http://english.ryukyushimpo.jp/2016/10/25/25930/>, consultato il 12/02/2020

ELDRIDGE, Robert D., “The Okinawa ‘Base Problem’ Today”, in *nippon.com*, 03/02/2012, <https://www.nippon.com/en/in-depth/a00501/#note-1-1>, consultato il 20/02/2020

ELDRIDGE, Robert D., “Words to Worry About: The Danger of Media Bias in Okinawa”, in *nippon.com*, 16/07/2015, <https://www.nippon.com/en/column/g00298/>, consultato il 05/07/2020

ERD Net, “Joint Civil Society Report on Racial Discrimination in Japan”, in *United Nation Human Rights – Office of the High Commissioner*, 08/2018, https://tbinternet.ohchr.org/Treaties/CERD/Shared%20Documents/JPN/INT_CERD_NGO_JPN_31918_E.pdf, consultato il 13/02/2020

“Former Governor of Okinawa Masahide Ota: Maher’s remarks represent his true feelings”, *Ryūkyū Shinpō*, 12/03/2020, <http://english.ryukyushimpo.jp/2011/03/12/99/>, consultato il 17/02/2020

IKEMIYAGI, Hidemasa, “‘Okinawa promotion budget,’ a misleading name”, in *Meiji University*, 06/03/2018, https://www.meiji.ac.jp/cip/english/research/opinion/Hidemasa_Ikemiyagi.html, consultato il 13/05/2020

KATO, Mike, “Begin: Shimanchu nu Takara (Treasures of the Island People)”, in *Watch Japan*, 16/02/2012, <https://watchjapan.wordpress.com/2012/02/16/begin-shimanchu-nu-takara-treasures-of-the-island-people/>, consultato il 17/06/2020

KEBELMAN, Frank L., “Okinawa: A strategic analysis”, Air University, 04/1987, <https://apps.dtic.mil/dtic/tr/fulltext/u2/a179839.pdf>, consultato il 27/01/2020

“Kennai sōseisan (= kennai sōshishutsu (meimoku))”, (Prodotto interno lordo (= Spesa prefettizia lorda (nominale))), in *Naikakufu*.

『県内総生産（=県内総支出（名目））』、内閣府、
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s30/30soukatu1.xls;
https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/files/contents/tables/s50/50soukatu1.xls,
consultato il 04/06/2020

KINWAN O MAMORUKAI, “Teiso ni atatte no seimei”, (Dichiarazione sul deposito della causa), in *Biglobe*, 05/09/1974.

金武湾を守る会、『提訴にあたっての声明』、Biglobe、1974年9月5日、
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~whoyou/kinwantoso.html#mamorukaiseimei>, consultato il 10/05/2020

KOISO Shūji, NISHIMURA Nobuhiko, YAMAZAKI Mikine, “Aratana Okinawa shinkō seisaku no hikaku kenkyū”, (Studio comparativo delle nuove politiche di promozione di Okinawa), in *Hokkaidō kaihatsu kyōkai*.

小磯修二、西村宣彦、山崎幹根、『新たな沖縄振興政策の比較研究』、北海道開発協会、
https://www.hkk.or.jp/kenkyusho/file/jyosei_rep24-08.pdf, consultato il 23/05/2020

MATSUI Kazuhiko, “Okinawa shinkō no kadai to kongo no shinkō saku no arikata”, (Sfide per la promozione di Okinawa e future misure di promozione), in *Sangiin*, 01/2012.

松井一彦、『沖縄振興の課題と今後の振興策の在り方』、参議院、2012年1月

https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2012pdf/20120113137.pdf, consultato il 23/05/2020

MATSUMOTO Hideki, “Okinawa ni okeru beigun kichi mondai – Sono rekishiteki keii to genjō”, (Il problema delle basi militari americane a Okinawa – Background storico e stato attuale), in *Kokuritsu kokkai toshokan dejitaru korekushon*, 07/2004.

松本英樹、『沖縄における米軍基地問題－その歴史的経緯と現状』、国立国会図書館デジタルコレクション、2004年7月、

https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_999936_po_64202.pdf?contentNo=1&alternativeNo=, consultato il 16/01/2020

NAKAYAMA, Risa, “Okinawan Youth –Identity, Education and Development”, (Tesi Triennale, Soka University of America, 2018),

https://www.academia.edu/37339125/Okinawan_Youth_Identity_Education_and_Development, consultato il 16/06/2020

“Okinawa de no bōgen Murikai ga bundan o hirogeru”, *Mainichi Shinbun*, 21/10/2016.

『沖縄での暴言 無理解が分断を広げる』、毎日新聞、2016年10月21日、

<https://mainichi.jp/articles/20161021/ddm/005/070/035000c>, consultato il 18/02/2020

“Okinawa henkan kyōtei oyobi kankei shiryō”, in Ministry of Foreign Affairs of Japan, 17/06/1971.

『沖縄返還協定及び関係資料』、外務省、1971年6月17日、

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/bluebook/1972/s47-shiryō-4-1.htm#k346>, consultato il 03/02/2020

OKINAWAKEN, “Basic Plan for 21st Century Vision of Okinawa (Okinawa Promotion Plan) (Excerpt)”, in *Kyūshū chihō kankyō jimusho*, 03/2012, <http://kyushu.env.go.jp/okinawa/amami-okinawa/plans/society/pdf/z-10-e.pdf>, consultato il 05/06/2020

OKINAWAKEN, “Chakujitsuna seika ga arawareteiru Okinawa 21 seiki bijon”, (La Visione del 21° secolo di Okinawa mostra risultati costanti), in *Okinawa 21 seiki bijon*.

沖縄県、『着実な成果が現れている沖縄 21 世紀ビジョン』、沖縄 21 世紀ビジョン、

<https://www.21okinawa.com/achievement>, consultato il 09/06/2020

OKINAWAKEN, “Heisei 28 nendo Shimakutōba kenmin ishiki chōsa hōkokusho”, in *Okinawaken*, 03/2017.

沖縄県、『平成 28 年度しまくとぅば県民意識調査報告書』、沖縄県、平成 29 年 3 月、

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/bunka/shinko/simakutuba/documents/kenminishiki.pdf>, consultato il 05/04/2020

OKINAWAKEN, “Kenmin no iken o shūyaku shita ‘Okinawa no shōraizō’”, (La “Futura immagine di Okinawa” che sintetizza le opinioni dei cittadini), in *Okinawa 21 seiki bijon*.

沖縄県、『県民の意見を集約した「沖縄の将来像」』、沖縄 21 世紀ビジョン、
https://www.21okinawa.com/future_images, consultato il 04/06/2020

OKINAWAKEN, “Okinawa 21 seiki bijon kihon keikaku”, (Piano di Base per la Visione del 21° Secolo di Okinawa), in *Okinawaken*, 05/2012.

沖縄県、『沖縄 21 世紀ビジョン基本計画』、沖縄県、平成 24 年 5 月、
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/keikaku/documents/21kihonkeikaku.pdf>, consultato il 06/06/2020

OKINAWAKEN, “Okinawa 21 seiki bijon to wa”, (Che cos’è la Visione del 21° di Okinawa?), in *Okinawa 21 seiki bijon*.

沖縄県、『沖縄 21 世紀ビジョンとは』、沖縄 21 世紀ビジョン、
<https://www.21okinawa.com/about21>, consultato il 04/06/2020

OKINAWAKEN, “Okinawa no sugata (Kensei gaiyō)”, (Profilo di Okinawa (Sommario delle condizioni prefettizie)), in *Okinawaken*, 05/2020.

沖縄県、『おきなわのすがた（県勢概要）』、沖縄県、令和 2 年 5 月、
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/keikaku/documents/okinawa.pdf>, consultato il 15/07/2020

OKINAWAKEN, “Shakai keizai tenbōchi”, (Prospettive socioeconomiche), in *Okinawa 21 seiki bijon*.

沖縄県、『社会経済展望値』、沖縄 21 世紀ビジョン、<https://www.21okinawa.com/frame>, consultato in data 05/06/2020

OKINAWAKEN, “Shōraizō 1 Okinawarashī shizen to rekishi, dentō, bunka o taisetsu ni suru shima”, (Immagine del futuro 1 Un'isola che valorizza la natura, la storia, la tradizione e la cultura di Okinawa), in *Okinawa 21 seiki bijon*.

沖縄県、『将来像 1 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島』、沖縄 21 世紀ビジョン、https://www.21okinawa.com/pas_1, consultato il 04/06/2020

OKINAWAKEN, “Shōraizō 2 Kokoro yutaka de, anzen · anshin ni kuraseru shima”, (Immagine del futuro 2 Un'isola dove le persone possono vivere in pace, sicurezza e tranquillità), in *Okinawa 21 seiki bijon*.

沖縄県、『将来像 2 心豊かで、安全・安心に暮らせる島』、沖縄 21 世紀ビジョン、
https://www.21okinawa.com/pas_2, consultato il 04/06/2020

OKINAWAKEN, “Shōraizō 3 Kibō to katsuryoku ni afureru yutakana shima”, (Immagine del futuro 3 Un'isola ricca di speranza e vitalità), in *Okinawa 21 seiki bijon*.

沖縄県、『将来像 3 希望と活力にあふれる豊かな島』、沖縄 21 世紀ビジョン、
https://www.21okinawa.com/pas_3, consultato il 04/06/2020

OKINAWAKEN, “Transcript for Changing East Asian Security Dynamics and Okinawa: Re-examining the U.S. Force Posture in Japan”, in *Okinawa Prefectural Government – Washington D.C. Office*, 13/03/2018, http://dc-office.org/wp-content/uploads/2018/06/01-EN_East-Asian-Security-Dynamics-Transcription_.pdf, consultato il 21/01/2020

OKINAWAKEN, “What Okinawa Wants You to Understand about the U.S. Military Bases”, in *Okinawa Prefectural Government – D.C. Office*, 03/2018, <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2018/03/E-all.pdf>, consultato il 07/02/2020

OKINAWAKEN BUNKA KANKŌ SUPŌTSUBU – KANKŌ SEISAKUKA, “Heisei 23 nen ‘shukuhaku shisetsu jittai chōsa’ no kekka ni tsuite”, (Dati sui risultati della ricerca sulla struttura ricettiva nel 2011), in *Okinawaken*, 13/07/2012.

沖縄県文化観光スポーツ部—観光政策課、『平成 23 年「宿泊施設実態調査」の結果について』、沖縄県、平成 24 年 7 月 13 日、<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/bunka-sports/kankoseisaku/kikaku/statistics/acmd/documents/h23shukuhaku.pdf>, consultato il 02/06/2020

OKINAWAKEN KIKAKUBU, “Okinawa shinkō ni kansuru kakushu seidotō ni tsuite”, (Informazioni su vari sistemi relativi alla promozione di Okinawa), in *Okinawaken*, 23/10/2019.

沖縄県企画部、『沖縄振興に関する各種制度等について』、沖縄県、令和元年 10 月 23 日、<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/keikaku/reiwa1/documents/07dai4kaisiryōu4-1.pdf>, consultato il 12/05/2020

OKINAWAKEN KIKAKUBU KIKAKU CHŌSEIKA, “(Yoku aru shitsumon) Beigun kichi to Okinawa keizai nit suite”, ((Domande frequenti) Le basi militari americane e l’economia di Okinawa), in *Okinawaken*, 14/01/2020.

沖縄県企画部企画調整課、『(よくある質問) 米軍基地と沖縄経済について』、沖縄県、2020 年 1 月 14 日、<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/yokuaru-beigunkichiandokinawakeizai.html>, consultato il 07/02/2020

OKINAWAKEN KIKAKUBU KIKAKU CHŌSEIKA, “(Yoku aru shitsumon) Okinawa shinkōsaku ni tsuite”, ((Domande frequenti) La politica di sviluppo di Okinawa), in *Okinawaken*, 14/01/2020.

沖縄県企画部企画調整課、『(よくある質問) 沖縄振興策について』、沖縄県、2020 年 1 月 14 日、<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/yokuaru-okinawashinkousaku.html>, consultato il 22/05/2020

OKINAWAKEN KIKAKUBU KIKAKU CHŌSEIKA, “(Yoku aru shitsumon) Okinawa shinkō yosan ni tsuite”, ((Domande frequenti) Il budget di promozione di Okinawa), in *Okinawaken*, 14/01/2020.

沖縄県企画部企画調整課、『(よくある質問) 沖縄振興予算について』、沖縄県、2020年1月14日、<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/yokuaru-yosan.html>, consultato il 22/05/2020

OKINAWAKEN KIKAKUBU TŌKEIKA JINKŌ SHAKAI TOUKEI HAN, “Suikei jinkō”, (Popolazione stimata), in *Okinawaken*, 01/06/2020.

沖縄県企画部統計課 人口社会統計班、『推計人口』、沖縄県、2020年6月1日、https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/estimates/estimates_suikei.html, consultato il 15/07/2020

“Okinawa shinkō kaihatsu keikaku”, (Piano per la promozione e sviluppo di Okinawa), in *Naikakufu · Okinawa sōgō jimukyoku*.

『沖縄振興開発計画』、内閣府・沖縄総合事務局、http://www.ogb.go.jp/-/media/Files/OGB/Soumu/sinkou/shinkou-kaihatu/dai1ji_shinkou.pdf?la=ja-JP&hash=A36E3DC397C9E82229D9B21E270B656008858CDE, consultato il 26/05/2020

“Okinawa shinkō no kore made no torikumi”, (Gli sforzi fatti finora per la promozione di Okinawa), in *Okinawaken*, 19/09/2014.

『沖縄振興のこれまでの取り組み』、沖縄県、平成26年09月19日、<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/kikaku/documents/q6okinawasinkounokoremadenot orikumi260919.pdf>, consultato il 28/05/2020

OPEN SOURCE CENTER, “A Master Narratives Approach to Understanding Base Politics in Okinawa”, in *Okinawa Taimusu*, 05/01/2012, <http://app.okinawatimes.co.jp/documents/cia20180528.pdf>, consultato il 05/01/2020

“Osaka Gov. defends cops who insulted Okinawa anti-base protesters”, *The Mainichi*, 20/10/2016, <https://mainichi.jp/english/articles/20161020/p2a/00m/0na/004000c>, consultato il 13/02/2020

“Protests in Osaka call for withdrawal of Osaka police from Okinawa after ‘dojin’ remark”, *Ryūkyū Shinpō*, 25/10/2016, <http://english.ryukyushimpo.jp/2016/10/27/25944/>, consultato il 15/02/2020

SEIFU TŌKEI, “Chiiki rankingu (Todōfuken dēta)”, (Classifica delle regioni (Dati delle prefetture)), in *e-Stat*.

政府統計、『地域ランキング (都道府県データ)』、*e-Stat*、<https://www.e-stat.go.jp/en/regional-statistics/ssdsview/prefectures/rank>, consultato l'08/06/2020

SEKI Hiroshi, “Jidai no nagare”, in *Taru – no shima uta majimena kenkyū*, 26/12/2005.

関洋、『時代の流れ』、たるーの島唄まじめな研究、2005年12月26日、<https://taru.ti-da.net/e623725.html>, consultato il 06/04/2020

SHIMABUKURO Jun, “‘Okinawa aidentitī’ to Okinawa jūmin no jiko ketteiken”, in nippon.com, 10/07/2015.

島袋純、『「沖縄アイデンティティ」と沖縄住民の自己決定権』、nippon.com、2015年7月10日、<https://www.nippon.com/ja/in-depth/a04501/>, consultato il 10/01/2020

SHIOHIRA Yoshikazu e TAKETOMI Kazuhiko, “Hyakuta shi hatsugen o meguru Ryūkyū Shinpō · Okinawa Taimusu kyōdō kōgi seimei”, *Ryūkyū Shinpō*, 26/06/2015.

潮平芳和、武富和彦、『百田氏発言をめぐる琉球新報・沖縄タイムス共同講義声明』、琉球新報、2015年6月26日、<https://ryukyushimpo.jp/news/preentry-244851.html>, consultato il 05/07/2020

SMITS, Gregory, “Okinawa aidentiti no rekishiteki hendō to sono jijō”, (Cambiamento storico dell'identità di Okinawa e sue circostanze), in *Penn State University*, 09/03/2004.

スミッツ・グレゴリー、『沖縄アイデンティティの歴史的変動とその事情』、*Penn State University*、2004年3月9日、http://www.personal.psu.edu/faculty/g/j/gjs4/Okinawan_Identity.htm, consultato il 02/12/2019

STANFORD UNIVERSITY, “Okinawa no mirai ~ Jizoku kanōna seichō to beigun kichi no arikata”, (Il futuro della crescita sostenibile di Okinawa e la gestione delle forze armate statunitensi), in *Okinawaken*, 14/10/2019.

スタンフォード大学、『沖縄の未来～持続可能な成長と米軍基地の在り方』、沖縄県、令和元年10月14日、<https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/kichitai/documents/su.pdf>, consultato il 19/01/2020

TAKEMOTO Hideki, “Reiwa 2 nendo Okinawa · hoppō kankei yosan”, (Bilancio per Okinawa e i territori del nord nel 2020), in *Sangiin*, 02/2020.

武元英輝、『令和2年度沖縄・北方関係予算』、参議院、2020年2月、https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2020pdf/20200207168.pdf, consultato il 12/05/2020

“‘Tennō messēji’”, (‘Il messaggio imperiale’), in *Okinawaken kōbunshokan*, 25/03/2008.

『“天皇メッセージ”』、沖縄県公文書館、平成20年3月25日、https://www.archives.pref.okinawa.jp/uscar_document/5392, consultato il 04/07/2020

“The Constitution of Japan”, in *Prime Minister of Japan and His Cabinet*, 03/11/1946, https://japan.kantei.go.jp/constitution_and_government_of_japan/constitution_e.html, consultato in data 26/01/2020

TOMIKAWA Moritake, “Okinawa keizai no shōrai to Ajia—Datsu beigun kichi izon no tenbō”, (Il futuro dell'economia di Okinawa e dell'Asia—Prospetti per la dipendenza dalle basi dell'esercito americano), in *Okinawa Prefectural Government – Washington D.C. Office*, 03/2017.

富川盛武、『沖縄経済の将来とアジア—脱米軍基地依存の展望』、*Okinawa Prefectural Government – Washington D.C. Office*, 2017年3月、<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/03/OkinawasEconomicFutureandAsia.pdf>, consultato il 05/06/2020

“Treaty of Mutual Cooperation and Security between Japan and the United States of America”, in *Ministry of Foreign Affairs of Japan*, 19/01/1960, https://www.mofa.go.jp/na/st/page1we_000093.html, consultato il 03/07/2020

TRITTEN, Travis J., “State Dept. official in Japan fired over alleged derogatory remarks”, *Stars and Stripes*, 09/03/2011, <https://www.stripes.com/news/state-dept-official-in-japan-fired-over-alleged-derogatory-remarks-1.137181>, consultato il 15/02/2020

UNESCO, “UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger”, in *UNESCO*, <http://www.unesco.org/languages-atlas/index.php>, consultato il 03/04/2020

UNITED NATIONS, “No. 1832. Treaty 1 of peace with Japan. Signed at San Francisco, on 8 september 1951”, in *United Nations Treaty Collection*, 08/09/1951, <https://treaties.un.org/doc/Publication/UNTS/Volume%20136/volume-136-I-1832-English.pdf>, consultato il 27/01/2020

UNITED NATIONS, “Agreement concerning the Ryukyu Islands and the Daito Islands (with agreed minutes and exchanges of notes). Signed at Tokyo and Washington on 17 June 1971”, in *United Nations Treaty Collection*, 17/06/1971, <https://treaties.un.org/doc/publication/unts/volume%20841/volume-841-i-12037-english.pdf>, consultato il 03/07/2020

“U.S. diplomat accused of disparaging Okinawans - Islanders 'masters of manipulation and extortion' on Futenma issue”, *The Japan Times*, 07/03/2011, <https://www.japantimes.co.jp/news/2011/03/07/national/u-s-diplomat-accused-of-disparaging-okinawans/#.XoDccogzbIV>, consultato il 15/02/2020

Glossario

Daimyō, 大名: Signore feudale giapponese

Dōbun dōshu, 同文同種: “Stessa cultura e stessa razza”, concetto colonialista usato dai burocrati Meiji per espandere i possedimenti del Giappone in Asia

Dojin, 土人: termine che significa letteralmente “persona nata e cresciuta in un dato territorio; persona indigena”, ma che assume anche la connotazione negativa di “aborigeno”

Fukoku kyōhei, 富国強兵: “Paese ricco ed esercito forte”, politica di rafforzamento economico e militare del Giappone attuata con la restaurazione Meiji

Hikokumin, 非国民: Termine altamente spregiativo usato per indicare i cosiddetti “non cittadini”, ovvero coloro che non appartengono al Paese

Himeyuri no tō, ひめゆりの塔: “La torre di *Himeyuri*”, film del 1952 sulle studentesse okinawane che durante la Seconda guerra mondiale si suicidarono con granate a mano fornite dall’esercito giapponese

Hōgen fuda, 方言札: Sorta di amuleto in legno con incisa la parola “dialetto” (*hōgen*), che veniva fatto indossare attorno al collo degli alunni qualora essi usassero il ryūkyūano invece del giapponese

Jidai no nagare, 時代の流れ: “Lo scorrere del tempo”, canzone di Hirayasu Takashi in cui si parla della travagliata storia di Okinawa

Kaikoku, 開国: Riapertura del Giappone alle relazioni internazionali (1854)

Kinwan o mamorukai, 金武湾を守る会: Associazione per la salvaguardia della baia di Kin, fondata nel 1973 contro la costruzione del CTS

Nihongun ni gō kara oidasetari, jiketsu shita jūmin mo ita, 日本軍に壕から追い出されたり、自決した住民もいた: “Alcuni cittadini furono cacciati dai loro rifugi dall’esercito giapponese e altri si suicidarono”, frase presente nei testi scolastici dopo la revisione del 2007

Nihongun ni yotte gō o oidasare, aruiwa shūdanjiketsu ni oikomareta jūmin mo atta, 日本軍によって壕を追い出され、あるいは集団自決に追い込まれた住民もあった: “Alcuni cittadini furono cacciati dai loro rifugi o spinti al suicidio di gruppo dall’esercito giapponese”, frase presente nei testi scolastici prima della revisione del 2007

Nihonjinron, 日本人論: Filone di studi basato sulla teoria dell'omogeneità etnica dei giapponesi

Okinawa mondai, 沖縄問題: “Questione di Okinawa”. Indica i vari problemi della prefettura

Okinawa shinkō kaihatsu keikaku, 沖縄振興開発計画: Piano per la promozione e sviluppo di Okinawa (1972-1981, 1982-1992, 1993-2001)

Okinawa shinkō keikaku, 沖縄振興計画: Piano per la promozione di Okinawa (2002-2011)

Ryokōnin kokoro e, 旅行人心へ: Manuale redatto per istruire i ryūkyūani su come evitare di alludere al loro rapporto con il feudo di Satsuma durante gli scambi commerciali con la Cina

Ryūkyū ōkoku, 琉球王国: Regno delle Ryūkyū, nato nel 1429 e annesso al Giappone nel 1879 come prefettura di Okinawa

Ryūkyū shinpō, 琉球新報: Prima testata giornalistica di Okinawa, fondata nel 1893

Ryūkyū shobun, 琉球処分: “Disposizione Ryūkyū”, evento in cui nel 1879 il Regno delle Ryūkyū fu abolito e annesso formalmente al Giappone come prefettura di Okinawa

Sakoku, 鎖国: Politica di isolamento del Giappone (ca. 1635-1854)

Sanshin, 三線: Strumento a corde tipico di Okinawa

Shimakutōba, しまくとぅば: “Linguaggio dell'isola”, termine okinawano per indicare il dialetto delle isole Ryūkyū

Shimanchu nu takara, 島人ぬ宝: “Il tesoro degli isolani”, titolo di una canzone del gruppo musicale okinawano Begin (2002)

Shintō, 神道: Shintoismo, religione giapponese politeista e animista

Shōgun, 将軍: Capo guerriero giapponese del governo militare a carattere nazionale

Tennō heika banzai, 天皇陛下万歳: “Lunga vita all'Imperatore!”, grido urlato dai soldati e dai civili prima di suicidarsi in battaglia per la gloria del Paese e dell'Imperatore

Tō nu yū kara yamatu nu yū, yamatu nu yū kara amerika yū, amerika yū kara yamatu nu yū.

Hirumasa kawataru kunu uchinā, 唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から大和の世。ひるまさ変わたるこの沖縄: “Dalla Cina al Giappone, dal Giappone

all’America, dall’America al Giappone. Oh, quanto spesso cambiano le cose a Okinawa”, versi della canzone *Jidai no nagare*

Uchināguchi, ウチナーグチ: “Lingua di Okinawa”, termine okinawano per indicare il dialetto delle isole Ryūkyū

Uchinānchu, 沖縄ん人: “Persona proveniente da Okinawa”, in dialetto locale

Yamatunchu, 大和ん人: “Persona non okinawana, proveniente dal Giappone”, in dialetto locale

Ringraziamenti

À ma maman Valérie, car sans ses sacrifices, ses conseils et son amour, je ne serais pas là aujourd'hui. Merci de tout, je t'aime.

A papà Manuel, perché senza di lui non avrei potuto compiere questi bellissimi studi. Grazie mille, ti voglio davvero tanto bene.

A Margot e Mathis, che a volte mi fanno arrabbiare ma saranno per sempre i miei amati fratellini. Vi voglio bene.

A Luca, che sostiene i miei sogni ed è l'artefice dei miei sorrisi migliori perché rende stupendo ogni giorno passato insieme. Ti amo.

Ad Antonella e Piero, che mi hanno accolta come una figlia. Grazie di tutto, vi voglio bene.

Ai miei amici, colleghi di università e non, per tenermi compagnia e rallegrare le mie giornate. Vi voglio bene, grazie.

太郎さんへ。こんなに親切で優しい人に会えて本間に嬉しいですから。

親川支配人さんへ。私は見知らぬ人でしたが、娘として迎えてくれて、すごく助けてくれたからです。

金城さん、島袋さん、田畑さん、後藤さん、キアラちゃん、久保田ちゃん、佐久田さん、村吉さん、牧志さんへ。那覇に住んでいて家族がいなかった時、友達として迎えてくれて、その6か月間をより楽しくしてくれたからです。

Ultime ma non per questo meno importanti, a Maria, Martina e Ada. Siete state le mie compagne di avventure, risate, pianti e cocktail a Naha. Senza di voi quei 6 mesi non sarebbero stati lo stesso. Siete speciali, grazie di tutto.